

# POSC's 2020

社会貢献活動年間報告書



POSC's 2020 社会貢献活動年間報告書

一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構

## 社会貢献活動年間報告書



**POSC** (Pachinko-Pachislot Organization of Social Contribution)  
一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構

〒162-0844  
東京都新宿区市谷八幡町16市ヶ谷見附ハイム103  
TEL 03-5227-1047 FAX 03-5227-1049  
<http://www.posc.or.jp>

一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構



POSC's  
2020

●ロゴマークについて

手をつなぎ、人と人がふれ合い、お互いを思いやる温かい心からの愛がハートとして現れる。シンプルであり、新鮮なイメージを永く心に響かせるデザインであると、2020年1月15日開催の一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構、第1回理事会で決定しました。





- 4 機構の目的と活動
- 6 宮田亮平 代表理事 ごあいさつ
- 7 第15回社会貢献大賞 表彰式

## 8 助成事業

### ● 共同助成

- 8 「依存者へのグループミーティング及び野外活動支援」事業
- 10 「依存症者およびその家族への支援の継続と障がいを持つ依存症者の就労支援」事業
- 12 「パチンコ・パチスロ依存問題を持つ方へ24時間安心できる居場所を提供する」事業
- 14 「回復・相談支援事業の継続活動」事業
- 16 「三重県におけるギャンブル問題を持つ本人のための拠点作りとパフォーマンススタジオの運営」事業
- 18 「子どもの自己肯定感を高める『すみれ学級ハレの日向上プロジェクト』」事業
- 20 「0歳児～3歳児とその親との愛着を深めるアート・ふれあい・交流」事業
- 22 「こども公園フェス福井」事業
- 24 「飛騨の宝物(伝統文化、自然)を子育てに活かし、地域ぐるみの子育て支援環境を作る」事業
- 26 「フィッシュシェアリング」事業
- 28 「リュウプロジェクト・ヘッドネーションプロジェクト」事業
- 30 「星空ミュージアム」事業
- 32 「感染症発生時における避難所体験」事業
- 34 「依存の問題を抱える人を対象とした生活の改善に重点を置いた相談・支援」事業

### ● 一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(つながり・かかわり)

- 36 「『在日外国人児童が描く私の好きな日本』交流」事業
- 38 「『2020パラアートTOKYO』第7回国際交流展」事業

### ● 一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(みちびき・はぐくみ)

- 40 「地域で支える、不登校児童への包括的支援」事業
- 42 「ハートtoハート事業部 胎教・子育てスクール」事業

### ● 一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(やすらぎ・いたわり)

- 44 「スマイルごはんプロジェクト」事業
- 46 「函館の子どもたちの健康と未来を考える食育プロジェクト」事業

### ● 一般助成 災害復興コミュニティ支援

- 48 「東北大学生による被災地に寄り添うプロジェクト」事業

## 50 顕彰事業

### ● 社会貢献大賞

- 50 石川県遊技業協同組合ならびに同県金沢支部 「医療用防護服およびオゾン紫外線除菌機器の寄贈」事業

### ● 最優秀賞

- 52 《都府県方面部門》 福岡県遊技業協同組合  
「第13回こども絵画コンクール」事業
- 54 《支部組合部門》 島原半島遊技場組合(長崎県遊技業協同組合)  
「安全・安心まちづくり」事業
- 56 《組合員ホール部門》 香川県 愛染興業株式会社  
「子供達による瀬戸内海の環境維持改善活動の継続」事業

### ● 優秀賞

- 58 《都府県方面部門》 宮城県遊技業協同組合  
「震災後の生活弱者等への支援及び地域の安全安心の確保に向けた支援活動」事業
- 60 《都府県方面部門》 秋田県遊技業協同組合  
「コロナ感染予防対策(秋田市小中高全児童へマスク42,000枚を寄贈)」事業
- 62 《都府県方面部門》 福島県遊技業協同組合連合会  
「子どもの見守り活動・なりすまし詐欺撲滅キャンペーン(福島県警察との共催)」事業
- 64 《支部組合部門》 古川地区遊技業組合(宮城県遊技業協同組合)  
「子どもの未来のための大崎市内小学生全員への図書カード寄贈」事業
- 66 《支部組合部門》 船橋遊技場防犯組合(千葉県遊技業協同組合)  
「『災害に強いまちづくり』を支援～災害避難体験VR機材の寄贈～」事業
- 68 《支部組合部門》 鳥羽支部(三重県遊技業協同組合)  
「支部内全保育所・園に対する保育行政支援活動」事業
- 70 《組合員ホール部門》 札幌方面 株式会社合田観光商事  
「新型コロナウイルス感染症クラスター発生医療機関への支援」事業
- 72 《組合員ホール部門》 静岡県 株式会社ABC  
「児童養護施設等退所児童応援」事業
- 74 《組合員ホール部門》 熊本県 岩下兄弟株式会社  
「熊本豪雨災害からの復興活動『がんばるばい人吉』」事業

- 76 第16回社会貢献大賞 受賞一覧

- 76 募集と審査の結果

## 77 社会貢献活動全国データ編

- 78 2020年社会貢献・社会還元の実施状況調査結果
- 138 賛助会員一覧
- 139 POSCの活動この1年
- 140 一般社団法人 パチンコ・パチスロ社会貢献機構 組織図
- 142 定款
- 144 編集後記

## 平和で住みよい社会づくりに貢献していくために

20世紀の後半から、企業やNPO、NGOなどを含む各種団体、個人の社会貢献活動が注目されるようになってきました。CSR(Corporate Social Responsibility=企業の社会的責任)、フィランソロピーといった言葉が人口に膾炙し、その価値が社会に広く認知されつつあります。その背景にあるのは、社会全体の持続的発展なくしては、企業も、個人も存在し続けることはできないという認識です。市民一人ひとりが積極的、主体的に社会に参加し、企業や団体がその活動を促進、支援していくことは、文化的で活力ある社会の形成と向上に欠かせない要素です。

一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構は、社会貢献活動が社会を支える極めて重要な活動であるという観点のもと、遊技業界ならびに民間や公的機関などと連携、協力しながら、パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む団体や研究機関に対する支援を中心に青少年の健全育成、平和で住みよい社会づくりなどの社会貢献活動の推進、またそれらの広報を目的に発足しました。

全日本遊技事業協同組合連合会の傘下にある都府県方面遊技業協同組合、支部組合そして組合員ホールは、これまでも全国の各地域で、様々な社会貢献・社会還元活動に取り組んできました。その活動は、社会福祉や青少年育成関連団体への援助や寄付を始め、授産施設の商品購入、町の清掃活動、子どもを犯罪や事故から守る活動、地元行事への参加や支援、老人ホームの慰問など、多岐にわたっています。当機構は、これらの活動の継続発展を支援するとともに、それらを集約し、未来に向かって一つの力として積み上げていくためのネットワークの結節点として機能しています。

日本の社会において、今後、ますます社会貢献の重要性が増していくことは間違いのないことと思います。当機構では、パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決、子どもの健全育成支援や災害復興支援活動への助成事業、社会貢献活動に真摯に取り組んでいる会員の顕彰事業、社会貢献のあり方や現状を考える社会貢献フォーラム、全国で業界が実施している社会貢献活動の内容や規模を紹介する報告書の作成などを通じ、21世紀の社会や時代の要請に応えるような、広い視野と深い洞察にもとづいた夢と実のある社会貢献を展開して参りたいと考えております。

## 一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構の 主な事業内容

### 助成事業

助成事業は、当機構の根幹事業です。毎年、パチンコ・パチスロ依存問題の解決や予防に取り組む事業、子どもの健全な成長を願う事業、災害の被災者を元気づける事業などに対し、助成を行っています。

### 依存問題への 取り組み

パチンコ・パチスロ業界をあげて依存問題に取り組む助成事業やフォーラムの実施、報告書の作成などを通して社会に貢献します。

### 顕彰事業

遊技業界が全国各地で実施している各種の社会貢献活動のなかから、社会的有用性、継続性、波及効果などを基準に、とくに優れた活動を選定して顕彰しています。年間で最も優れた活動には、「社会貢献大賞」が授与されます。

### 社会貢献 フォーラムの実施

時代や社会の要請に合わせ、社会貢献や地域貢献の方向やあり方も変化していきます。どのような活動があり、どのような課題を抱えているのかなど、社会貢献の現状と可能性を考えるフォーラムを企画し、実施しています。

### 活動報告書の 作成・配布

助成事業と顕彰事業の詳細な内容報告のほか、全国で業界が実施している社会貢献活動の内容、拠出金額などをデータ化した報告書を毎年作成し、関係機関や全国の図書館などに配布し、業界による社会貢献活動の理解向上に努めています。

## 社会貢献活動の「継続そして前進」を旗印に

一般社団法人  
パチンコ・パチスロ社会貢献機構  
代表理事

宮田 亮平



このたび、一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構の新代表理事として任に就かせていただくことになりました宮田亮平です。たいへん重責のある職務につき、身の引き締まる思いですが、皆様のご協力を得まして時代のニーズに適した社会貢献活動を進められますよう、精いっぱい努力する所存であります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

昨年来、新型コロナウイルスが世界中で猛威を振っています。日本も同様で、昨年の緊急事態宣言の発出により、遊技業界ではホールの営業自粛、感染対策など、甚大な影響を受けました。当機構においても、社会貢献大賞表彰式や社会貢献フォーラムなどの恒例事業が中止に追い込まれたうえ、当機構が助成した事業にも影響が出ました。

しかし、困難な状況下にあっても、地域社会の課題克服やコミュニティ活性化のために様々な活動に地道に取り組む団体があります。また、遊技業界においても、大きな自然災害が起きたときにホール内外の施設・機能を活用した避難・復旧支援の協定を自治体などの関係機関と結ぶ組合も各地に増えてきました。このように遊技業界が地域社会に貢献できることはすばらしいことだと思います。

さて、当機構は前身の「全日本社会貢献団体機構」時代を含め、16年目を迎えることになります。その間、学術・文化の振興、命を大切にする研究や活動、子どもの健全育成などの分野で活動する団体に対する助成、さらに2011年以降は東日本大震災を始め、日本各地で続発する自然災害の復旧・復興支援に取り組む団体への助成、また業界の仲間が都府県方面・支部・ホール単位で実施する優れた社会貢献活動に対する顕彰を行ってきました。それに加え、2019年からは業界として喫緊の課題ともいえるパチンコ・パチスロ依存問題の予防や解決に取り組む事業・研究への助成も開始しました。

今後も当機構では、よりよい社会の構築に少しでも貢献・寄与できるよう、各種事業の継続、そして前進をモットーに取り組んでいく所存です。皆様のより一層のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

## 第15回社会貢献大賞 表彰式

例年は7月に大賞表彰式および助成事業助成金贈呈式を行ってきたが、2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となりました。「社会貢献大賞」に選ばれた三重県遊技業協同組合のほか、都府県方面部門、支部組合部門、組合員ホール部門の各最優秀賞及び優秀賞には、全日本遊技事業協同組合連合会の全国理事会の場で表彰状を授与しました。

### 第15回社会貢献大賞



三重県遊技業協同組合  
「不登校児童が通うフリースクール「三重シュレ」支援」事業

### 都府県方面部門 最優秀賞



大分県遊技業協同組合  
「自動警告・通話録音機」付きの特殊詐欺被害防止用の電話機の寄贈」事業

### 都府県方面部門 優秀賞



大阪府遊技業協同組合  
「絵画やダンスパフォーマンスを通じた障がい者の社会参加等支援」事業

### 組合員ホール部門 最優秀賞



宮城県遊技業協同組合 扇屋商事株式会社  
「交通死亡事故抑止及び犯罪被害抑止活動をはじめとする総合的かつ継続的な社会貢献活動の推進」事業

共同助成(宮城県遊技業協同組合)

## 「依存者へのグループミーティング及び野外活動支援」事業

### ミーティング、趣味、ボランティアなどを通じて生活リズムを再建し、社会復帰への基盤を築く

東北の最大都市、仙台市で20年にわたって路上生活者や生活困窮者の支援に取り組んできた団体が、パチンコ、パチスロなどの依存症に陥っている生活困窮者に対し、GAミーティング、趣味を増やすレクリエーション、インセンティブ性のある有償清掃ボランティア活動を提供し、依存症克服と自立を支援する活動を実施。



生活のリズムを取り戻すため、定期的にミーティングやレクリエーションを開催



### 行動依存で生活が破綻した困窮者に生活リズムを取り戻すための活動を提供

「仙台夜まわりグループ」は、2000年に仙台市内で路上生活者の支援活動を開始し、2004年にNPO法人格を取得した団体である。路上生活者や生活困窮者の自立に向け、あらゆる支援を包括的に実施しているが、特に東日本大震災後は被災者支援も含めて実施し、周辺住民への炊き出し、避難所への物資の提供・炊き出しなど、震災の影響による生活困窮者への支援活動を総合的に行っている。また、定期的に仙台市の担当部署との情報交換や懇談会を行うなど、官民一体となった生活困窮者支援活動を構築できるよう尽力している。

支援している人数は年間100人以上になるが、活動を続けるなかで、ホームレスなどの生活破綻した人の多くは、疾病、障がい、依存などが原因であり、中でもパチンコ、

パチスロなどの行動依存が群を抜いて多いことに気づいた。依存が重度と思われた場合には依存症治療専門医に繋がっているが、病院での治療はGA(ギャンブラーズ・アノニマス)ミーティングと月数回の問診が中心で、デイケアもなく、その他の時間は自助努力に任されている。そのため、どうしても生活リズムの荒廃が見られた。

そこで同団体では、POSCからの助成を活用して、行動依存の問題を抱えた人々の生活リズムの再建を基本とする事業を企画した。定期的集まり、GAミーティングを含む関連支援として克服すべき課題を考えたり、趣味に没頭したり、就労意欲も減退させないために有償ボランティアをしたりしながら、生活リズムを取り戻すための活動を実施した。この事業は同団体が運営する簡易宿泊所の入居者やその卒業生などの生活困窮者が主たる対象だったが、活動に参加した人の数は延べ800人弱となった。

### ミーティング・趣味・ボランティアで本人の自覚を促して生活を見直す

具体的な活動は、以下の3つが主なものであった。

①GAミーティング(第2火曜日午後1時~3時、月1回/参加者延べ83人):依存当事者同士や克服卒業生が心の扉を開いて話し合い、克服のきっかけや依存症の本質を知り、どのように克服するかを学ぶ。

②室内/野外レクリエーション(第4火曜日午後1時~3時、月1回/同96人):温暖な場合は野外で軽運動をし、極暑・厳寒期には室内での趣味活動を行うことにより、時間の使い方を体験する。

③市内街路/公園などの清掃活動(第2、3、4土曜日午前9時~10時、月3回/同612人):就労が制限された治療期間中に定期的に体を動かし、対価を得て、就労意欲を失わないための有償ボランティアで自分は社会の一員として役に立つ活動をしているという自信を得ていくことを目的として実施する。

「依存症対策の重要性については以前から意識していましたが、法人予算に余裕がなく、自費持ち出してGAミーティングのみを長年行っていました。POSCの助成を得て各当事者の生活の見直し、生活リズムの取り戻しなどの支援活動を本格的に開始できました。特にインセンティブを持たせた有償ボランティア活動は、単調になりがちな生活に毎週決まった時間に体を動かすという生活リズムの取り戻しに大きな役割を果たしたと思います。依存症との戦いは、もちろん医学的な治療は必要ですが、自分の生活や社会との関係性などを本人が自覚的に考え直す必要があります。今回の事業は、そうした意識づけに貢献したのではないかと考えています」と、担当者は振り返る。

### 宮城県遊技業協同組合より

依存症克服と自立を支援する活動に賛同させていただきました。今後も社会的な課題に対し積極的に支援していきたいと思っております。



就労意欲を減退させないために、清掃活動など有償ボランティアを実施



助成団体:特定非営利活動法人 仙台夜まわりグループ

<http://www.yomawari.net/>



### POSCのギャンブル依存対策および助成に敬意を表します

生活困窮の一因である依存症は、本人自身の問題として支援からも目を離されてきた現状がありました。二度と困窮へと戻らないためにも、落ち着いた環境で克服への歩みが必要です。いただいた助成はGA活動ほか、楽しくお互いを励まし合いながらのレクリエーションやインセンティブのあるボランティア活動に役立てています。

特定非営利活動法人 仙台夜まわりグループ  
理事長 今井 誠二さん

共同助成(兵庫県遊技業協同組合)

## 「依存症者およびその家族への支援の継続と障がいを持つ依存症者の就労支援」事業

### 依存に苦しむ当事者や家族への継続的支援で回復や社会復帰への道を開くために尽力

薬物依存やアルコール依存に苦しむ人々の回復支援を行ってきた神戸市にある民間リハビリテーション施設では、最近増えつつあるといわれているギャンブル依存の問題にも取り組み始めた。コロナ禍で相談機関が停止するなかでも地道に活動を続け、再開した家族会には悩みを抱えた多くの依存症者の家族や関係者が多数参加した。



依存症を抱えた家族や友人、恋人などに対する相談会の開催を告知するチラシ



回復が進んだ依存症者に対して就労の場を提供するため実施した沖縄タコスの出張販売を告知するチラシ

#### 当事者に加え、家族や関係者からの相談支援、家族支援にも力を入れる

「神戸ダルクヴィレッジ」は、2016年に神戸市において設立された依存症民間リハビリテーション施設で、薬物、アルコール、ギャンブルなどの依存症者、その家族、および薬物依存の問題を抱えるあらゆる関係者に対して、回復プログラムや相談を通じて包括的に回復や社会復帰のための支援をする事業や、広く一般を対象にした薬物依存症に関する啓発事業、また法務省や厚生労働省などの関係機関において依存症教育や講演活動などを行っている。

人口や都市の規模にかかわらず、兵庫県内には薬物やアルコール依存症の家族や関係者への支援の場所がほとんど存在しないことが同団体のそもそもの開設の動機

だが、そうした人々への支援を続けるなかで、最近ではギャンブル依存の問題を抱える家族からの相談が増えてきていた。そこで同団体では、2019年度、POSCの助成を活用して、パチンコ、パチスロ依存症者の生き方の再構築をサポートするための様々な活動にも取り組み始めた。

さらに2020年度、依存症当事者と同じくらいの数だけ、その家族や関係者、および支援者からの相談が多く寄せられていることから、相談支援業務と家族支援業務に力を入れて取り組むことを始め、また、神戸市だけではなく、同じ兵庫県内の尼崎市や姫路市での出張相談を継続的に行うことにした。そうした支援に加え、回復が進んだ依存症者が地域で就労するのに大きな困難を抱えている現状から、就労支援および就労の場所を作ることを目的に、神戸市JR三宮駅近くの神戸ソーシャルキッチンで沖縄タ

コスの出張販売を実施したほか、当事者支援の一環として、地域の人たちに頑張る姿を見てもらうために、日頃から取り組んでいる太鼓演奏(エイサー)の練習を公開した。

#### コロナで多くの家族会が閉鎖されるなか再開にこぎつけた「神戸ダルク家族会」

こうした活動などにPOSCの助成が役立てられているが、2020年度は特に新型コロナウイルス感染拡大の影響により、行政機関の多くが停止するなか、どこにも相談することができずに困っている方のために、同団体では夜間も電話相談を継続して行ったこともあり、これまでの倍以上の相談が同団体に寄せられた。

また、家族会や家族の自助グループの多くも閉鎖されていたことから、同団体が行っている家族会が命の救いだと、多くの方々が参加した。この家族会は「神戸ダルク家族会」という名称で、2017年4月にスタートしたアットホームな居場所としての家族会だが、毎月第4日曜日の13時～16時に神戸市勤労会館で開催され、依存の問題を抱える家族、恋人、親族、関係者であれば誰でも参加できる。2020年

度は、コロナ禍の中で6月に再開されたが、その運営資金としてPOSCの助成が活用された。

「コロナ禍で様々な活動ができなくなったり、どうしているかわからなくなったりする不安もあった2020年度でしたが、当法人の活動が始まった頃から支援して下さる団体との精神的なつながりや支え合いの声掛けがあったことで、不安を取り除くことができました。また、太鼓の練習などは、かえって時間が多く取れたため、依存症者の体力維持やストレスの軽減に大いに役立ちました。依存の問題を抱える家族に直接支援することや、相談機関が停止していた時期の唯一の相談窓口として機能したことや、就労の場所作りなどは、POSCの助成があったおかげです」と、代表者は2020年度の活動について話していた。

#### 兵庫県遊技業協同組合より

当事者だけでなくその家族など包括的に支援している活動に賛同させていただきました。今後も継続して依存問題に取り組んでいただきたいと思います。



タコス販売会には多くの人々が訪れた



太鼓の練習は依存症者の体力維持やストレスの軽減に役立った

助成団体:一般社団法人 神戸ダルクヴィレッジ

<http://www.kobedarc.org>



#### 金銭的にも精神的にも支えられていることを強く感じています

2019年度、2020年度と続けて支援していただいたことで、金銭的な面はもちろん、精神的にも支えられていることを感じながら、安心して事業に取り組むことができています。また、冊子などを通じて、パチンコ業界の方々が依存症者への支援に対する理解を示してくださっていることを拝見し、熱い思いを持っています。

一般社団法人 神戸ダルクヴィレッジ  
代表理事 梅田 靖規さん

共同助成(沖縄県遊技業協同組合)

## 「パチンコ・パチスロ依存問題を持つ方へ 24時間安心できる居場所を提供する」事業

### 安心して働ける場所と寝泊まりできる場所の 確保・提供により依存問題を抱える人々を支援

沖縄県宜野湾市で依存の問題を抱える人々の社会復帰を支援する活動を行っている団体がある。コーヒーの木の栽培やコーヒーの販売、カフェの運営と就労支援の幅を広げてきたが、2020年は依存から立ち直ろうとする人々が安心して生活できるよう、シェアハウスを確保し、その運営を開始した。



依存問題などを抱える人々の就労の場となっているカフェ



助成金で購入したエスプレッソマシン

### コーヒーの栽培・販売、カフェに加え 安心して暮らせる宿泊施設の提供

2013年に沖縄県より就労継続支援B型事業所の指定を受け、「ワーカーズホーム」を運営している「一般社団法人むら」。事業所の開設当初から、ギャンブルを始め、アルコール、薬物などの依存問題を抱えた人々に多く利用されている。

そうした利用者と一緒に約200坪の農園でコーヒーの木を130本ほど栽培しているが、それだけでは収量が少ないため、業者から生豆を購入し、選別・焙煎・袋詰め・販売を行っているほか、2019年12月にはPOSCの助成で宜野湾市にカフェをオープンし、利用者に就労の機会と場所を提供している。こうした活動を通して、依存の問題を抱える人に地域社会での役割と居場所を確保し、あわせて日々の悩みごとなどの相談にも応じ、利用者が安心して

通所できるような環境を整えている。

同団体は、さらに2020年にPOSCの助成を活用し、依存問題を持つ方々が就労だけでなく、安心して暮らせる場を確保できるよう、寝泊りが可能なシェアハウスを開設し、その運営をスタートさせた。

沖縄県では、依存問題の治療にあたる医療機関は本島の中部や南部にあり、それ以外の地方や離島の人々は地元を離れて入院しているが、退院後に地元に戻ると依存問題が再発する不安があるため、退院しても医療機関に近い場所での生活を希望する人が多い。就労の場としてワーカーズホームへの問い合わせや見学も少なくなかったが、これまでは就労の場は提供できても、住む場所がないため、断らざるを得なかった。しかし、シェアハウスを確保できたことで、今後はそうした方々に就労だけでなく、安心して暮らせる場を提供できるようになった。

### 使わなくなった家を提供してくれる 支援者が現れてシェアハウスを開始

シェアハウスは2020年7月から物件探しを始め、2021年2月に物件契約を済ませ、2ヵ月かけて準備を行い、4月1日に利用者の入居を開始した。また、利用者の就労支援として、2020年9月にはエスプレッソマシンを購入し、利用者に対する使い方の講習を行った。マシンはカフェで稼働中であり、利用者はそれを使ってコーヒーを入れ、訪れたお客さんに提供している。

物件探しを始めた当初は、依存問題や障がいをもつ方々が使用することを了承してくれるところがなかなか見つからずに困ったが、確保できた物件は両親が施設入所したため使用しなくなった家を有効活用してほしいと市役所へ連絡があったもので、市役所から同団体へ打診があった。

「依存問題の治療のため、県外のリハビリ施設に入所していた方が、今年の4月から入居していますが、『リハビリは長かったが地元に戻ってくることができて本当にうれし

い。ワーカーズホームのシェアハウスがなかったら戻ってることができなかった』と話しています。また、支援者からは『ぜひ入居させたい方がいるので、開設してくれて助かる』、見学に訪れた方からは『今までイメージできなかった退院後の生活に光が見えたような気がする』、そして家主さんからは『住居に困っている方々のお役に立ててうれしい』といったお声もいただきました。今後も、沖縄の方々を始め、依存問題に悩む方々に必要とされる場所を目指し、事業所やシェアハウスの運営を続けていきたいと、代表理事の横山さんは話してくれた。

### 沖縄県遊技業協同組合より

依存問題からの回復のために職場だけでなく住居も提供するという、新たな試みにサポートさせていただきました。



依存問題を抱えた人が安心して暮らせるようオープンしたシェアハウス



助成団体: 一般社団法人 むら ワーカーズホーム

<http://www.muraokinawa.org>



### 依存の問題を抱える人々が安心して暮らせる場を提供したい

「依存の問題を持っている」というだけで部屋を借りられず、グループホームへの入居を断られる現在、少人数ではあるが、そういった人々が安心して生活できる場所を提供できるようになりました。今後も継続してパチンコを始めとした依存問題を持つ方々が「普通に暮らせる」ための支援を行っていきます。

一般社団法人 むら ワーカーズホーム  
代表理事 横山 順一さん

共同助成(長崎県遊技業協同組合)

## 「回復・相談支援事業の継続活動」事業

### 依存を克服した人の就業支援プログラムとして アップルパイ製造販売に向けた準備に取り組む

薬物・アルコール依存症者に加え、ギャンブル依存に苦しむ人への回復支援、家族・援助者などの相談支援を主たる活動としてきた長崎市の団体が、依存問題を抱える利用者や依存からの回復者の就業の場を確保することを目的に、アップルパイの製造販売に乗り出すことを決定した。そして2020年から、その準備に取り組んできた。



依存を克服した人の就業支援としてアップルパイ製造販売を準備



#### 就労支援プログラムに重点を置き、アップルパイの製造販売を行うことに

「ちゅーりっぷ会長崎ダルク」は、民間団体として1999年より20年にわたり依存症者の回復支援や依存問題を抱える方の相談支援を中心に活動を行ってきた。また、依存問題を様々な形で社会に周知するための普及・啓発活動にも取り組んでいる。2016年には、プライバシーを考慮し、相談者が安心して話ができる落ち着いた環境を整えた「眼鏡橋相談室」を長崎市内に開設、また2019年には県北の中心都市である佐世保市内に出張室も開設し、主に薬物を中心に回復支援と相談支援を行ってきた。さらに同団体ではギャンブル等の依存の問題に対する取り組みも始め、2016年9月にはギャンブル依存症回復施設「グラフ・ながさき」を開設した。

2020年度は、こうした活動の継続と、さらなる飛躍を目指していたのだが、折からのコロナ禍で回復施設の通常

プログラムが普段通り提供できなくなり、回復支援対策として5ヵ所あるナイトケアハウスにインターネット環境を整備し、リモートによるプログラムに切り替えるなどの対応を余儀なくされた。そのような状況下で、従来の形での回復相談支援事業の継続が困難になったため、同団体では就労支援プログラムに重点を置くこととし、アップルパイの製造販売を行うことにした。

依存問題を抱えた人は、社会になじむことが苦手な人が多く、依存問題をクリアしても次のステップとして地域に出ていくことがなかなかできないのが現状である。アップルパイの製造販売を通して、地域の人たちと徐々に触れ合いながら、人と関わることの喜びを感じてもらい、生きることの楽しさを感じてもらおうのが目的だが、それは依存問題を抱えた人の社会貢献にもつながると考えた。

#### 依存問題の普及・啓発にもつながる回復者の社会参加の機会を増やす

具体的な活動としては、材料調達や製品開発コストなどの検討なども含め、アップルパイの製品開発を外部に委託するとともに、アップルパイ製造のための資器材(サンプル用材料、オープンなど)を用意し、同団体の施設利用者と試作品の製造開発に取り組んだ。あくまでも就労支援が目的のため、当事者たちが働きやすい環境作りとやる気を保ち続けることができるよう、施設側と利用者が寄り添いながら作り上げることを大切にしたい。

「コロナ禍の状況の中で、施設の職員と利用者で何か社会に向けた活動ができないかと模索して、アップルパイ製造販売の事業に辿りつくことができました。アップルパイの製造は、施設側も利用者もまったく初体験であり、手探り状態で試行錯誤を繰り返すなか、うまくいかないことも多々ありましたが、おいしいアップルパイを作り上げようと、みんながとても生き生きとしており、やる気が上がっているのが

伺えました。そうした達成感が本人の自己肯定感にもつながります。まだまだしっかりした形にはなっていませんが、POSCの助成があったからこそ、こうして夢と希望のある活動ができていることに感謝しています」と、事業担当者は話す。

こうした形で依存問題をクリアした当事者が社会参加する機会が増え、その活動が一般の方々にも広く知られるようになっていけば、パチンコ・パチスロなどの依存問題の普及・啓発にもつながっていくと考えられる。同団体と関係がある方々からは、「ワクワクする事業で楽しみにしています」と、応援の声をいただいているという。

#### 長崎県遊技業協同組合より

依存問題からの回復のために欠かせない、就労の場を作るというチャレンジに協力させていただきました。新たな事業の成功を祈っています。



依存問題を抱える利用者はアップルパイ作りに試行錯誤しながらも、モチベーションのアップや生きがいを感じるようになった



助成団体: 特定非営利活動法人 ちゅーりっぷ会 長崎ダルク

<http://grafnagasaki.net/>



#### 今後も依存症者の大切な回復の場として活動を続けていきます

依存の問題は、早期に介入し、支援することが望ましいのですが、現場の問題としてスタッフの育成や受け入れる場所など、今後クリアしていかなくてはならない課題はたくさんあります。日本は先進国でありながら、本人の自己責任論と依存症に対する情報の少なさから、いまだに多くの偏見を乗り越えられていません。

特定非営利活動法人 ちゅーりっぷ会 長崎ダルク  
代表理事 中川 賀雅さん

共同助成(三重県遊技業協同組合)

## 「三重県におけるギャンブル問題を持つ本人のための拠点作りとパフォーマンススタジオの運営」事業

### 伊勢志摩地域に依存問題からの回復支援拠点を 作るとともに関係機関とのネットワークを構築

ギャンブル、アルコール、薬物など、様々な依存からのリカバリーに携わってきた「三重ダルク」が、近年、パチンコやパチスロなどののめり込みに関する相談が増加している伊勢志摩地域に新たな回復支援のための拠点を整備し、その広報のための準備と今後の支援活動の発展のための関係機関とのネットワークづくりを行なった。



助成金の一部を活用し機関紙「ニュースレター」とホームページを新たに制作

### 依存問題の支援施設の空白地帯に 拠点を作って支援活動を拡充する

1999年に、三重県津市において薬物依存からの回復を目指す当事者活動としてスタートした「三重ダルク」。現在は依存者(アルコール・ギャンブル・薬物・窃盗癖など)に対する電話やメール、直接来所での相談、回復支援に365日体制で取り組んでいる。とりわけ、障がい福祉サービス事業(グループホーム・自立訓練〔生活訓練〕・就労継続B型事業所)の運営を通し、依存の問題を抱えた人の安全な生活の確保、問題の振り返り、解決法の獲得、就労・自立に必要な社会スキルの獲得を目指しているほか、メンバーおよびスタッフの学習(高校・大学・専門学校・国家資格取得)を推進している。

三重県は主要な都市が県内に広く分散しているが、依存症関連の問題に対する支援に関しては、県庁所在地

である津市に集中し、それ以外の地方在住者には支援を受けにくいという特徴があった。とりわけ近年、パチンコやパチスロなどののめり込みに関する相談が激増しており、特に伊勢志摩地域においてその傾向が顕著であったが、相談件数の多さにもかかわらず、支援が届きにくいという状況にあった。このため同団体では、志摩市および周辺地区に在住する依存問題を抱える人たちへの支援体制の整備を行いたいとかねがね考えていたが、2020年度、POSCの助成を受け、志摩市内に拠点となる物件を借り、必要ときに必要な相談が行えるような体制を整えた。

また、伊勢志摩地域に支援拠点ができたことや同団体が広くギャンブル関連問題の支援を行なっていることを周知するために、年3回発行する機関紙『ニュースレター』の制作、ホームページの刷新などにもPOSCの助成の一部が活用された。

### 地域の中核病院や周辺自治体との 連携構築で今後の活動に繋げる

今回の助成は、本来、外部講師の招聘と回復支援のための既設のパフォーマンススタジオ「漂流劇場」(津市)の改装に充てる予定であったが、コロナ禍の状況で計画の一部を変更した。また、こうした活動と並行し、伊勢志摩地域の関係機関(志摩市民病院、志摩市役所など)とのネットワークづくりにも取り組み(志摩市への往復約50回、延べ40名参加)、次年度以降の活動の準備を行なった。

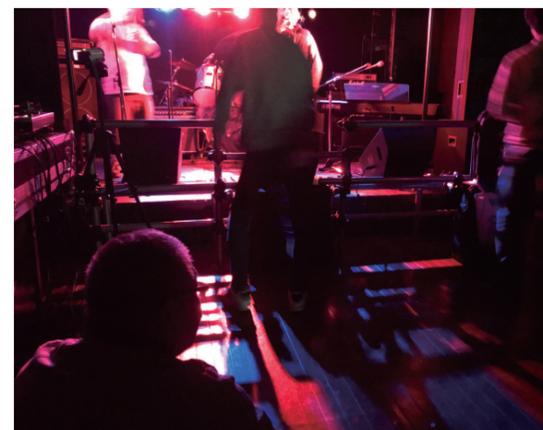
「伊勢志摩地域には、すでに5年間ほどアウトリーチ(訪問支援)を行なっており、活動拠点の確保は長い間望まれてきたことでしたが、予算的なことから果たせずにいました。今回、POSCから助成を受けられることになり、活動の足がかりを得られたことは大きな喜びでした。すでに相談者も繋がっており、今後さらなる活動の発展が期待されることです。また、志摩市民病院との協力関係、当該エリアの市町村との連携が図られたことも本事業の大きな成

果です。その結果、「地域共生」をテーマにした志摩市の福祉イベント(コロナ緊急事態宣言により延期)における基調講演を依頼されるなど、地域ネットワークの一員として認知されることができました。今後予定されている社会参加のためのプロジェクトについても、市町村から期待の声が上がっています」と、代表者の市川さんは話す。

依存問題からの回復支援拠点となる不動産物件を探す際、事業主体が「三重ダルク」であることを伝えると断られたり、借りられない物件があったりして、依存の問題を抱える当事者が置かれている現実の状況を垣間見ることもあったという。

### 三重県遊技業協同組合より

支援が届きにくい地域での活動に賛同させていただきました。今後も活動の発展に期待しています。



改装を予定していたパフォーマンススタジオ「漂流劇場」



伊勢志摩にオープンした新しい拠点「LABO」

助成団体:特定非営利活動法人 三重ダルク

<https://miedarc.com/>



### 志摩地域に活動の足がかりを得られたことは大きな喜びです

2020年度の助成に対し、心より感謝申し上げます。私たちのプロジェクトは既存の支援活動とは異なり、当事者主体の取り組みを目指しています。こうした制度化されていない取り組みに対し、今後も継続した支援をお願いするとともに、社会変革のパートナーとしてくださることを望みます。

特定非営利活動法人 三重ダルク  
代表 市川 岳仁さん

共同助成(大分県遊技業協同組合)

## 「子どもの自己肯定感を高める『すみれ学級ハレの日向上プロジェクト』」事業

### 子どもたちにとって居心地のよい場所になるよう 子ども食堂の質的向上をスタッフと目指す

子どもの相対的貧困率が高い日本で、子どもたちを支えるために各地で子ども食堂が運営されている。しかし、それが子どもたちにとって本当に居心地のいい場所なのかどうか、検討する必要がある。大分県で子ども食堂に取り組む団体が、子ども食堂のイベントを盛り上げ、子どもたちが大切にされていると感じてもらえる内容に挑んだ。



大分県内の7ヵ所で子ども食堂を運営する「すみれ学級」



季節の行事、誕生日会等、子ども食堂での「ハレの日」をレベルアップするための事業に取り組んだ

#### 子ども食堂の「ハレの日」のイベントを レベルアップするための共通理解を

「すみれ学級」は、食事の提供、学習支援、居場所づくりの3つを柱として、大分県内の7ヵ所(大分市4ヵ所、別府市2ヵ所、豊後大野市1ヵ所)で子ども食堂を運営する団体で、2019年度には、開催日数1,205日、提供食事数1万4,000食という実績を持つ。

2019年末、同団体の事業担当者が各教室を訪れたところ、教室によっては極めてウェルカムな態度で子どもたちに接するところがあれば、規律優先に終始し、誕生日会でも黙々とケーキを食べさせるだけのところもあり、その落差にショックを受けたという。

子ども食堂が、細々と食事を提供するだけの場ではなく、学校でも家庭でもない、子どもの第3の居場所として居心地の良い場所となってほしいという考えのもと、季節の行事、誕生日会、バーベキューなどのイベントを通じ、様々な背景

を持つ子どもたちが「大切にされている」という思いを持ち、そのことで子どもの自己肯定感が高まるよう、子ども食堂での「ハレの日」をレベルアップするための事業に取り組んだ。また、子どもたちに関わる人の意識が変わらなければ、いくらケーキや食事が立派になったところで、結局、子どもたちの居心地がよくなることはないという考えのもと、教室のスタッフに対する研修として児童心理士による講演を行い、団体として共通理解を深めることにした。

その成果もあり、学級スタッフの中には前向きに取り組んでくれる人も出てきて、小規模な学級でもイベントの日にはたくさん子どもたちが来てくれた。

#### 各教室のオリジナルなもてなしに 子どもたちが大喜びする姿も

結果的に2020年度には、各月末の誕生日会、10月のハロウィンパーティー、12月のクリスマス会、3月のひなまつり

などに合計で延べ962名の子どもたちが参加した。特にハロウィンパーティー、クリスマス会は子どもたちにも、準備するスタッフにも楽しんでもらえたようで、POSCの助成によって各教室にクリスマスツリーを新調することができたため、子どもたちは大喜びで飾り付けして、ツリーの前での写真撮影も盛り上がった。料理の飾り付けが得意なスタッフのいる教室では、ハロウィンのお化けカレーやクリスマスのポテサラツリーなど、可愛らしい料理で子どもたちを喜ばせることができた。

「このようにイベントを制度化するのは初めての試みで、コロナ禍で休校措置があったこともあり、年度の初めは意思統一を図ることが難しかった部分もありました。ですが年度の終盤、ハロウィンやクリスマスの頃になるとスタッフも慣れてきて、各教室でオリジナルのもてなしを考えてくれるようになりました。子どもたちの喜ぶ姿も見ることができ、『ハ

レの日』の質が向上したことは間違いないと考えています。またスタッフに対する研修では、児童心理士の先生にご講演いただきましたが、その際、子どもたちにとって居心地のよい子ども食堂になることを願って研修会を開催したことを各スタッフに伝えることができました。この講演に対するスタッフの反響はとてよく、『自分の指導を振り返るいい機会だった』『スタッフみんなが同じ方向を見て指導するために研修会は重要だと思った』などの声がありました」と、同団体では手応えを感じたという。

#### 大分県遊技業協同組合より

食事を提供するだけの場だけではなく、学校でも家庭でもない、子どもたちの第3の居場所として今後の発展を期待しています。



助成金によって各教室にクリスマスツリーを新調



ハロウィンやクリスマスは多くの子どもたちが訪れた

助成団体:公益財団法人 すみれ学級

<http://sumire-class.jp/>



#### イベントを盛り上げるために積極的に取り組む姿が見られました

一年間いろいろとわからないことにも対応していただき、ありがとうございました。おかげさまで、子ども食堂のハレの日に彩りが感じられるようになりました。各教室のスタッフもやりがいを感じてくれていたようです。新型コロナ感染症対策への使途変更もご快諾いただき、感謝しております。

公益財団法人 すみれ学級  
事務局員 伊良部 桃子さん

共同助成(千葉県遊技業協同組合)

## 「0歳児～3歳児とその親との愛着を深める アート・ふれあい・交流」事業

### 芸術が子育てに果たす役割や効果を実感できる プロのパフォーマーによる芸術的なアプローチ

脳が一番発達する0歳～3歳時期に人間の感性の基本となる「非認知能力」を育み、身につける子育て環境を創りたいという願いで活動を続ける団体が、乳幼児とその親を対象として、プロのパフォーマーによるわらべうた、人形劇、歌や楽器演奏などを体験し、親子の愛着形成を深めるための事業に取り組んだ。



「0歳～3歳とその親との愛着を深める  
アート・ふれあい・交流事業」を告知するチラシ



プロによるパフォーマンスは人間の感性の基本となる好奇心、共感力、協調性などを育む

### プロのパフォーマーによる芸術遊びで 感性のもととなる非認知能力を育む

「子ども劇場千葉県センター」では、「子どもの権利条約」にある“子ども観”を基本に、子どもたちの成長発達を保障する生活文化環境を創ることをミッションとして、子どもの芸術文化体験活動、子ども・子育て応援活動に取り組んでいる。また、発足時より子どもの生きる力や人間力を育む活動を重視し、芸術的な手法を活用した体験・参加型プログラム事業を、そのネットワークを活かして県内の学校、児童相談所、児童養護施設、乳児院、病院、子育て支援拠点施設、文化施設などで実施してきた。

同団体では、将来生きる力となる好奇心、共感力、協調性、コミュニケーション力といった数値では測れない「非認知能力」を育み、身につける最適な時期は乳幼児期であることに着目し、0歳～3歳の乳幼児とその親、家族、施

設保育士を対象に、プロのパフォーマーたちによるわらべうたや、人形劇、歌、ふれあい遊び、ダンスなどを、2020年度のPOSCの助成を受け、県内10ヵ所(8月13日/長柄町、9月16日/市川市、10月27日/横芝光町、11月4日/茂原市、11月10日/市原市、11月18日/四街道市、12月3日/千葉市、12月24日/松戸市、12月26日/君津市、3月21日/千葉市)で実施した。

実施にあたっては、同団体内に理事長以下、10名のコーディネーターで構成される「乳幼児プロジェクト」を立ち上げ、計画から実行までを統括することとし、実施会場の下見やヒアリング、パフォーマーとの連絡調整などを行ったうえで、当日、コーディネーター2名、スタッフ2名、パフォーマーから成るチームで実施した。上記10ヵ所の会場に参加した人数は288名(大人169名、子ども119名)だった。

### 子どもの成長発達や親子の愛着形成の 観点からも有効な芸術的アプローチ

新型コロナの感染拡大により、子育て支援の関連施設が閉鎖や閉鎖、規模縮小を余儀なくされるなか、長期の自粛で家にこもり続ける親たちの不安やストレスが増加し、孤立に拍車をかけている状況だったが、どんな状況下でも子育ての支援活動を緩めることはあってはならないという意気込みで、密を避けるなど細心の注意を払いながら事業の実施に臨んだ。

「子どもと親、双方の育つ力を応援するのが子育て支援だと思っています。親子で一緒にわらべ歌や人形劇、音楽を楽しみ、親はわが子の喜ぶ様子を見てかわいいと思ひ、愛着の根っこが育ちます。わらべうたでは、7か月の赤ちゃんに『てんこてんこてん』『にぎにぎ』を優しく何度も歌いかけると、ジーンと見て、ニコッと、手足を動かします。赤ちゃんの感性は驚くばかりで感動的です。また、人形劇では指さしをして声を出し、手をパチパチたいて

体で嬉しさを表現します。時折、お母さんと顔を見あわせてお互いに微笑んでいる様子は心が温まります」と、同団体の担当者は振り返る。

保護者からのアンケートによれば、90%以上の親が、わが子が積極的に反応し、ニコニコして嬉しかったと書いているほか、自分自身のためにも有意義な時間になったという声が多く寄せられた。また、施設の保育士などの専門職からは、乳幼児の成長発達やスキンシップなど親子の愛着形成の観点から、芸術的なアプローチは大変有効であり、自分たちも取り入れていきたいと高い評価があったという。

### 千葉県遊技業協同組合より

コロナ禍での活動は大変だったと思いますが、今後も活動の広がりを期待しています。



新型コロナの感染拡大により、密を避けるなどの注意を払いながら事業を実施



助成団体:特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

<http://chiba.gekijou.org/>



### 人間の基本となる力を育み、身につける子育て環境を創りたい

「子どもが成長発達する生活文化環境を創っていく」という当団体の使命を具体的に実現するこの事業に対し、助成をいただき、大きな励ましと勇気をいただきました。乳幼児期の親子が安心して笑顔で暮らせる社会を、ご一緒に創っていくことに感謝し、厚くお礼を申し上げます。

特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター  
理事長 宇野 京子さん

共同助成(福井県遊技業協同組合)

## 「こども公園フェス福井」事業

### スポーツや遊び体験を通して子どもたちの成長や多様性理解・交流へとつながるイベントを実施

コロナ禍で外出機会が失われるなか、市民が触れ合える場の創出を目的としたイベントが福井市内で行われた。当日は、子どもの健やかな成長を応援する「サッカーフェス」に加え、パラスポーツや海外文化体験など、多様性理解の促進につながるような事業も充実。秋晴れの空の下、子どもたちの元気な声が響いた。



「こども公園フェス」の開催を告知するチラシ



多くの子どもたちが参加した「サッカーフェス」

### 市内の3カ所の公園を会場にしてスポーツや異文化を体験するイベント

「サッカーフェス実行委員会」は、一般社団法人福井県まちづくりセンターなどが事業構築や運営を含めてサポートする団体で、市民有志で構成され、サッカー振興を手段として、福井県の活性化を目指している。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により屋外活動の自粛が求められ、家族で公園に出かけたり、楽しみを共有したりするという日常が失われつつあるなか、市民の交流の場である市街地中心にある公園を活用した活動を草の根レベルで提案するために結成された。

同団体ではPOSCの助成を受け、コロナ禍で外出が制限されていた小学生とその家族をメインターゲットに、スポーツを通じて県内の子どもたちの健やかな成長に寄与するとともに、これからの時代を生きる子どもたちに求められて

いるマイノリティへの理解とコミュニケーション能力の向上に寄与することを目的として、「こども公園フェス福井」と銘打ったイベントを2020年10月18日に実施した。

会場となったのは、福井市中央公園、北の庄城址・柴田公園、新栄テラスの3カ所の公園で、メイン会場となった福井市中央公園では、スポーツを通じた交流を楽しんでもらうために「サッカーフェス」を開催した。スペインの強豪クラブチームが主催するキャンプでMVPに輝いたスーパー小学生、山崎翔空君をゲストに迎え、ドリブル対決、クレーン玉入れなどサッカーボールを使った各種コンテストを実施し、飲食ブースや出店などで賑わった。また、柴田公園では車いすテニス、パラ陸上、車いすバスケットボールなどのパラスポーツを体験。新栄テラスでは、ブラジルブースで石遊びや缶遊び、中国ブースで昔遊びのほか、アメリカ人留学生による英語体験などを行った。

### 障がい児や在日外国人の支援・交流を盛り込むことで多様性理解の促進を図る

イベント当日は快晴に恵まれるなか、福井市内の小学生とその家族など、約2,500名が参加した。事業を進めるにあたり、同団体では、子どもたちの地域内コミュニケーションの活性化のため、地域を構成する様々なプレイヤーの融合も意識したという。

「多様性、ダイバーシティが叫ばれる昨今の社会状況を鑑みると、当初想定していたサッカーフェスをメインとした健常者中心のイベントスキームのままでは、円滑な地域内コミュニケーションという部分で物足りないものがあると感じていました。地域の健常者の家族に加え、弱者とも言われる様々な層の子どもたちの生活支援を強力に進め、平等な地域社会を構築することへ向けて、障がい児支援・交流、在日外国人支援・交流というプログラムを加味することで、多様性に対する理解促進が実現できるのではないかと考えました」と、事業担当者は話す。



子どもたちは車いすテニスや車いすバスケットなど様々なパラスポーツを体験

さらに、「コロナ禍の折、福井県内では大型のリアルイベント開催が困難でした。また本事業は市民発案型のイベントであるがゆえ、財政面での苦勞が大きいと感じていました。そのようななか、本イベントの開催にこぎつけることができたのは、金銭的な面でも精神的な面でも紛れもなくPOSCの助成のお陰です」と、担当者。イベント終了後には福井新聞の紙面にイベントの様子が掲載することで、当日、イベントに参加できなかった子どもたちや親たちにも広く、多様性社会への理解や地域コミュニケーションの大切さといった考え方を伝えることができたこと、同団体では事業の手応えを振り返っている。

### 福井県遊技業協同組合より

コロナ禍における大規模イベントは苦勞も多かったと思いますが、自粛や休校など外で遊ぶことが減った子どもたちにとって大変有意義なイベントになったと思います。



### 助成団体:サッカーフェス実行委員会



### 福井県が「幸福県」としてあり続けるために共生社会への理解を

今回の助成により実現した「パラスポーツ体験」や「外国人との交流」といったコンテンツを通じて、子どもたちが共生社会への理解を深めるきっかけになったと思います。何よりコロナ禍という特殊状況のなか、公園に子どもたちの笑い声が戻ってきたことが嬉しいです。

サッカーフェス実行委員会  
福井新聞社 東京支社営業部 千田 耕平さん

共同助成(岐阜県遊技業協同組合)

## 「飛驒の宝物(伝統文化、自然)を子育てに活かし、地域ぐるみの子育て支援環境を作る」事業

### 地域特性や社会情勢で孤立しがちな子育て家庭に丁寧寄り添いながら温もりや安心を届ける

コロナ禍によって集まることや触れ合うことが制限されるなか、飛驒地方の伝統文化と森林資源を子育てに活かし、親子の触れ合いを深める活動を展開するとともに、地域ぐるみの子育て支援環境を作ることに熱心に取り組んだ団体がある。その活動が子育て家庭や関係機関に認知され、地域の頼れる存在としての認識が高まった。



「ミニサマーフェスティバル」の開催を告知するチラシ



会場では多くの親子が集まりイベントを楽しんだ

### 日本一広い市町村の高山市で誰一人取り残さない子育て環境を

日本一面積の広い市町村である岐阜県高山市およびその周辺自治体は、森林が90%以上という地域のなかに子育て家庭が点在しており、子育て支援施設や親子向けイベントも市中心部に集中しているため、元々多くの子育て家庭が孤立しがちなことが課題として指摘されていた。そこで、飛驒地方に伝わる独自のわらべうたを発掘・伝承する活動を通して子育てに有効的に活かしていくとともに、同地方の森林保全につながる木育の推進、子育て家庭の居場所づくりや育児支援を行う子育てひろばの運営、託児・訪問支援などを柱として、誰一人取り残さない子育て環境を作ることを目的に活動を続けているのが、「飛驒高山わらべうたの会」である。

昨年来のコロナ禍、ことに緊急事態宣言期間中には休

園や休校、子育て支援施設の閉鎖、各種検診やイベントなどの中止、外出の自粛といった対策が取られるなか、多くの子育て家庭が孤立した。そんななか、同団体では手作りマスクや牛乳加工飲料(スムージー)を困窮家庭に届けたり、妊婦や子育て家庭向けに助産師とともにインスタライブを配信したりするなど、様々な支援活動を実施した。

さらに2020年6月以降、最初の緊急事態宣言が解除され、学校や園が再開し、経済活動が再開された後も、集まることや触れ合うことが制限され、親子向けのイベントの中止、子育て支援施設の利用制限などもあり、親子が楽しむ機会や交流する場が失われてしまった。しかし、同団体では、そうした状況に意気阻喪することなく、規模を縮小したり、回数を増やしたり、内容を工夫したりしながら、感染症対策をしっかりと講じたうえで、子育て親子向けの事業に取り組んだ。

### コロナ禍で活動に工夫を凝らすことでかえって一人一人に寄り添う結果に

毎年2,000人以上の親子が参加していた「サマーフェスティバル」は、「ミニミニサマーフェスティバル」と称し、14回に分けて、親子わらべうた遊び、木のおもちゃ作り、こども縁日などを行い、687名の親子が参加した。「森のワークショップ」は2日間に分けて、クリスマスリース、手形時計、スプーン作りなどを行い、1038名が参加。「親子で楽しむワイワイカフェ」は5回に分けて行われ、親子わらべうた遊び、ワンちゃんふれあおう、シャボン玉遊び、手形の七五三お祝袋作りなどに125名の親子が集まった。さらに全4回の「クリスマス会」、飛驒地方の伝統的なひな祭り行事の「がんどうち」を楽しむ「森のエコカフェ」に、それぞれ143名、133名の子育て親子が参加した。

「14回に分けて開催したミニミニサマーフェスティバルでは、『まさか今年、子どもに夏祭りを体験させてあげられるとは思ってなかった』、『この甚平、今年初めて着せてあ

げられた』など、多くの保護者に喜んでいただきました。これまで50組~500組の参加者という規模で様々な事業を行ってきたので、一人一人の保護者や子どもとじっくり接することができなかったのですが、今回、規模を縮小して回数を増やしたことで、かえって一人一人に寄り添うことができました。私たちの団体がこの地域の子育て家庭にとって、身近な頼れる存在だと認識してもらえた一年だったと思っています」と、代表者は話す。今回の事業内容は2月に開催された高山市主催の「協働のまちづくりフォーラム」で発表する機会があり、行政や関係機関などから感嘆の声が挙がったという。

#### 岐阜県遊技業協同組合より

地域ぐるみで子育てを支援する取り組みに賛同させていただきます。今後の活動の発展を期待しています。



クリスマスリース作り体験を開催した「森のワークショップ」



全4回開催した「クリスマス会」

助成団体:特定非営利活動法人 飛驒高山わらべうたの会

<https://hidawarabe.org/>



#### 頼れる存在としての認識が広がっていることを実感しています

まさかこのような一年になるとは予想もしておらず、子育て家庭の多くが孤立し、困窮するなか、助成をいただいたおかげで、一人一人に寄り添い、大切な親子の触れ合いの機会を作り、手を差し伸べることができました。おかげで公式LINE登録者も1,000人を超え、様々な相談や依頼をいただくようになりました。

特定非営利活動法人 飛驒高山わらべうたの会  
理事長 岩塚 久案子さん

共同助成(兵庫県遊技業協同組合)

## 「フィッシュシェアリング」事業

### 子ども食堂や食育現場へ地元の魚を提供し、 尼崎の海や魚について知ってもらう取り組み

地元の海で獲れた魚を子ども食堂や食育現場に食材として届けることを通して、子どもの貧困対策へのサポートや地産地消の大切さの啓蒙ができるのではないかと。兵庫県尼崎市の海を拠点に、訪れる釣り人の協力を得ながら、そんな活動に取り組んでいる団体がある。子どもたちの成長を地元の魚で応援する夢のある事業を見る。



子ども向けのイベントを開催したり、釣れた魚の余剰分を冷凍保存し、子ども食堂や食育活動に使えるよう無償で提供



#### 釣り人が釣った魚を提供してもらい、 加工・保存して子ども食堂に届ける

兵庫県尼崎市南部には、年間約10万人の釣り人が釣りに訪れる。「武庫川ECO-LABO」はその釣り人に協力をお願いし、釣れた魚の余剰分を新鮮なうちに提供してもらい、それをしっかりと下処理した後で、真空パックで冷凍保存し、地域の子どもの食堂に提供したり、食育活動を実施している福祉団体などに提供する「フィッシュシェアリング」に取り組んでいる。また同団体では、尼崎市の海と魚について知ってもらうためのPR活動や魚のおいしさを伝えるための試食会、定期的な水質や魚の調査なども行っている。

同団体では2020年度、POSCの助成を活用し、これまでの事業の継続や、子どもを対象とするイベントへの初参加などの活動に取り組んだ。まず、フィッシュシェアリングについて知ってもらい、魚の提供の協力をお願いするため

の周知活動として、武庫川チヌ釣り大会を開催した。この大会は尼崎市からも後援していただき、市長賞の冠をもらった。この大会以降、2020年度は1年を通して魚の提供が多く、子ども食堂を中心に例年以上に食材を多く提供することができた。

「昨春はコロナ禍の影響で給食も止まったため、子ども食堂も例年以上に開催を望む声が多くあったそうです。そのような状況下で、例年以上に食材提供を通して子ども食堂をサポートすることができました。地元の魚で子ども食堂への支援ができたことで尼崎市や社会福祉協議会といった行政からも協力をいただき、特に子ども食堂を管轄する部署からは当団体の活動に賛同していただき、いろいろな場所で当団体や活動についてのPRを行うきっかけとなりました」と、同団体理事長の宮本悦男さんは話す。

#### 食育イベントや教育イベントなどで 地域に愛着がわくきっかけをつくる

また、同団体の活動の中心地である尼崎の湾岸部に子どもたちを呼び込んで、海と魚に触れて楽しむとともに、釣った魚を自分たちで調理して食べる食育イベントも、10月～11月にかけて計3回実施した。

さらに新たな取り組みとして、8月にあまがさきキューズモール・小田北生涯学習プラザで開催された「森の自由研究フェス」に同団体のブースを初めて出店し、武庫川に生息する小さなエビを使った釣り体験を提供した。自粛により、出歩く機会が少なくなった子どもたちに、地元で生息する生き物で夏の自由研究の素材を提供できたことは、同団体が目的とする地元のPR活動にもつながった。

「普段は子ども食堂で調理済みの魚だけを見ている子どもたちが、実際の形を見たり、触れたり、また食材となって

いく過程を知ったりすることで、地産地消の大切さを学ぶことができたと思います。また、子ども食堂を利用する子どもたちからお礼のお手紙をいただくことがありますが、普通、子どもたちが描く魚は色も形も空想上のものが多いのですが、食育活動に参加した子どもたちが描いた絵は現実の魚になっていました。自分たちが釣り上げ、調理した魚の色や形をしっかりと記憶してくれていることは、食育が成功している大きな証と思っています」と、宮本さんは活動の手応えを感じているという。

#### 兵庫県遊技業協同組合より

海で獲れた魚を子ども食堂や食育現場に食材として届ける「フィッシュシェアリング」が全国に広がることを願っています。



子どもたちを対象とした食育イベントも実施し、海と魚に触れて楽しんだ



助成団体:特定非営利活動法人 武庫川ECO-LABO

<https://www.mukogawaeco-labo.com>



#### 活動を続けることがPOSCへの恩返しと思い、今後もがんばります

NPO法人としての初年度に多くの助成金をいただき、本当にありがとうございました。今回の助成で地元の子どものための多くの支援や今後につながる活動ができたことに感謝しております。特に周知活動・イベントにより協力してくれる釣り人も前年度とは比べ物にならないほど集まってくれました。

特定非営利活動法人 武庫川ECO-LABO  
理事長 宮本悦男さん

共同助成(宮城県遊技業協同組合)

## 「リユプロジェクト・ヘアドネーションプロジェクト」事業

### オリジナルヒーローが「何か」を伝える活動から 髪を失った子どもにウィッグを届ける活動まで

東日本大震災から10年が経過したが、震災直後に子どもたちの願望に寄り添う形で登場したオリジナルヒーロー「破牙神ライザー龍」は、現在も被災地の幼稚園や保育園などを訪れ、「何かを伝えられるヒーロー」として活動を続けている。さらに、そこから新たな活動として、ヘアドネーションプロジェクトも派生している。



宮城・福島・岩手の幼稚園・保育所などを回り、龍を起用した交通安全教室、防犯教室、防災教室などを無償で公演



### ヒーローの訪問やショーによって 子どもたちの心に大切なことを届ける

東日本震災後の2011年10月、震災で傷ついた子どもたちの「ヒーローに会いたい」という声に寄り添う目的で誕生したオリジナルヒーロー、「破牙神ライザー龍」。震災から10年が過ぎた今でも、子どもたちの龍を求める声は衰えることなく、リユプロジェクトを主宰する「HERO」では、宮城・福島・岩手の幼稚園・保育所などを回り、龍を起用した交通安全教室、防犯教室、防災教室、リズム体操教室などの無償公演を年間200回以上実施する活動を続けている(2020年度は151回)。

また、大型会館ショーとして「破牙神ライザー龍スーパーライブ」を2014年より開催し、毎回、2,000名以上の観客を無料招待している(2020年10月に開催予定だったライ

ブは新型コロナにより2021年9月に延期。2,560名を招待予定)。

さらに同団体では、2016年より病氣やケガで髪の毛を失ってしまった全国の18歳以下の子どもたちに、寄付してもらった髪の毛を使用した完全オーダーメイドの医療用ウィッグを製作し、無償でプレゼントするヘアドネーションプロジェクトをスタートさせている。

これは、毎年定期的に慰問している東北大学病院小児腫瘍センターの子どもたちのために何かできることはないかと考えて実施し、2020年度はコロナ禍で活動が難しい状況にあったが、緊急事態宣言解除後に感染症対策を徹底しながら活動を再開し、16名の子どもにウィッグをプレゼントした。

### 新たに始めたウィッグの無償提供に 続々と寄せられるお礼と喜びの声

活動を継続するなかで、「リユプロジェクトでは、幼稚園や保育園で龍と出会った子どもたちが、次にまた龍と会うために小さな約束ごとをし、その約束を守ろうと頑張る姿が見られるようになったなど、先生方から効果の高まりを感じられるという感想が届きました。また、ヘアドネーションプロジェクトでは、ウィッグをプレゼントされた子どもやその家族から、『既製品のウィッグはサイズが合わず、長時間着けていられなかったが、このウィッグはサイズもぴったりで、ストレスなく学校に復学できました』『以前の自分の姿に戻ったようで、とても嬉しいです』『今まで写真を撮られることを嫌がっていた娘が、カメラに向かって笑顔に向けてくれるようになり、感動しています』などのお礼のメッセージをたくさん頂戴しました」と、同団体の代表は話す。

コロナ禍で様々な活動が制限される状況にあるが、「リユ

ウプロジェクトにおいては、感染症対策を徹底しながら継続して公演を行えるようにしていきたい。また、ヘアドネーションプロジェクトにおいては、ウィッグの提供スピードをもっと速めるために、自主財源の確保が急務だと感じている」と、同団体では今後の方針を語る。また、2021年4月から1年間、破牙神ライザー龍が宮城県の地球温暖化防止応援キャラクターに就任したことから、幼稚園や保育園の先生方から、「龍から地球環境のこについて教えてもらう教室などではできないか」という相談があり、教室のパッケージを制作中である。

### 宮城県遊技業協同組合より

オーダーメイドのウィッグを提供された子どもたちは、笑顔や明るさを取り戻したと思います。継続的な活動を期待しています。



ヘアドネーションプロジェクトで、ウィッグをプレゼントされた子どもたちから届いたお礼の手紙



助成団体:特定非営利活動法人 HERO

<http://www.hero.or.jp>



### 今年度も変わらず活動できたのもPOSCのご支援のおかげです

今後も破牙神ライザー龍を求める子どもたちや先生方の声を大切にしながら、一番近くで寄り添えるヒーローとして活動を続けてまいります。ヘアドネーションプロジェクトにおいてもウィッグを心待ちにしている子どもたちに一刻も早くお届けできるよう頑張っておりますので、今後とも応援のほどよろしくお願ひいたします。

特定非営利活動法人 HERO  
代表理事 佐藤 真実さん

共同助成(福島県遊技業協同組合連合会)

## 「星空ミュージアム」事業

### 原発事故によって離れ離れになった人たちに 星空を通して故郷とのつながりを感じてほしい

福島県内を中心に天文普及や科学教育に取り組んでいる団体が、バルーン、アート、絵本朗読などの活動をしている他団体とコラボレーションして、震災記録施設を建設中の福島県双葉郡富岡町で星空をテーマにした地域活性化イベントを実施した。美しい星空を通して自分たちの街に誇りを持ってもらうという目的が果たされた。



星空をテーマにした「星空ミュージアム」を開催



星空や惑星を紹介する写真やイラストなどを展示

### 地域活性化の機運を盛り上げるため 震災からの復興途上の街でイベント

「星空体験!実行委員会」は福島市に拠点を置き、福島県内を中心に、天文普及・科学振興・震災復興支援などを行っている団体で、「星空はコミュニケーションツールである」という理念の元に、星空を通して人と人とを繋ぐ活動に取り組んでいる。

東日本大震災から10年が過ぎ、震災の爪痕がすっかり忘れ去られたようになってきているが、福島県浜通りの双相地区では、今でも国道沿いにバリケードが敷かれ、朽ち果てた家屋がそのままの状態になっている。現地では、まだまだ完全復興には程遠い。

そのような状況の中で、大震災と東京電力福島第一原発事故を忘れず、後世に遺すために、双葉郡富岡町が独自のアーカイブ施設の建設を進めている。2021年夏の

開設を目指しており、大震災と原発事故で被災した地域の記録や町民の体験を、記録・研究して国内外に伝えていくという。津波で被害を受けた駅舎の看板や、折れ曲がったガードレール、止まった時計、未配達の新報、震災対応に当たる町災害対策本部の写真など、5,000点を超える震災遺産を保存する予定である。このような震災復興を象徴する建物ができることで、帰還者も非帰還者も含め、地域住民の復興に対する気持ちに変化していき、地域活性化につながるのではないかと期待されている。

そうした機運を盛り上げる活動の一環として、同団体ではPOSCの助成を活用し、星空をテーマにした「星空ミュージアム」というイベントを企画し、2020年11月1日に建設中のアーカイブ施設の隣にある富岡町文化交流センター「学びの森」で開催した。

### 星空の美しさを再認識してもらうことで 離れ離れになった人々をつなぐ

同イベントは、アートプロジェクト「テノヒラ」の協力、富岡町教育委員会・福島民報社・福島民友新聞の後援を受け、星空や惑星を紹介する写真やイラストなどが展示されたほか、秋に見ることができる星座の解説や星にちなんだ絵本の朗読、バルーンを使ったパフォーマンスなどが行われた。

当日は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から入場制限を行ったため、参加人数は約50名と少なめだったが、当日、参加できなかった人に向けてYouTubeによる動画配信も行った。

「今回のイベントのために、福島県の沿岸部で見られる星空の写真を展示したところ、自分たちが住んでいるところはこんなにも星が綺麗に見えるところなのかと喜んでいただけました。自分が知っている建物や風景が映っていることで、より親近感が湧くというコメントもいただきました。原

発事故により、離れ離れになった人たちに星空を通してつながりを感じてほしいという企画だったので、そこはよかったと思っています。また、今回のイベントでは星座早見盤を配布し、あわせて使い方の説明も行ったところ、大変満足していただき、今後、星を見るときに使いますとのコメントをいただきました」と、同団体では話す。

新型コロナウイルス感染防止による外出自粛があったにしても、参加者の少なさから、原発事故による帰宅困難地域でイベントを行うことの難しさを改めて実感した反面、学びの森の施設担当者からは、久しぶりに館内で子どもたちの賑やかな声が聞けたのが嬉しいという、喜びの声が寄せられたという。

#### 福島県遊技業協同組合連合会より

原発事故により、離れ離れになった人たちに星空を通してつながりを感じてほしいという企画に賛同しました。今後も復興支援を続けていきたいと思っております。



イベントの様子は新型コロナウイルス感染拡大防止のためYouTubeでも配信



バルーンを使ったパフォーマンスも披露し子どもたちを喜ばせた

助成団体: 星空体験! 実行委員会

<https://hoshizorataiken.wixsite.com/hoshizorataiken>



#### 星空が綺麗に見える街だと街に誇りを持ってもらいたい

このたびは当団体の活動に対して助成いただき、誠にありがとうございます。福島県内では、原発災害による風評被害など、まだまだ震災の爪痕が多く残っており、完全復興にはほど遠い状況です。今後も復興支援にご理解いただけますと、当団体としても幸いです。

星空体験! 実行委員会  
会長 橋本 靖之さん

共同助成(兵庫県遊技業協同組合)

## 「感染症発生時における避難所体験」事業

### 阪神・淡路大震災の記憶を次世代の若い人々に伝え 感染症対策を含め災害時の避難を体験してもらう

阪神・淡路大震災から25年が経過するなかで、震災を知らない若い世代が増えている。そうした世代に震災の記憶を伝え、家族と一緒に避難所生活を体験してもらい、さらに感染症発生時における避難所での対策を考えてもらうという事業が実施された。参加者は、災害の恐ろしさ、備えることの重要性について学んだ。



「感染症発生時における避難所体験」と題したイベントを実施し、スライド学習や語り部による震災体験を聞いて防災について学んだ

#### 災害に強い街づくりや防災・減災の意識高揚、普及啓発に取り組む

神戸市や神戸新聞社などで構成される「117KOBEBほうさいマスター育成会議」では、兵庫県内にある大学と連携し、阪神・淡路大震災の経験と教訓を伝えていくために「117KOBEBほうさいマスタープロジェクト」を発足させた。このプロジェクトは、兵庫県内の大学に在学する大学生が「117KOBEBほうさい委員会」を組織し、次代を担う若者に中心となって活動してもらうことで、すべての人に災害は「自分事」であることを認識してもらい、災害に備えることが減災につながることを伝えることを目的としている。また、災害時のリーダーとなる「117KOBEBほうさいマスター」を育成することで、災害に強い街づくりや防災・減災の意識高揚、普及啓発に貢献できるよう取り組んでいる。

同会議では、2020年の9月19日～20日に神戸市長田

区にある「ふたば学舎」において、「感染症発生時における避難所体験」と題した事業を実施した。これは震災から約25年が経過し、神戸市内でも震災を知らない市民が半数以上になるなか、震災当時に近い避難所生活を家族で体験してもらうことで、災害に対する意識を高め、防災や減災に通じる備えについて家族で話し合うきっかけづくりとなることを目的としたものである。それに加え、現在も猛威をふるっている新型コロナ感染症などの感染症が発生した場合に、命を守るために避難所でのような感染症対策をすればいいのか、自分たちで考えてもらうことも目的のひとつであった。当初は、8月の実施に向けて計画を進めていたが、新型コロナ感染拡大が見られたため実施時期を延期したが、やはり参加人数が伸び悩んだ。締め切りを遅らせて周知を重ねたが、参加人数は、一般公募で集まった3組6名であった。

#### 今後の避難所生活で避けて通れない 感染症対策もあわせて考える

事業では、まず、スライド学習と語り部体験談により、被災と避難に対する想像力を養ったうえで、実際に長田区の街歩き体験を通してそれをリアルに感じてもらうことにした。また、ゲームなどを通じ、防災・減災について考えてもらったり、避難所設営訓練では段ボールベッドを参加者が自ら作製し、実際に宿泊してもらったり、抜き打ちで避難訓練を行い、とっさに判断できるかを検証したりした。さらに、非常持ち出し袋を参加者と同団体のメンバーが持ち寄って意見交換をした。感染症対策としては手洗いのレクチャーや電気自動車を利用した避難体験を行った。

阪神・淡路大震災の経験や教訓を次の世代へどう伝えていくかは、震災当初からの課題と言われている。さらに2020年からの新型コロナウイルスの感染拡大により、災害時の避難所での感染症対策が喫緊の課題となっている。

時間の経過とともに震災の風化が進むなか、ただ単に震災の記憶を伝えるのではなく、その経験や教訓を基に、いつ起こるか分からない感染症を含む様々な災害に対し、「自分事」として考える習慣を身につけてもらい、備えや対策をすることの大切さを訴えることが重要だと、同団体では考えている。

避難所生活を体験するなかで、ソーシャルディスタンスやコミュニケーションの取り方、段ボールベッドの寝心地、非常持ち出し袋の有効性などを確認できたうえ、避難所を運営する難しさ、避難する人の気持ちなどを実際に経験できたことが大きかったのではないかと、同団体では今回の事業の意義について振り返っている。

#### 兵庫県遊技業協同組合より

震災を知らない若い世代の方に災害の恐ろしさや備えることの重要性について学んでもらうことは、大変重要だと思えます。今後も継続した活動を期待しています。



避難所設営訓練では段ボールベッドを作製し、実際に宿泊してもらったり、抜き打ちで避難訓練を行った



助成団体: 117KOBEBほうさいマスター育成会議

<https://www.kobe-np.co.jp/info/bousai/index.shtml>



#### 今後も防災・減災の意識高揚と普及啓発に取り組んでいきます

実際に避難しなければならぬ状況となったとき、どう行動し、どう備えるべきか、どういったことが必要となるかなど、避難所体験を通じて、参加者に自分で考え行動することを伝えられました。また、コロナ禍のなか、今後も起こりうる避難所での感染症対策も同時に考える機会づくりにもなり、貴重な体験になりました。

117KOBEBほうさいマスター育成会議  
事務局次長 長友 秀世 さん

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業・研究への支援

## 「依存の問題を抱える人を対象とした生活の改善に重点を置いた相談・支援」事業

### ギャンブル等依存の問題には個別性があり、ニーズに適した柔軟な向き合い方が必要

パチンコやギャンブルへの“のめり込み”には、個別の原因や背景がある。そのため、その解決にあたっては、それぞれの原因や背景にある問題に直接、向き合う必要がある。ギャンブル等の依存を病気ではなく、生活・人生の問題と捉え、支援活動を続けてきた団体が、生活の安定を目的に、個別対応の無料相談などの事業を行った。



入所者一人ひとりに合ったカリキュラムで支援しつつ畑仕事など体を動かすプログラムも実施



### 依存問題を抱える人の個別性に着目し、個々の課題に寄り添った支援を実施

我が国で初となるギャンブル依存症回復（入所）施設として、2000年に横浜市において設立されたのが「ワンデーポート」である。これまでの入所者は約700名で、主な事業は、依存の問題を抱えた人の回復支援、その家族への相談（対面、電話）支援、セミナーを通じての普及啓発などで、パチンコ依存およびパチスロ依存問題の相談サービスを提供している認定NPO法人「リカバリーサポート・ネットワーク」やパチンコ関係団体なども情報交換や交流を続けている。

当初は、自助グループの考え方を指針に、グループセラピーを主体としたカリキュラムを組んでいたが、開設から4

～5年が経過したころに、依存の問題を抱える人には個別性があり、自助グループの考え方が合わない人が存在することに気づいたことから、個々の利用者の課題に寄り添い、常に新しい視点で支援活動を行うような方向に歩み出した。

「ギャンブル等依存症」は国家が主体となって対策をとることとなり、国の定める基本計画のもと、行政機関や医療機関の主導で相談支援事業が行われている。依存問題に関して国や行政機関が推奨する方法は、一口に言えば短期的なマニュアル対応だが、それに対して同団体では、自分たちの20年の活動から見えてきた必要な対策とは開きがあると感じている。ギャンブル等の依存の問題を抱えた人の中には、現実的には知的障がいや発達障がい、

あるいは障がいとまでは診断できないものの何らかの弱さを抱えた人がおり、マニュアル対応では難しい人が多い。また、長期的に金銭管理などの生活支援が必要な人が一定数いるのも事実だという。

### 個別理解と個別対応をキーワードにあらかじめプログラムを決めない支援

パチンコやギャンブルへのいわゆる“のめり込み”には原因や背景などがあり、それぞれ個別の問題を抱えているため、必要となる支援もその個別性に対応してそれぞれ違うこと、ギャンブルそのものではなく、その人の生活や人生そのものにアプローチすることが重要だという考えのもと、同団体ではPOSCからの助成を受け、「個別理解と個別対応を」をキーワードとする標記の事業を実施した。

この事業は、あらかじめプログラムを決めて行うのではなく、あくまでもその人に必要な支援を提供することがポイントとなっている。たとえば、Aさんについては対面で話を聞き、

助言をすることで終了。Bさんは対面で話を聞き、助言をした後で、精神科医による発達障がい検査への同行。Cさんは対面で話を聞き、助言をした後で、入所カリキュラムに基づいた継続支援など、それぞれのニーズや問題背景に沿った支援を提供した。また、畑仕事やウォーキング大会参加など、日常的な余暇支援なども行った。これらの事業の成果や課題は会報やSNSなどで発信したが、それが社会啓発にも役立つのではないかと考えている。

「コロナ感染拡大の影響で、外出や余暇活動の制限を受けましたが、4月半ばから畑仕事に挑戦し、キュウリやトマトなどの夏野菜を収穫することができました。日光に当たり体を動かし、収穫の喜びを体験できたことは、利用者の皆さんの健康にも役立つ体験だったと思います。また、緊急事態宣言の影響があるのかどうか定かではありませんが、ネットを介した公営競技やゲーム課金による相談が増えました」と、同団体では振り返る。



ウォーキング大会やマラソン大会への参加など、日常的な余暇も支援



助成団体: 認定特定非営利活動法人 ワンデーポート <http://www5f.biglobe.ne.jp/~onedayport/>



### 大きなテーマに対して助成金が柔軟に使えることに感謝しています

いただいた助成金が柔軟に使えるPOSCの助成は、本当に助かります。パチンコ・パチスロへの過度なめり込みは減少し、ネットを介したギャンブルに移行していると今回の事業により確認することができたことは成果の一つではないかと考えています。

認定特定非営利活動法人 ワンデーポート  
施設長 中村 努さん

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(つながり・かかわり)

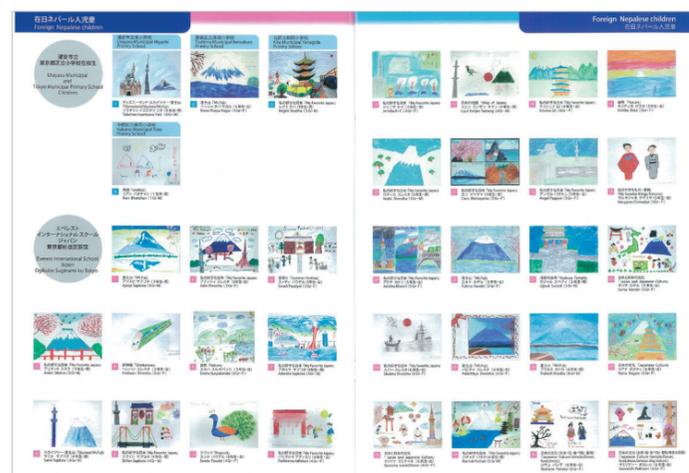
## 『在日外国人児童が描く私の好きな日本』交流』事業

### 多様化・増大する在日外国人児童を対象に 「私の好きな日本」を絵に描いてもらう

マスコミなどでは「ダイバーシティ」という言葉が多く発せられているが、社会の実態としては、多様性を認め合う真の理解は進んでいないように見える。「世界の共通語」である絵などの美術を通して交流することが平和に繋がること信じて事業を続ける団体が、在留外国人の子どもたちに「私が好きな日本」の絵を描いてもらう事業に取り組んだ。



「私の好きな日本」在日外国人児童の絵画展を告知するチラシ



在日ネパール人児童が描いた「私の好きな日本」

### 日本に在留する6カ国の子どもたちと日本の子どもが絵を通して交流する

日本に在留する外国人は年々、増加しており、外国人の児童生徒数は約10万人になっている。近年は中国、韓国、南米系の人々に加えて、フィリピン、ベトナム、ネパール、タイなどの東南アジア諸国からの在留者が増加するなど多様化が進んでいるが、その一方で、一部の国の人々に対するヘイトスピーチなど、十分な国際理解が進んでいない現実がある。また、社会的、経済的状況の変化などにより、安定的に学校に通い、学習を進めることが困難になっている在日外国人の児童生徒も見られる。

こうした現状を理解し、少しでもその状況を変えていくためには、日頃から在日外国人と触れ合い、お互いを理解し合うなかで、多文化共生社会の実現に努力していく必要がある。そこで、2008年以来、主にアジアの子どもたち

が表現した絵を通して国際交流事業に取り組んできたNPO法人「国際教育情報交流協会(AEIC)」では、そのノウハウや経験を活かし、自らが主管となり、『在日外国人児童が描く私の好きな日本』実行委員会』を新たに組織し、主として造形活動を中心に、在日外国人児童と日本の子どもたちとの交流を実施することとした。

在日外国人児童については、在日外国人数に占める割合の高い上位12カ国に協力要請を行い、最終的に6カ国(北朝鮮、ネパール、インド、ミャンマー、フィリピン、カンボジア)の7団体が参加することになった。日本の子どもたちについては、コロナ禍ではあるが、参加したいと声をあげてくれた障がい者福祉施設、放課後デイサービスの3団体と交流を持つことができた。なお、コロナ禍の影響で今回参加できなかった国からも、来年は是非参加させてほしいと強く要望された。

### クレヨンや墨絵によって描かれた子どもたちによる「私の好きな日本」

具体的な活動としては、「私の好きな日本」をテーマに、クレヨンによる絵の制作や造形積み木のほか、特別にワークショップとして、墨絵による共同制作を行った。ワークショップは、鈴石弘之さん(NPO法人「市民の芸術活動推進委員会」理事長)、清野義光さん(元全国造形教育連盟委員長)を指導者に、東京朝鮮第九初級学校とレストランルビー(ミャンマーの子どもたちが参加)で実施された。コロナ禍ではあったが、絵の制作、墨絵の共同制作を合わせ、251名の児童が参加し、事業全体の参加人数は約500名に上った。

子どもたちが描いた絵(絵198点、墨絵3枚)は、2021年2月16日~22日まで、東京都・四谷にあるCCAAランプ坂ギャラリーで展示され、約60名の来館者があった。また、



会場に展示された子どもたちの絵

実行委員会では事前に事業への参加を呼び掛けるポスターやチラシを作成し、配布したほか、児童が描いてくれた絵をすべてカタログ(画集)に掲載し、表彰状とともに、参加してくれた児童全員に贈呈。さらに展示会場やワークショップなどの模様を撮影してDVDを制作し、学校関係者などに配布したほか、YouTube(<https://youtu.be/DWUn3kMmN8k>)にも動画をアップするなど広報活動にも力を入れた。

参加した児童の保護者や学校関係者からは、「今回のような企画は初めて。私たちを取り上げてくれてありがとう」、「新型コロナで学校が休校していたが、絵を描くことで子どもたちが明るさを取り戻した」、「子どもの人生で初めて表彰状をいただき、大きな喜びになった」などの声が寄せられた。



参加した子どもたちには、記念品にクレヨンを贈呈

### 助成団体:「在日外国人児童が描く私の好きな日本」実行委員会



#### 無事に事業を終えることができ、安堵とともに意義の大きさを実感

改めて子どもたちの表現する絵の力を認識し、そのストレートに表されたイメージに眼を見張るばかりです。アジア地域の国という範疇のなかにおいても、各々のアイデンティティの発露が画面に現れ、その輝きの織り成すかたちの響き合いに、未来への光明を見出した次第です。事業に助成を戴きましたことに、お礼申し上げます。

「在日外国人児童が描く私の好きな日本」実行委員会  
実行委員長 北海道教育大学名誉教授 相田 幸男さん

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(つながり・かかわり)

## 『2020パラアートTOKYO』第7回国際交流展」事業

### 「障がいを超え、国境を越える」をテーマに バーチャルギャラリーを活用したアート展開催

障がい者の文化・芸術の拡大を図るとともに、障がい者に対する理解や障がいのある児童の育成支援や社会参加を促すため、障がい者の芸術作品の展示や芸術文化の活動紹介に取り組んでいるのが日本チャリティ協会である。コロナ禍という困難な状況のなか、同団体では7回目となる国際交流展を開催し、国内外から多くの賛辞が寄せられた。



「2020パラアートTOKYO第7回国際交流展」を告知するチラシ



作品が展示された会場には多くの人々が訪れた

### 障がい者スポーツがパラリンピックなら 障がい者アートはパラアートの呼称で

公益財団法人「日本チャリティ協会」は、1966年の設立以来、福祉文化の育成振興を理念として、障がい者や高齢者に向けた多彩な事業を展開してきた。なかでも障がい者の芸術(アート)活動に力を入れ、「東京都障害者総合美術展」やパラアートスクール(障がい者のカルチャースクール)を始め、障がい者の芸術文化活動を積極的に推進し、社会参加への支援を30年以上にわたって継続して行っている。

その一環として、同団体では、障がい者によるスポーツの祭典が「パラリンピック」と呼ばれていることにちなみ、障がい者による芸術文化を「パラアート」として根付かせるため、2009年から障がい者の芸術活動に対して「パラアート」という呼称を使い始め、さらにそれをアジアから国際的に

に発信、拡大しようという企図のもと、日・中・韓を軸にした「パラアート(障がい者芸術)国際交流展」を開催してきた。

こうした経緯を踏まえ、残念ながら新型コロナウイルスによって東京2020オリンピック・パラリンピックが延期となったため、同時開催することはできなかったものの、障がい者の幅広い活動とその作品の社会的な認識の国際的拡大を図るとともに、諸外国の障がい者との文化交流を支え、芸術文化の育成に寄与することを目的に、同団体では東京都が主催する「第35回東京都障害者総合美術展」の共催事業として、「2020パラアートTOKYO第7回国際交流展」を開催することにした。

なお、「第35回東京都障害者総合美術展」は2020年9月2日～6日にわたり、東京の西武池袋本店7階の特設会場で開催され、たくさんの応募作品の中から約180点の入賞・入選作品が展示された。

### 国内外から集まった障がい者の作品を 展示するパラアート国際交流展開催

「第35回東京都障害者総合美術展」に先立ち、8月19日～23日に西池袋にある東京芸術劇場5階ギャラリーを会場に、同団体、および東京都が主催する「2020パラアートTOKYO第7回国際交流展」が開催され、国内外の障がい者の絵画、書の入選作品268点が展示された。

開催初日には、共催の豊島区の庁舎内にある区議会会議場で、「日本の障がい者アート(福祉)の起源として、未来へ」と題する記念シンポジウムが無観客で実施(オンライン配信)されたほか、POSCの助成を活用してWEB上にバーチャルギャラリーを開設し、新型コロナの影響で来日や来場いただけない国内外の出品者、関係者や世界の方々に向けて、作品やシンポジウムが鑑賞、視聴できるように配慮した。なお、会期終了後もそれらはWEB上

に継続公開されている(<https://virtualgallery.paraart.jp/2020/>)。また、同団体では、2020年より、これからの社会を形成していく子どもたちを対象にパラアートジュニア賞を設け、目標に向かってモチベーションを上げることができるよう、サステイナブル(持続可能)な活動支援を行っている。

コロナの影響により、多くの施設で児童の制作活動が縮小され、また海外からの輸送に制限があり、作品収集には非常に苦慮したが、バーチャルギャラリーの効果もあり、「豊かな感性と素晴らしい作品に感動した」、「色々な国の障がい者の作品が一堂に集まり、バラエティに富んでいて楽しかった」といった感想がSNSなどに多く書きこまれたほか、終了後には特別支援学校の教員や学生からも障がい者のアートフィールドへの関心が寄せられたという。



国内外の障がい者の絵画や書を展示



助成金を活用したバーチャルギャラリー

助成団体:公益財団法人 日本チャリティ協会

[www.charitykyokai.or.jp](http://www.charitykyokai.or.jp)



### バーチャルギャラリーの開設で、WEB時代の若い親たちにも反響

遊技産業としての特性、地域性を生かして、よりよい地域社会のためにできることを考え、公益性のある事業に助成するというPOSCの意義ある活動に対して敬意を表します。児童に対するの育成活動支援は継続により成果が現れると思いますので、継続事業に対しても適宜、助成を拡張いただき、財政力の弱い団体へのより一層の支援をお願いいたします。

公益財団法人 日本チャリティ協会  
会長 高木 金次さん

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(みちびき・はぐくみ)

## 「地域で支える、不登校児童への包括的支援」事業

### 不登校や中途退学になった子どもたちに 地域交流や情報提供を通じて安心できる場を提供

子どもたちの教育に関する問題は年々複雑化し、不登校生徒や高等学校中退者は増加傾向にある。そうした不登校や中途退学者への支援は、その後、引きこもりに発展することを予防することにも繋がる。進路や就職などに悩みを抱える不登校の子どもやその保護者に向けて、必要な情報を届け、支援の場を提供することに取り組む団体がある。



小・中・高の不登校児童・生徒に対する居場所と学習の場の提供を目的とするフリースクール「もりさば」



#### キャリア教育を含む学習の場として 新しい形のフリースクールを開所

「若者を社会にひらく、社会を若者にひらく」を活動理念に掲げ、岩手県・盛岡の地で活動をしている「もりおかユースポート」。同団体では、引きこもりやニートなど様々な原因で社会との関係性が薄くなった若者たちを、心理面・行動面から支えて社会に導いていく一方、社会の側も若者を理解し、彼らが参加しやすい環境を整えることで社会参加を促し、若者たちが働き、暮らせる社会づくりを目指している。

同団体では、何らかの課題や事情を抱え、不登校になったとしても将来の進路や職業選択について少しでも考えられる場があれば立ち直りへの一歩になる可能性があるし、そのためには学校での基本的な勉強だけでなく、社会参加や地域との交流も必要であり、新たなフリースクール

の形としてキャリア教育を含めた学習の場が重要と考えていたという。しかしながら、フリースクールを利用したいと思っている生徒のなかには、経済的に困窮している家庭も多く、フリースクールを継続するためには利用料の徴収が必要であることから、必要な児童・生徒に支援を届けることが困難な状況にあった。

そうした課題を解決すべく、POSCの助成を受けた同団体では、小・中・高の不登校児童・生徒に対する居場所と学習の場の提供を目的とするフリースクール「もりさば」を開所し、個別の学習支援を中心とするボランティア大学生との交流や、高校生においては地域の商店街などと連携し、ボランティア体験などの社会参加を通じた交流を実施した。他にも、学校や教育委員会、支援機関などと連携しながら、不登校生徒を抱える家族の相談、進路合同説明会、『進路ナビブック』の作成などの事業に取り組んだ。

#### 進路について悩む生徒や保護者に 合同説明会やパンフレットで情報提供

「もうひとつの進路合同説明会」と題された進路説明会は、通信制／単位制の高等学校、特色のある高等学校、就労支援機関、引きこもり支援機関などが集まり、ブースに分かれて個別相談ができるもので、保護者に向けても教育資金の貸付制度の紹介や経済的な相談を行った。2020年9月12日に開催され、中学校生徒、その保護者、教育機関などの関係者が55名参加したが、ここで通信制高校の仕組みや取り組みを直接聞くことで進路について考える機会となり、実際に進学に繋がったケースもある。『進路ナビブック』とは、進路が決まらない中学生や高等学校中退者に向けて、就労支援機関、通信制／単位制の高等学校、地域の相談支援機関、利用できる制度などをまとめたパンフレットだが、同団体ではそれを作成し、

県内の中学校、高等学校、県および各市町村教育委員会、行政窓口、各支援機関などを通じて配布した。

「キャリアに関する学習も含めた新しい形のフリースクールは教育委員会より、その取り組みについて高い評価をいただいた。もうひとつの進路合同説明会では、これまで進路選択に悩みを抱えていたため大いに助かったという声があったほか、複数回の開催や他地域での開催を希望する声もあがり、その必要性を感じた。また、進路ナビブックは進路選択のひとつとして役に立ち、活用しているという声が寄せられた」と、同団体では事業の効果や手応えについて振り返る。必要な人へ、本当に必要な情報を届け、具体的な支援の場を提供することこそが、いま求められている。



通信制や単位制の高等学校、就労支援機関などが集まった個別相談会を開催



助成団体: 特定非営利活動法人 もりおかユースポート

<http://my-port.jp/>



#### 今回の助成で必要な人へ必要な情報を届けることができました

今回の助成を受けて当法人で取り組んだ「地域で支える不登校児童への包括的支援」において、必要な人へ必要な情報を届けることができたと感じています。この取り組みは、今も続けています。

特定非営利活動法人 もりおかユースポート  
主任 菅原 征和さん

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(みちびき・はぐくみ)

## 「ハートtoハート事業部 胎教・子育てスクール」事業

### 子育てに不安を抱える母親たちを支えることが、 子どもたちの笑顔につながると信じて活動

子育ての不安から、子どもを持つことをためらう女性は少なくないといわれている。また、子どものいる母親も日々、子どもと関わるなかで、自分の子育ては間違っていないか、迷いや不安を抱えているケースも少なくない。「良いお母さんより、幸せなお母さんになろう」を合言葉に、講師を招き、多角的なテーマで講座を行う団体が熊本にある。



妊娠中や子育て中の母親の自己研鑽を目的として定期的に開催している「胎教・子育てスクール」



#### 子育ての基盤となる母親の自己研鑽を 目的にスタートした子育てスクール

「スタディライフ熊本」は熊本市に拠点を置く団体で、賢く、豊かな人生を送ることができるよう、一生涯を「出産・子育てのステージ」「子どもの教育のステージ」「人生を閉じるエンディングステージ」の3つのステージとして捉え、生涯学習を通してライフキャリアを構築するための様々な支援活動を行っている。

同団体では、妊娠中や子育て中の母親の自己研鑽を目的として5年前に「胎教・子育てスクール」をスタートさせた。少子化、核家族化が進み、産んだらすぐに「良いお母さん」になることを求められ、無力感、孤独感に苦しんでいる女性がたくさんいるなか、子育ての基盤となる母親の自尊感情、子どもを無条件に受け入れる力、パートナーとのよりよい関係性を構築する力などをバージョンアップすることが

必要であり、子育てを楽しみ、子どもとともに成長する「幸せなお母さん」を増やすことが、子どもたちの笑顔にもつながると考え、資金難のなかでもスクールを継続してきた。

スクールが5周年となる2020年度、POSCからの助成を受けた同団体では、11月から3月にかけて、計12回の講座(各回テーマは開催順に、「テレビやスマホとの向き合い方」「おむつなし育児」「病気知らずの子どもご飯」「子育てと絵本」「子育てと防災～今、災害がおきたら～」)「母性と愛着」「愛の実力アップ講座」「子どもに伝えたいところのおはなし」「ママとベビーの予防歯科」「マタニティヨガ」「子育てと音楽」「お母さんにしかできない性教育」と、豪田トモ監督の映画『ママをやめてもいいですか?!』の上映会を実施した。

会場(親と子)とオンラインでの参加を含め、述べ253人が受講した。

#### オンラインでの講座開設によって 子育てスクールの内容がより充実

コロナ禍により、当初はスクールの開講自体が危ぶまれたが、Wi-Fi環境を整え、機材を準備することで、オンラインを含めて、当初の予定通り、開講することに踏み切ったところ、それがかえって奏功したようで、当初、ライブでの講座にこだわっていたが、むしろオンラインへの反応が高く、これまで会場が遠くて参加できなかった人々の参加も可能になった。これまでのスクールでは、会場で顔を合わせることで母親同士が繋がり合うことを目的の一つにしていたが、2020年度はそれができない状況だったので、受講者でLINEグループをつくり、講座の感想をLINE上でシェアすることを心がけたそうで、それによって紙片に短時間で書く感想より、丁寧に自分の思いをアウトプットできたため、

回を重ねるたびに学びがさらに深まっていくのが実感できたという。今後に向けて、たくさんの示唆を得ることができたと、担当者は振り返る。

「今回の助成をいただければ、このコロナ禍の中での開催は難しかったと思います。設備を整えばオンラインでやれるかもという気持ちを汲んでいただき、柔軟に対応していただいたことに感謝しております。講座の講師を増やすことができましたし、講座の時間は従来よりも30分短くなりましたが、その代わりに、講師の方々には内容の吟味と準備に十分な時間をかけてもらい、おかげで講座のクオリティが高まりました。また、子ども連れの参加者が安心して学べるよう、毎回託児スタッフを確保することもできたうえ、託児のための玩具も豊富に揃えられたことは大きかったです」と、団体の担当者は話してくれた。



新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりオンラインで開催



助成団体:一般社団法人 スタディライフ熊本

<http://www.study-life-kumamoto.com/>



#### 母親が学ぶことが社会にとって重要だとご理解いただき感謝

これまで当スクールを運営するためにいくつかの助成を申請してきましたが、毎回、不採用でした。2020年、POSCから助成をいただけることがわかったときには、嬉しくてスタッフで小躍りしたくらいです。私たちがやってきたこと、やりたいことが認められたのだと思うと、これまでの苦労が吹っ飛びました。

一般社団法人 スタディライフ熊本  
代表 古川 寛子さん

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(やすらぎ・いたわり)

## 「スマイルごはんプロジェクト」事業

### 子ども食堂でごはんと一緒に大道芸を楽しむ 夢のあるプロジェクトが今こそ必要と信じて

子どもたちに笑顔を届けるため、子ども食堂と協力しておいしいごはんと楽しいパフォーマンスを提供しようというプロジェクトが、中部地方を中心に活動する大道芸のネットワーク団体によって行われている。コロナの影響を大きく受け、子どもたちが楽しめるイベントがどんどん中止になっていくときだからこそ意義がある事業といえるだろう。



子ども食堂にやってくる子どもたちに、食事とともに大道芸などのパフォーマンスを楽しんでもらう「スマイルごはんプロジェクト」



#### 子ども食堂も大道芸も子どもたちを 笑顔にしたいという共通の目的がある

岐阜県各務原市に拠点を置く「中部大道芸ネットワーク」は、大道芸を通じた社会貢献活動を目指し、大道芸の普及啓発活動、大道芸の技術向上と育成指導活動、大道芸によるボランティア活動などを行っている。同団体が、2020年の初めから主にボランティアとしてその活動をスタートさせたのが、「スマイルごはんプロジェクト」である。

このプロジェクトは、子ども食堂にやってくる子どもたちに、食事とともに大道芸、ジャグリング、バルーン、マジック、科学実験などのパフォーマンスを楽しんでもらおうというものだが、子ども食堂も大道芸も同じ子どもたちの笑顔のために活動をしているということから、大道芸が子ども食堂のために何かお手伝いできないだろうかという発想で始めたものだ。また、子ども食堂は貧困対策だけが目的ではなく、

地域活動の拠点として広い世代の交流や孤食の解消なども目的としているのだが、貧困が強調されることで支援が必要な人が参加を躊躇してしまうという実情もある。そこで人を呼び寄せる工夫として大道芸が協力することで、足を運ぶ一つのきっかけになるのではないかと考えたという。

ところが、2020年度はコロナ禍の中で感染の恐れから、子ども食堂自体が開設されないという状況が続き、一時は事業の中断も考えた。しかし、学校が休校になったり、児童館なども活動が中止に追い込まれたりすることで、楽しみが減ってしまった子どもたちに対して、こういうときだからこそ楽しい時間を届けたいと思い直し、食事の提供を子ども食堂に頼らなくてもいいよう、キッチンカーや飲食店に食事の提供をお願いし、大道芸もできるだけ屋外で行うように計画を変更して実施した。

#### コロナ禍の厳しい状況でもあきらめず 子どもたちに笑顔を届ける活動を実施

コロナ禍という厳しい状況ではあったが、2020年度は三重県いなべ市／カフェういこっちゃんね(8月1日・2日、参加者120名)、岐阜県恵那市／恵那文化センター(8月8日・9日、同80名)、愛知県田原市／ララグラン(9月12日・13日、同200名)、愛知県長久手市／モリコロパーク(10月10日・11日、同120名)、愛知県豊橋市／豊橋市こども未来館ここにこ(10月24日、同200名)、愛知県大府市／あいち健康の森公園(10月24日・25日、同200名)、愛知県名古屋市／大高緑地(11月23日、同200名)、愛知県東浦町／みんなのいえ(12月19日、同50名)、愛知県名古屋市／つなぐハウス(12月21日、同20名)、愛知県名古屋市／前津児童館(1月9日、同20名)で、「スマイルご

はんプロジェクト」を実施することができた。

「本来ならばもっと多くの子ども食堂に協力することができただろうし、もっと多くの子どもたちの笑顔に出会えたはずだと思うと非常に残念ですが、この状況のなかでも子どもたちを支援する活動ができたことは非常に有意義だったと思う。それもこれも助成があったからで、特にコロナ禍の最中でメンバーにボランティア活動する余裕が全くなかったため、助成金がなかったら活動を休止せざるを得なかったと思います。行った先、行った先で、待ってましたといわんばかりの子どもたちの満面の笑顔に出会えたことが印象に残っているし、実施した会場からも子どもたちの楽しさが少ないこの時期に、安全に開催することができてよかったと感想をいただいています」と、同団体では感謝と事業の手応えを語ってくれた。



コロナ禍の難しい状況のなか、子どもたちが楽しめるパフォーマンスを届けた



助成団体:特定非営利活動法人 中部大道芸ネットワーク

<http://cdn.or.jp>



#### たくさんの笑顔に出会うことができ、POSCに感謝しております

ご協力いただけたことで、このコロナ禍のなかでもたくさんの笑顔に出会う活動ができました。世の中の状況は大変に難しく、2020年度の助成の対象でなかったら、私たちの活動は休止せざるを得なかったと思います。まだしばらく難しい状況は続いています。子どもたちの笑顔のために活動していきたいと思っています。

特定非営利活動法人 中部大道芸ネットワーク  
理事長 鈴村 仁志さん

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(やすらぎ・いたわり)

## 「函館の子どもたちの健康と未来を考える 食育プロジェクト」事業

### 食育や貧困対策の一環である子ども食堂を通して 社会的課題のフードロスを地域全体で考える

子どもの貧困対策や地域の人々の居場所づくりとして期待され、日本各地で取り組みが進められている子ども食堂だが、新型コロナウイルスの影響で苦境に立たされた実施団体や機関は多い。そんな状況下、様々な工夫をしながら開催を続け、さらにフードロスという社会的課題の解決と結びつける試みに挑んだ団体が、北海道函館市にある。



「にこにこ子ども食堂」の開催を告知するチラシと食堂の様子。コロナ禍でテイクアウトや食材配布に切り替えて実施

#### 子ども食堂の実施やイベント開催で 社会的課題の解決に挑む

函館市に拠点を置く「北海道国際交流センター(HIF)」は、人と人との交流を通じて国際相互理解教育の推進と世界の平和に貢献することを目的に、留学生のホームステイプログラムや海外で日本語を勉強する学生向けの日本語教育、在住外国人向けの多文化共生事業、生活困窮者自立支援・学習支援、フリーペーパーの発行、環境保全活動など、多岐に渡る事業を行っている。

同団体によれば、函館市では母子世帯の割合が北海道内の平均よりも高い18.7%となっていて、それに伴い貧困リスクが高く、なかには日々の栄養を給食に頼っている子どもも多く、夏休みや冬休みなどの長期休み中に家で

ごはんを食べることができず、やせ細っている子どももいる。また、函館市の食品ロス発生量は年間4,076トンで、そのうち食べ残しは2,566トンとなっていて、市民1人あたりに換算すると、1日約43.5グラムが廃棄されていることになり、食料廃棄問題は地域のなかでも重要な課題となっている。

そこで同団体では、子ども食堂を通じ、子どもの貧困対策やフードロス削減などの社会的課題解決へ貢献するための活動に取り組むことを決定。毎週金曜日(16:30~18:00)に「にこにこ子ども食堂」を開催するとともに、フードロスをテーマとしたイベントを開催したり(計4回、参加者は延べ約140名)、SDGs(持続可能な開発目標)を掲げた「SDGsマルシェ」というイベントに出展したりした。なお、「にこにこ子ども食堂」は全部で45回開催され、参加人数は

1,291名(累計)にのぼった。コロナ禍でやむを得ず開催できないときもあったが、テイクアウトや食材配布に切り替えるなど柔軟に活動に取り組んだという。

#### 子どもの食育やフードロスの問題を 地域全体の課題として考える必要性

子ども食堂は食事の提供だけではなく、地域の人たちの交流の場など食事以外での役割も担っていたが、新型コロナによってその居場所づくりやイベント開催などを制限しなくてはならないことが本当に残念だったと、同団体では話す。その一方、フードロスをテーマとした講演会には企業の方も多く参加し、熱心に講師の話聞く姿も見受けられ、地域のなかで社会課題をともに学び合う良い機会になったと、同団体では振り返る。

「新型コロナの影響で食材のロスが発生したホテルなどから、経営が大変な状況にも関わらず子どもたちのために有効に使ってもらえるなら食材を提供していただくなど、

生きることの基本である食べることに様々な善意が持ち寄せられ、自分たちの活動ができていいることを実感しました。食料廃棄問題について地域で話し合い、学ぶ機会をつくり続けることで、企業だけではなく個人のフードロスに対する意識を高めていくことが課題解決に近づくために必要であり、将来を担う子どもたちへの食育に関しても課題解決の重要な役割を果たすということを地域全体で共有していきたい」と、事業の担当者は将来について語った。

今後は地域に合った新しい子ども食堂のスタイルを模索しながら、さらにネットワークを広げ、必要としている人に支援が届く仕組みづくりを強化することが課題だが、今回の助成のおかげで実現できたリーフレットの製作、のぼりの設置などを通じて、子ども食堂の存在やイベント開催の周知ができ、地域の方々や子どもたちと貴重な時間や機会を共有できたことは、とても有意義だったという。



フードロスをテーマとしたイベントの開催を告知するチラシ



「SDGsマルシェ」イベントにも出展

助成団体:一般財団法人 北海道国際交流センター

<http://www.hif.or.jp>



#### 事業の実施にあたり様々なお力添えをいただき、感謝しております

全国各地で子ども食堂を運営する方々にとって、このような助成は大変ありがたいものです。今後も子ども食堂を通して、地域の子どもたちや大人にも食べ物の大切さ、人と人の助け合いやつながりの大切さを伝えることができるよう、子どもたちに対する食育や持続可能な居場所づくりのために活動を続けていきたいと思っております。

一般財団法人 北海道国際交流センター  
企画広報セクション・コーディネーター 吉村 美悠さん

一般助成 災害復興コミュニティ支援

## 「東北大学生による被災地に寄り添うプロジェクト」事業

### 被災地で不足する若い力を補う活動を通して避難指示解除で再出発する地域を活気づける

東京電力福島第一原発事故により、いまだに帰還困難なエリアが残る福島県浜通り地区だが、徐々に避難指示が解除されつつある。当地の避難住民に寄り添うボランティア活動を行っている東北大学の学生団体が、コロナ禍で現地での活動が制限されるなか、若い働き手として楡葉町にある田んぼでの稲刈りの手伝いを行った。



東北大学の学生団体が楡葉町にある田んぼでの稲刈りの手伝いを実施



### 2013年から主に福島県浜通り地区の避難住民を対象に様々な支援を継続

「東北大学福興 youth」は、2013年に東北大学の東日本大震災学生ボランティア支援室内に福島部門として誕生し、2015年から現名称を名乗るボランティア団体で、現在、東北大学生17名で活動を行っている。元々、東日本大震災および東京電力福島第一原発事故によって、甚大かつ複合的な被害を受けた福島県浜通り地方において、避難生活によるストレスや仮設住宅での人と人との繋がり希薄さによって抱える孤独感が問題となったことを受けて発足した団体で、①福島県内の被災地・災害公営住宅などにおけるイベント企画・運営、および傾聴ボランティア、②福島県内の被災地復興に向けた各種取り組みに参画

する他団体との交流、③主に東北大学生を対象としたツアープログラム（研修旅行）の企画・実施などの事業を行っている。

同団体では2020年度の活動の一環として、10月3日に福島県双葉郡楡葉町の木戸にある古民家で行われた稲刈りに参加した。当日は、団体のメンバー6名に加え、現地の方と、別途参加した留学生合わせて計20名程度での活動となった。稲刈りをした水田は、元東京電力社員で現在、一般社団法人 AFW の代表理事を務める吉川彰浩さんから紹介されたもので、これまでも同団体では原発事故の概要や地域の課題について教えていただくなど、たびたび吉川さんにお世話になってきた。その吉川さんからの誘いもあり、前年度に続き、2回目の稲刈りの参加となった。

楡葉町は原発事故による人口減少率が非常に高く、高齢化も進んでいる。加えて、この田んぼでは機械に頼らず全て人力で栽培を行っていることから、若者の人手不足の問題も深刻となっていたため、その解消の一助になればということで、稲刈りの手伝いをすることにした。

### コロナ禍の中でのボランティア活動で被災地の農業の現状の一端を実感

新型コロナの影響により、直接、福島の実地へ赴いて活動する機会が限られるなか、この稲刈りの手伝いは同団体にとって、現地視察に留まらず、地域住民の方々や他のボランティアの方々と直接交流することができた唯一の活動だった。また、2020年度から同団体に参加したメンバーにとっては初めてのボランティア活動であり、実際に現地での活動することで分かることや感じることもあり、今後の事業内容を考えるうえで大いに参考になったという。「震災があつてから、楡葉町ではますます過疎化が進み、

農業に従事する若い世代がより減少している。よって私たちのような外部の人間が農業体験をさせていただくことで、震災後の農業人口の現状を特に若い世代に伝えていきたい。一方で実際に農業を体験することで、私たちが普段、何気なく食べている米を作ることがいかに大変なことなのかを改めて実感した。現地の住民の方々にとって、田んぼは長い間慣れ親しんできたものであり、その喪失は心のよりどころや生きがいを失うことでもある。震災や原発事故などの災害がもたらす精神的な苦痛は、自分たちの想像以上であることに気づいた」と、事業の担当者は話す。

今回の助成は、主に現地を訪れるためのレンタカー代に使われた。同団体の活動場所は福島であり、大学の仙台から遠いため、特に移動にかかる金銭面の課題が大きい。また、2020年度はコロナに対する感染予防として車の乗車人数を抑える必要があり、通常よりも多くの台数が必要となったが、今回の POSC の助成がなければ、その費用を賄うことは難しかったという。



米作りは想像以上の重労働で農業の苦労を学んだ貴重な体験となった



助成団体:東北大学福興 youth

<https://fukko-youth.tumblr.com/>



### コロナ禍にもかかわらず活動ができ、助成に感謝いたします

コロナ禍の影響により、現地の受け入れ体制が申請時点とは大きく異なり、事業に大幅な変更が生じました。このような情勢のなかで一つでも活動を行うことができたのは、弊団体にとってとても大きな意味がありました。POSC にはその活動を支えていただき、また再三の変更にも応じていただき、ありがとうございました。

東北大学福興 youth  
代表 大内 拓己さん



石川県遊技業協同組合  
ならびに同県金沢支部  
「医療用防護服およびオゾン紫  
外線除菌機器の寄贈」事業



石川県遊技業協同組合  
理事長  
浅野哲洋さん

選考理由

今回の社会貢献大賞には、審査員全員の高い評価を得て、石川県遊技業協同組合ならびに同金沢支部が共同実施した「医療用防護服およびオゾン紫外線除菌機器の寄贈」事業が選抜された。時代の緊急のニーズに地元企業と連携して対応した本事業は、まさに時宜を得たものであり、知事から感謝状を贈呈されるほか、マスコミでも広く取り上げられた。政府の対応の遅れを民間の業界が補うという意味でも、その意義が大きい。また、県組合と同支部が合同で大賞を受賞するというのも今回初めてのケースである。この卓越した意義深い事業を企画・実施された関係者のご努力に心から敬意を表したい。

社会貢献活動審査委員会  
委員長代行  
野口 昇氏



新型コロナ治療の  
最前線に立つ  
医療従事者に感染予防の  
防護服を寄贈

マスクや防護服が不足する緊急事態に  
対処するために防護服寄贈を実施

一見、モノがあふれ、豊かに見える日本社会だが、大きな災害や事故などに見舞われたときにその脆弱性が露わになることがある。その一例が、2020年の年明けから日本を襲った新型コロナウイルスのパンデミックによって引き起こされた様々な騒動だといえる。それまでであることが当たり前で、よほどのことがない限り意識することもなかったマスクが、なんと国内に在庫がほとんどないことが判明した。

そこで、いわゆる「アベノマスク」が急きょ国民に配給されることになったのだが、ことはそれだけに留まるものではなかった。一般用のマスクよりもっと深刻だったのは、新型コロナ患者の診療や治療にあたる医療従事者用のマスクや防護服が欠乏するという事態だった。本来ならば使い捨てにしなければならないにもかかわらず、新しいモノがないということで、洗って再び使わざるを得ない状況にあるという報道が何度もなされた。

そうした事態に対し、日本各地で様々な団体、企業、個人などがマスクや医療用防護服などを自分たちで制作し、関係機関に贈るというニュースが幾度となく流れた。まさに市民レベルで共助の精神が発揮された例といえるが、そうした流れに倅さすものとして遊技業界のなかで注目されたのが、約70ホールを傘下に持つ石川県遊技業協同組合（以下、石遊協）による医療用防護服の寄贈事業だ。



県庁で行われた贈呈式では知事から感謝状が贈られた



救急車の車内や医療機関の待合室などで使用する  
オゾン紫外線除菌機器を50台寄贈

石川県内の繊維販売会社と共同して  
オリジナルの医療用防護服を開発

石遊協では、2020年6月3日、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、医療従事者用の防護服5,000着と、救急車の車内や医療機関の待合室などで使用されるオゾン紫外線除菌機器50台を、石川県健康福祉部を通じて県内の医療機関に寄贈した。なお、このうち、防護服1,000着とオゾン紫外線除菌機器は、石遊協の活動に賛同した同組合金沢支部から贈られたものである。

防護服は石川県中能登町で繊維販売などを行う新日本テックスが自社製のポリエステル製自転車カバーの素材を使って開発したもので、煮沸消毒することで、再利用することもできる。製作段階で医療従事者の方々に試着してもらい、様々な意見を聞きながら、着脱のしやすさなどの改良を重ねたものだという。

寄贈当日は、石遊協の浅野哲洋理事長と新日本テックスの木村静夫社長らが県庁に谷本正憲知事を訪ね、目録を贈呈する形で実施されたが、浅野理事長は庁内で行われた報道関係者からのインタビューで、「今回の新型コロナウイルス感染で一番大変なのは、患者さんの手当てをしている医療従事者の方々。少しでもそうした方々の力になればいいと思い、寄贈を決めました」と説明した。また、谷本知事からは、「県の休業要請に組合所属のパチンコ店は応じていただいた。その節は大変なご苦勞をおかけしたが、ご協力いただき、改めてお礼申し上げたい」と、感謝の言葉が述べられた。

なお、寄贈の様子は当日のNHKやローカル局のニュースで放映されたほか、翌日の「北国新聞」などの地元紙にも記事が掲載された。



福岡県遊技業協同組合  
「第13回こども絵画コンクール」  
事業



福岡県遊技業協同組合  
理事長  
平岡聖教さん

選考理由

「このマグカップの絵、僕が描いたんだよ!」「カレンダー今月は私の絵よ!」こんな子どもたちの喜びの声が聞こえてきます。例年開催していた「こども絵画コンクール」の表彰式をコロナ禍のため取りやめ、作品でカレンダーを制作し、さらにマグカップに転写して個人賞にして贈呈、という温かい企画でした。保護者と一緒に生活できない子どもたちにとっては一生の宝物です。またWEB作品展により話題は温かく広がり、子どもたちの健やかな未来を願う当組合の活動は広く認識を深めました。



社会貢献活動審査委員会  
委員  
脇田直枝氏

児童養護施設で  
生活する子どもたちの  
絵画コンクールを  
10年以上も継続開催

社会的養護の対象である子どもたちが  
描いた絵を募集して実施される絵画展

日本には今、親の病気や経済的困窮、虐待などの理由により、親と一緒に暮らせない子どもたちが約45,000人いる(2017年、厚生労働省調べ)。そうした子どもたちは、「社会的養護」の対象とされている。

社会的養護とは、保護者のいない子どもや、様々な理由で親と暮らせない子どもたちを、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱えている家庭への支援を行うことで、「子どもの最善の利益のために」、「社会全体で子どもを育む」を理念として行われている。社会的養護にある子どもたちは、一般的には、日本各地にある児童養護施設、乳児院などの施設、あるいは里親のもとやファミリーホーム(養育者の住居において家庭養護を行う)などで生活している。

福岡県遊技業協同組合(以下、福遊協)で社会貢献活動などを担う青年部会では、社会貢献事業の一環として、県内にある児童養護施設で生活する小中学生を対象に、毎回テーマを決めて作品を募集する「こども絵画コンクール」を2008年から毎年、実施している。この事業は、様々な事情で保護者と一緒に生活できない子どもたちの健やかな成長と限りない未来に寄与することを目的とし、絵画を通じて子どもたちの創造力や表現力、感性を育むだけでなく、コンクールを通じて一つの作品を努力して完成させることの喜びを感じてほしいとの願いが込められている。

■第13回こども絵画コンクール作品展  
https://www.kodomo-kaiga.com/frmDefault.aspx



Webサイトで公開されている第13回こども絵画コンクール作品展



応募作品がプリントされたカレンダーとマグカップ

コロナ禍の厳しい状況にありながら  
316の応募作があった2020年の絵画展

第13回目の開催となった2020年のコンクールでは、現在、世界的な課題として様々な分野で取り組みが行われているSDGs(エスディーゼーズ:持続的な開発目標)にも通じるような「未来の地球」がテーマとして設定された。

約2か月間の募集期間が設けられ、県内にある19の児童養護施設から子どもたちが一生懸命に描いた316作品の応募があった。10月初旬に審査会(組合、青年部会、絵画有識者ら14名で構成)が開催され、応募作のなかから、入賞作として個人賞36作品、施設賞5施設が選出された。

例年であれば、福岡市天神にある福岡市役所1階の多目的ホールで作品展を開催していたのだが、2020年は新型コロナウイルス感染症を防止するため、web作品展として開催することにし、12月末から福遊協のホームページ上にバナーを載せ、それを経由して、入賞作品はもとより、応募作品すべてを自由に鑑賞できるようにした。また、コロナ禍のため、例年行っていた表彰式を中止とし、参加賞として贈られていた屋外レジャー施設のチケットも各自の応募作品がプリントされたマグカップとカレンダーに変更し、各施設にお菓子とともに配られた。施設からは、「自分が描いた絵入りのマグカップをととても喜び、帰省の際に親に見せるのを楽しみにしている子どももいる」といったお礼の手紙が届いているという。

毎年、年度当初に企画・立案し、10ヶ月をかけて実施している事業だが、主催する青年部会では、「描かれた応募作品を通じて、こども絵画コンクールの活動が子どもたちに年々、浸透していることが肌で感じられ、今後ともこの活動を継続して、より一層、内容の充実を図っていきたい」と話している。



**島原半島遊技場組合  
(長崎県遊技業協同組合)  
「安全・安心まちづくり」事業**



島原半島遊技場組合  
組合長  
藤山剛士さん

**選考理由**

コロナ禍のなかで、今この街に必要なもの、それは「医療と治安の安定」であるとの観点から、島原医師会へ防護服150着、治安安定の一助として島原警察署にマスク320枚を寄付すると共に、特殊詐欺への注意喚起のための防犯カレンダー2,000部を寄贈。加えて注意喚起のピクトグラム(情報や注意を促す視覚記号、絵文字。例として“非常口マーク”“禁煙マーク”などがある)を、高校生から募集するなど、青少年を巻き込んだパブリシティ効果の高い事業もあり、地域貢献活動として、高く評価出来る。

社会貢献活動審査委員会  
委員  
松尾守人氏



**「今、何が必要なのか」の  
要望に応え、  
地域にとって本当に必要な  
社会貢献を実施**

**島原半島が安全・安心な場所になるように自治体や警察と連携**

有明海に突き出た長崎県の島原半島といえば、雲仙温泉郷や島原半島ジオパーク、島原の乱の遺跡などを抱えた風光明媚な名所である。この半島には、島原市、南島原市、雲仙市の3つの自治体があり、そこで営業する11ホールで構成されているのが、島原半島遊技場組合である。同組合では、安全・安心なまちづくりに協力するため、地元自治体や防犯協会などに対する寄付・寄贈やイベントへの参加を積極的、継続的に行っている。

同組合では、2017年度にもPOSCの前身である全日本社会貢献団体機構(AJOSC)の顕彰事業において優秀賞を受賞しているが、社会貢献活動の理念としているのは、「今、何が必要なのか」という地域のニーズを敏感に汲み上げ、それに対応した活動を実施することである。社会貢献活動においては、ややもすれば「する側」の論理が優先されることで、それが現状に見合っていないかったり、過剰や空回りしたりする事態がないわけではない。そうならないようにするためにも、日頃から「される側」の地元自治体や防犯機関などと密接な連携を取りながら、その要望や要求に真摯に耳を傾ける必要がある。

地域密着度が高い支部組合が行う社会貢献活動にとっては、そうした態度や考え方が特に重要といえるが、安全・安心なまちづくりに協力するという太い柱のもと、それを長期にわたって実践しているのが同組合である。



島原市医師会に防護服や島原警察署にマスクを寄贈



特殊詐欺への注意を喚起する島原警察署のオリジナルカレンダーを寄贈

**地元医師会への防護服の寄贈と  
特殊詐欺被害防止のカレンダー作製**

同組合では昨夏のコロナ禍において、「今、何が必要か」の観点のもと、島原市や島原警察署などと協議し、「医療や治安の安定が安全・安心なまちづくりにつながる」という考えから、島原市役所を通じて感染予防に必要な防護服150着を島原市医師会に寄贈したほか、治安安定の一助として、同じく島原市役所を通じて島原警察署に抗菌布マスク320枚を寄贈した。

さらに2020年1月には、長崎県でも新型コロナ特別警戒警報が発令されるなか、再度、防護服800着を島原市に寄贈した。その折に島原市役所で開催された贈呈式において、「医療機関が毎日、頑張っておられる。市医師会に防護服を届けることで感謝の気持ちを伝え、さらに感染予防に努めていきたい」と、市長から同組合の藤山剛士組合長に対して感謝の言葉をいただいた。贈呈式の模様は地元のケーブルテレビで放映されたほか、地元紙の『島原新聞』に掲載された。

また、同組合では、依然として後を絶たない特殊詐欺被害に歯止めをかけようと、詐欺への注意を喚起する島原警察署のオリジナルカレンダー(2021年版)2,000枚を作製し、寄贈した。このカレンダーは12ヵ月分を1枚紙にまとめたもので、詐欺の手口が一目でわかるようなピクトグラム(絵文字)が14作品並んでいる。このピクトグラムは、島原市内にある県立高校5校の生徒から募集したものである。カレンダーは高齢者対策に取り組む市内の事業者を始め、老人会、独居高齢者などに配布された。こうした活動に対し、島原警察署長から「警察業務支援功労」の感謝状が同組合に届けられた。



## 自然と親しむ体験から 生まれてくる 環境を守る意識を 子どもに育む活動

### 香川県 愛染興業株式会社 「子供達による瀬戸内海の 環境維持改善活動の継続」 事業



愛染興業株式会社  
代表取締役 社長  
文 基源さん

#### 選考理由

21世紀最大の課題は環境問題への関心を日々の暮らしのなかでも深めていくことだろう。愛染興行株式会社は社員の家族を中心に、保育園や地域の子どもたちにも声をかけ、汚れた高松市の海岸のプラスチックゴミを拾うなど清掃作業を続けてきた。同時に、タイ、ヒラメなどの稚魚の放流を行うことで、海の資源の育成にも貢献、楽しみながらふるさとの環境の改善に貢献している。2009年から12年間にわたる活動は子どもたちのこれからの生き方にも好ましい影響を与えることだろう。

社会貢献活動審査委員会  
委員  
永井多恵子氏



#### 従業員の家族や子どもたちが参加して 瀬戸内海の海岸清掃と稚魚の放流

地球温暖化が進行するなかで、これまで以上に環境問題がクローズアップされている。地球に暮らすものとして、国籍、人種、老若男女などを問わず、誰もが環境問題に対してコンシャスでなくてはならないが、なかんずく地球の未来を担う子どもたちが、持続的な成長のためにも環境維持の重要性を自覚して行動することが重要と思われる。また、大人たちにとっては、そうしたきっかけや機会を子どもたちに提供することが求められる。

高松市を中心に香川県内に15ホールを展開する愛染興業株式会社では、2009年から12年間連続で高松市や坂出市の瀬戸内海に面した海岸で、子どもたちと一緒に清掃活動と稚魚（タイ、ヒラメなど）の放流を行っている。風光明媚な多島美で知られる瀬戸内海だが、場所によっては流れ着いたプラスチックゴミなどがたまった海岸があり、また近年の埋め立てや汚染により、漁業資源が減りつつあるといわれている。同社では、瀬戸内海の豊かさを守り、それを次の世代に残していくことを目的に、この活動を継続しているという。

活動に参加するのは、基本的に同社グループの従業員とその家族、関係する企業主導型保育所などの園児たちだが、小学生や園児たちは海水浴ができる格好で稚魚放流や海岸清掃を行い、それを手伝う大人たちは同僚や店舗間でのコミュニケーションの活性化を図っている。



稚魚放流活動を告知するポスター



12年間で約13,600匹の稚魚を放流し、  
参加人数は延べ520名が参加

#### 自治体や警察署などと連携しながら 社会事象に即した社会貢献活動を実施

毎年、「海の日」の前後に開催しているが、これまでの12年間で、約13,600匹の稚魚を放流し、参加人数は延べ520名となっている。2020年は新型コロナの影響により規模を縮小して少人数で実施したため、マスコミによる取材や報道はなかったが、例年、報道各社が取材に訪れ、夕方のニュースで報道されており、地域住民、自治体、漁業関係者などからも高い評価を得ている。

同社では、この他にも地元の自治体や警察署などと連携しながら、人・モノ・予算のバランスを考え、社会事象に敏感に反応しながら、効果的な結果が出るよう創意工夫しつつ、様々な社会貢献活動に取り組んでいる。

継続して行っているものとしては、毎年8月に実施されている「24時間テレビ 愛は地球を救う」の趣旨に賛同し、全ホールが参加して募金（玉、コイン、現金）活動を展開し、毎回約100万円を寄付している。2020年で34回目となり、寄付額の合計は約3,400万円となっている。また、年間を通じて同社のホールがある高松市内の商店街の清掃を行い、商店街の方々から称賛されている。

さらに2020年5月には新型コロナの感染拡大でマスクが不足するなか、市内の保育所でクラスターが発生したため、高松市を通して市内の市立保育所、こども園、幼稚園に不織布マスク計10,000枚を寄贈した（香川県遊技業協同組合名義だが、発案およびマスク提供は同社）。また、同社では駐車場での子ども放置事案撲滅のための活動に積極的に取り組んでいるが、10月に同社のさぬき市内にあるホールの駐車場で実施された地域安全キャンペーンに協力し、駐車場の見回り担当の「車マネジャー」が新聞社やテレビ局の取材を受けた。



**宮城県遊技業協同組合**  
**「震災後の生活弱者等への支援及び地域の安全安心の確保に向けた支援活動」事業**



宮城県遊技業協同組合  
 理事長  
 竹田隆さん

**東日本大震災の  
 激甚災害の指定を受けた  
 被災地・宮城県で  
 復旧・復興を側面から支える**

**行政支援の網の目からこぼれがちな生活弱者が安心して暮らせるために**

岩手県、宮城県、福島県の東北3県を中心に、死者15,899人、行方不明者2,526人(2021年3月10日、警察庁緊急災害警備本部発表)という未曾有の被害となった2011年3月11日の東日本大震災の発生から、ちょうど10年が経過した。その間、遅々とした歩みながらも道路、住宅、港湾などのインフラ整備が進められ、徐々に復旧・復興に向けた形が整えられてきた。しかし、被災地の現地に足を運べば明らかのように、失われた生業の回復には至っておらず、さらなる経済的支援や人的支援、精神面でのケアが必要な状況にあり、復興も「途(みち)半(なか)ば」といった感否めない。

特に問題となるのは、国や自治体などの行政支援の網の目からときとしてこぼれてしまう、いわゆる「生活弱者」と呼ばれる人々がいることである(例えば、震災孤児、難病患者、身体障がい者などの要支援者)。そうした人々が少しでも安心して暮らせるようになれば、本当の意味での復興とはいえないだろう。

そうした復興を側面から支えることも地元で事業を営む企業が果たすべき社会的責任の一環といえるが、東日本大震災以前からそうしたことに継続的に取り組んできたのが、宮城県遊技業協同組合(以下、宮遊協)である。宮遊協では、コロナ禍の厳しい財政状況のなか、ともすれば見過ごされがちな生活弱者などに対する支援や、地域の安全や安心の確保につながる社会貢献活動を2020年も実施した。



児童養護施設や宮城骨髄バンク等3団体に寄付金を贈呈



毎年、防犯や社会福祉団体に寄付金を贈呈

**大震災、新型コロナと続くなかで  
 関係者と共に苦労を分かち合う**

宮遊協では生活弱者などに対する支援として、2014年から児童養護施設の社会福祉法人「気仙沼旭が丘学園」に毎年100万円(2020年は50万円)の寄付を行っている。また、2016年から一般社団法人「宮城骨髄バンク」に毎年50万円(同25万円)、2014年から仙台市にある児童養護施設のNPO法人「子どもの村東北」に毎年50万円(2017年は30万円、2020年は25万円)の寄付金を贈った。宮城骨髄バンクと子どもの村東北に対する寄付金の贈呈式は2020年9月に宮城県遊技会館で行われたが、前者の坪内啓理事からは、「骨髄バンクの登録者を増やすため、大切に使いたい」、後者の飯沼一字理事長からは、「全般的に寄付金が減るなか、支援を続けていただきありがたい」と、感謝の言葉が寄せられた。上記3団体への寄付金は従来、6月に行われる「ファン感謝デー」の収益金から充てられていたが、2020年はその催事がコロナ禍で中止されたことから、組合本体からの拠出で対応したという。宮遊協の竹田隆理事長は、「経営は厳しいが、こんなときだからこそ、社会福祉団体のみならずと苦労を分かち合いたい」と、贈呈式で話した。

さらに1992年からヤクルトとの共催で、県内4箇所の社会福祉施設に対し、軽作業(組合員ホールの正月客に配布する年賀用品への年賀シール貼付作業)実施への謝礼金を含めた寄付金を贈っている。

また、地域の安全安心の確保につながるものとしては、2009年から公益財団法人「日本盲導犬協会仙台訓練センター」に毎年50万円の寄付、1997年から公益社団法人「宮城県防犯協会連合会」に毎年100万円、1998年から公益財団法人「宮城県暴力団追放センター」に毎年100万円、2010年から公益社団法人「みやぎ犯罪被害者支援センター」に毎年50万円の寄付を行っている。



## 児童・生徒たちが 安心して学校生活を 送れるようにコロナ予防の マスクを寄贈

### 秋田県遊技業協同組合 「コロナ感染予防対策 (秋田市小中高全児童へ マスク42,000枚を寄贈)」事業



秋田県遊技業協同組合  
理事長  
松岡信吉さん

#### 秋田市内の小中高に通う児童・生徒に 1人あたり2枚のマスクを寄贈

2020年から新型コロナウイルスの感染拡大により、歴史上あまり経験することのなかったパンデミックに、改めて感染症の恐ろしさを思い知らされたというのが実情だろう。遅ればせながらワクチン接種が進むなかで、何とか収束に近づいて欲しいと国民の誰もが願っているに違いない。

決定的な治療薬が開発されていない今、感染対策として掲げられているのは、不要不急の外出や「三密」の回避、手指の洗浄、そしてマスクの着用などだが、なかでもマスクは、飛沫感染を基本とするコロナウイルスに対し、飛沫が飛ぶのを防ぎ、また口や鼻などからの飛沫の浸入を防ぐという意味で感染予防効果が高いと期待されている(ただし、不織布などマスクの性質にもよる)。

ところが、そのマスクが大幅に不足しているという事態が2020年の春、日本で起きた。苦肉の策として、政府は原則、全世帯に2枚ずつガーゼ製の布マスクを配布することになったのだが、秋田県遊技業協同組合(以下、秋遊協)ではさらに、将来を担う児童生徒に対する健全育成、および新型コロナウイルスの感染予防を目的に、秋田市内の小中高の全児童・生徒に、1人あたり2枚のマスクが行き渡るよう、42,000枚のマスクを寄贈することにした。このマスクは、秋田県教育委員会を介して、秋田市内の計67校の学校に通う児童・生徒に届けられた。



秋田市役所で行われたマスクの贈呈式



マスクの寄贈に対し、市長から感謝状が贈られた



県内の福祉施設に車いすを毎年寄贈

#### 行政機関などとの日頃の連携から 実現した社会貢献活動の事例

今回の事業は、新型コロナ感染症拡大の初期段階から、秋遊協の執行部会において「組合員ホール以外でも、社会貢献活動の一環として児童・生徒を対象にした感染抑制対策が必要ではないか」との提言を受け、日頃から連携を図っている行政側からの要望である「品不足にあるマスクの寄贈」という声に応えるために行われたものである。

2020年7月2日に行われた贈呈式では、秋遊協の松岡信吉理事長、新井泉副理事長らが出席し、穂積志秋田市長に目録が渡された。その際、理事長は「秋田の宝である子どもたちの力になればいい」と話し、市長からは「子どもたちの感染予防に役立てたい」と感謝の言葉があった。その模様は市広報や地元紙、NHKやローカル局などで報じられ、それを見た市民から高い評価を受けたほか、寄贈を受けたある学校の校長から、「子どもたちにとって、改めて地域にどのように貢献していくかを考えるよい機会をいただいたものと考えております」との礼状をいただいた。

今回のマスク寄贈は、行政や教育機関、福祉関連団体などと平素から密接に連携を取っていることから実現したものだが、例えば秋遊協では毎年、県内の社会福祉協議会が選定した福祉施設6ヵ所に車いすを2台ずつ計12台寄贈している(継続12年)。また、2019年には、秋田中央遊技業協同組合と連名で「災害時における支援協力に関する協定」を秋田市と締結し、災害時に組合員ホールの駐車場スペースを緊急車両の待機場所および一般車両の一時避難場所として提供するほか、店内のトイレの貸し出しや飲料水を提供することなどを取り決めている。また、あわせて秋田市の災害時用の備蓄品としてエアーマット20台も寄贈している。



## 子どもたちの安全を見守るとともに 地域の犯罪被害を防止する取り組み

### 福島県遊技業協同組合連合会 「子どもの見守り活動・なりすまし 詐欺撲滅キャンペーン (福島県警察との共催)」事業



福島県遊技業協同組合連合会  
代表理事  
諸田英模さん

#### 県警察本部の取り組みに賛同して 子どもたちの「ながら見守り」活動を実施

道案内や送り届けなどの様々な口実で子どもや女性に声をかける行為で、性犯罪や誘拐などの凶悪犯罪に発展する恐れのあるものを「声かけ事案」と呼ぶ。福島県内で発生した声かけ事案は、被害者の多くが小学生、発生場所のほとんどが路上となっており、発生時間も下校時間にあたる午後1時～5時が最も多いという。

そこで福島県警察本部では、2018年に政府において「登下校防犯プラン」が策定され、その中の柱の一つとして「多様な担い手による見守りの活性化」が提唱されたことを受け、企業や団体などが日常の業務や生活を通じて子どもの見守り活動を行う「ながら見守り」活動を推進するため、「子供の安全・安心ふくしまネットワーク」を立ち上げた。

その趣旨に賛同した福島県遊技業協同組合連合会（以下、福島県遊連）では、団体としてそのネットワークの一員に加わり、傘下にある全組合員ホールが、福島県遊連が作製した「こども見守り活動実施中」の腕章をつけ、ホール駐車場の巡回時間を子どもたちの登下校時間に合わせ、不審者などの警戒を行い、子どもの安全を見守る活動を2019年1月から継続して実施している。見守り活動初日には、県警察本部と共催で福島市内の組合員ホール駐車場で出動式が開催され、約40名の関係者が参加した。この模様が県警ニュースとしてプレスリリースされ、地元紙の「福島民報新聞」「福島民友新聞」が大きく取り上げた。



子どもたちの登下校時間に合わせ、不審者などの警戒を行い、子どもの安全を見守る活動を実施



作製したティッシュペーパーを配布して詐欺被害防止を呼びかける街頭キャンペーンを実施

#### 後を絶たないなりすまし詐欺や 多発する置き被害の防止活動

また、いわゆる「なりすまし詐欺」などの特殊詐欺や置き置き犯罪の被害が福島県内で増加していることから、福島県遊連では福島県警察と共催で、それらの犯罪の防止を目的とする活動を実施している。

置き置き犯罪防止対策として、「置き置き多発警報発令中」というレンチキュラー（見る角度によって絵柄が変化したり、立体感が得られたりする印刷物）POPを800枚作製し、県内全ホールのトイレなどに貼って警戒を促すための広報啓発活動を行っているが、それに対して県警察本部からは、ホールにおける置き置き被害が大きく減少したという高い評価を得ている。

2019年8月には、「なりすまし詐欺に注意」「子ども車内放置撲滅キャンペーン」「置き置き被害に注意」という標語の入ったティッシュペーパー2種類、計15,000個を作製し、県警察本部に贈呈したほか、JR福島駅前において、作製したティッシュペーパーを配布して被害防止を呼びかけるための街頭キャンペーンを実施し、福島県遊連関係者30名、および県警察本部、福島警察署の警察官10名が参加した。こうした活動も地元紙を中心に、「なりすまし詐欺防止へ街頭活動」などの見出しで大きく取り上げられた。

これらの活動は福島県警察本部（生活安全企画課）の指導を得ながら企画・立案し、共催で実施しているもので、現在も継続中である。同様に福島県遊連が2018年から継続して取り組んでいる社会貢献活動として、県内7カ所の児童養護施設で暮らす子どもたちに本（活字）に親しみ、学びと自立心の向上に活かしてもらおうことを目的に、「福島県遊連図書」として絵本などの児童図書を贈呈する事業がある。



**古川地区遊技業組合  
(宮城県遊技業協同組合)  
「子どもの未来のための  
大崎市内小学生全員への  
図書カード寄贈」事業**



古川地区遊技業組合  
組合長  
山野英雄さん

**地元の子どもたちのために  
積み立てた基金を  
活用して  
図書カードを寄贈**

**大震災で親を失った子どもたちに  
NPO法人を通じて学資資金を支援**

宮城県古川地区にある14ホールで構成されている古川地区遊技業組合では、大崎東部地区防犯協会連合会の活動資金として、2020年に20万円、2019年以前は10年以上にわたり毎年30万円を寄付するなど、地域の安全・安心を守る活動に寄与するための貢献を続けてきた。また、現在、同組合の組合長のホール（あーばん三本木店）では、地元の三本木小学校の新入生児童全員に対し、防犯ブザーの寄付を続けている。

2011年に発生した東日本大震災により、同組合のある宮城県大崎市も激しい揺れに伴う甚大な被害に見舞われたが、地域の復旧・復興を支えるための社会貢献活動として、同組合では2011年から2016年までの間、震災により親を失った震災孤児を支援することを目的に設立された団体であるNPO法人「東日本大震災子ども未来基金」に対して、毎年50万円の寄付を続けてきた。

東日本大震災子ども未来基金は、仙台市に拠点を置き、震災によって親を亡くした子どもたちの学資支援を中心に活動を行ってきたが、2017年度からは愛知県豊橋市の忠内政恵さんと滋賀県草津市の三上せきさんが同基金に委ねられた遺産をもとに「忠内政恵・三上せき記念基金」を設け、その資金から、東日本大震災で被災した地域の子どもの心や体をケアする運動や活動をしている団体などが主導するプログラムを助成している。



大崎市内の全小学校に図書カードを寄贈



古川第五小学校で行われた図書カードの寄贈式

**おおさき子ども未来基金を積み立て  
地元の全小学校に図書カードを寄贈**

左記のように支援する子どもたちが高校を卒業するまでの資金に目途が付き、学資支援事業についての寄付が終了したため、同組合ではその後、「おおさき子ども未来基金」の名目で組合費の一部を積み立てていた。

同組合ではその基金を活用し、さらに組合員ホールの募金箱に寄せられた遊技客からの寄付や店内で回収したプルタブなどを換金したものを合わせ、地元の子どもの未来のために役立ててほしいと、大崎市教育委員会に対して図書カード75万円分を寄贈することにした。

この図書カードは大崎市教育委員会を通じ、大崎市内にある全小学校25校（児童6,450人）に配られた。今年1月23日、古川第五小学校の校長室で行われた寄贈式には、組合員ホールの経営関係者11名と、市教育委員会職員、岡文校長らが出席。岡校長が各校を代表して、山野組合長から図書カードを受け取った。

寄贈にあたって山野組合長は、「子どもたちの未来のために使ってほしい。子どもたちに、ぜひ多くの本を読んでほしい」と要望したのに対し、同席した大崎市教育部の佐藤俊夫部長からは、「大崎市では子ども読書活動推進計画を進めており、このような具体的支援は本当に助かる」との感謝の言葉が告げられた。また、岡校長からは、「本は心の栄養。新しい本は子どもたちが読書をするよいきっかけになると思う。うれしい限り」という話があった。

子どもたちの活字離れがいわれて久しいが、一度面白い本に出会うことで生涯続く読書習慣が身につくことがあるので、その契機となると期待される。なお、この寄贈式の模様は地元紙の『河北新報』や『大崎タイムス』に掲載された。



## 地震や台風による 災害が多発するなか 防災に役立つ資機材の 寄贈を続ける

### 船橋遊技場防犯組合 (千葉県遊技業協同組合) 『『災害に強いまちづくり』を支援 ～災害避難体験 VR機材の寄贈～』事業



船橋遊技場防犯組合  
組合長  
織田信幸さん

#### 災害は忘れる前にやって来る今だから 防災に役立つものを継続的に寄贈

日本列島は地球を覆う10数枚のプレートのうち、4枚のプレートがぶつかり合う場所に位置し、それだけ地殻変動が多いのが特徴で、紛れもない地震列島といえる。東日本大震災後も日本各地で大規模な地震がたびたび発生しているわけだが、それに匹敵するような被害をもたらすとされている南海トラフ地震の発生確率について、国は「今後30年以内に70～80%の確率で発生する」と指摘している。さらに温暖化が原因と思われる気候変動によって、日本は毎年のように大規模な水害や土砂災害に見舞われている。巷間でいわれているように、「災害は忘れる前にやって来る」というのが実状であろう。

そんな状況のなかで、地震や水害などの被害を最小限に食い止めるには、それぞれの地域で日頃から防災意識を高め、防災対策を整えておくほかない。千葉県遊技業協同組合を構成する支部組合の一つである船橋遊技場防犯組合では、1995年に発生した阪神淡路大震災を教訓に防災対策の重要性を認識し、これまで船橋市が行う防災対策事業を積極的に支援してきた。2003年から毎年継続して、約150万円から1,000万円の予算をとり、船橋市に対して防災や災害時に必要な資材・機材の寄贈を行ってきた。これまでに同組合から贈られたものとしては、例えばハザードトーク（無線機）、ドローン、リヤカーなどがあり、防災や実際の災害時に役立てられている。

#### 仮想世界のなかで災害現場からの避難を リアルに体験できる避難体験VR

防災意識を高めるためには、どれだけ災害というものに対してリアルな感覚や危機意識を高めておくかが重要であり、避難訓練などもより実践的なものが求められている。そうした動きを受け、同組合では2020年度、船橋市に対して「避難体験VR（バーチャルリアリティ）」を計4台（PC版1台／ソフトウェア2ライセンス〔火災・水害〕、スマホによるムービー版3台／ソフトウェア2ライセンス〔地震・水害〕）寄贈した。

この避難体験VRは、コンピュータの中に作られた仮想世界の水害や火災現場からの避難を、あたかも現実のように模擬体験できる防災訓練用の機材である。頭部に専用のヘッドマウントディスプレイを装着することで、臨場感のある地震や火災、水害の現場を疑似体験できる。例えば火災では、実際にしゃがみ込むことで煙を避けたり、ハンカチで口を抑える動作で前に進んだり、あたかも現実の災害現場にいるような感覚で避難行動を確認できる仕組みとなっている。

2020年3月に船橋市役所で行われた寄贈式には、松戸徹船橋市長と織田信幸組合長を始めとする同組合理事らが出席した。当日、織田組合長からは、「船橋の防災に強いまちづくりにどう貢献できるか考えました。災害に強い船橋になるために是非ご活用ください」との挨拶があった。PC版の水害のケースを疑似体験した市長からは、「映像がリアルですね。市民の防災訓練に活用していきたいと思います。ありがとうございました」と、感謝の言葉が述べられた。この避難体験VRは、町会・自治会などへの出前講座や市内の学校などでの防災学習、地域の総合防災訓練などで活用されている。



船橋市役所で行われた寄贈式



**鳥羽支部  
(三重県遊技業協同組合)  
「支部内全保育所・園に対する  
保育行政支援活動」  
事業**



鳥羽支部  
支部長  
山口浩二さん

**子育てを地域全体で支援  
するために  
地元の保育所・園に備品を  
継続寄贈**

**次代を担う子どもたちの幸福のために  
子育ての負担を社会全体で分かち合う**

次代の社会を担う子ども一人ひとりを社会全体で応援するため、子育てにかかる経済的負担の軽減や安心して子育てができる環境整備のための施策など、総合的な子育て支援を推進する目的で、国は「子ども・子育て支援新制度」を発表し、2015年4月より本格的にスタートした。その制度の下、行政が主導する形で、子育てにかかる経済的負担の軽減や、保護者が安心して子育てできる環境の整備などが進められている。都道府県や市区町村などの自治体による児童手当や乳幼児の医療費助成などの経済的支援、子どもを育てるために必要な情報やサービスの提供、子育て支援センターなどでの育児相談や親子交流の機会の提供なども、そうした施策の一環である。

しかし、国主導の形がとられているものの、そうした施策を主体となって実際に行うのは、あくまでも身近な市区町村であり、地域の実情に応じて子育て支援の量の拡大と質の向上を目指す必要がある。とはいえ、ほとんどの市区町村では厳しい財政状況にあり、子育て支援にばかり予算を割けないというも実状である。そこで重要となるのが、地域住民のサポートであったり、そこで事業を営む企業の支援活動であったりするのだが、三重県鳥羽市・志摩市を商圏とする三重県遊技業協同組合鳥羽支部では、子ども・子育て支援新制度が発足する前の2010年から、両市にある保育所や保育園に対する支援活動を継続している。

**鳥羽市・志摩市にある保育所・園が  
希望する備品を10年にわたって寄贈**

この支援活動は、両市にある19カ所の保育所・園に対して、保育に必要となる備品や消耗品などの物品を寄贈して保育に役立ててもらうもので、10年連続となった。特徴としては、支部が寄贈する物品を決めるのではなく、各所・園が自由に品目選択できるようになっていることである。そのため寄贈先の保育所・園では、自分たちが必要なものを計画的に備えることができると、好評を得ている。毎年、年度末に寄贈が実施されるが、それまでに両市の保育担当課と連携し、希望に沿った寄贈品目を決定することになっている。これまでに、楽器、防災避難用の手押し避難車、知育玩具、三輪車、砂場セットなど、多種多様なものが寄贈されたが、その総計は約1,000万円相当となっている。ちなみに2020年度は、約100品目、約120万円相当の物品が贈られた。



鳥羽市役所で行われた贈呈式



志摩市の市長から感謝状を受領

2020年2月3日に鳥羽市の市長室で行われた贈呈式では、山口浩二支部長が「厳しい保育現場にとって、少しでもお役に立てれば幸いです」と話したのに対し、中村欣一郎市長からは「財政が厳しいなかで、このように行き届いた備品の寄贈は大変ありがたい。子どもたちの喜ぶ顔が目に見え、大切にに使わせていただきます」と、お礼の言葉をいただいた。なお、3月3日には志摩市においても同様の贈呈式が開催された。こうした模様は市のホームページや広報誌を通じて公表されているため、市民の認知度も高く、支部や遊技業界全体に対する評価の向上につながっている。支部内には休業・廃業するホールがあり、残るホールも厳しい経営環境下にあるが、今後も地域の子どもたちや子育て世帯、関係機関のために、この寄贈活動は継続していく方針だ。



札幌方面  
株式会社合田観光商事  
「新型コロナウイルス感染症  
クラスター発生医療機関への  
支援」事業



株式会社合田観光商事  
代表取締役社長  
合田高丸さん

クラスターが発生した  
医療機関に  
高性能空気清浄機を  
迅速に寄贈する

北海道旭川市の中核医療機関などで  
新型コロナウイルスの大規模クラスター発生

ニュース報道やドキュメンタリー番組などで、「医療崩壊」という言葉が毎日のように聞かれるようになった。恐らくその正確な定義はないと思われるが、2020年から続く新型コロナウイルスとの闘いにおいては、病院などの医療現場において、治療を必要とする患者（新型コロナウイルス感染患者だけでなく、その他の病気、ケガなども含む）に十分な治療を提供したくても、それができない事態に陥ることを指しているといっていだろう。海外から届く医療崩壊、あるいは医療危機にある現場の映像は、まさに息をのんだり、目を覆いたくなるものがあるが、そうした事態がいつ日本で起きても不思議ではない。

新型コロナウイルス感染症の場合、医療崩壊への危機を高める要因になりやすいのが、いわゆるクラスター（感染者集団）の発生である。しかも、それが医療を提供する側の医療機関で起きてしまった場合、事態はより深刻になる。それが実際に起きてしまったケースのひとつが、2020年末の北海道旭川市である。旭川市では11月から12月にかけて中核医療機関である慶友会吉田病院、旭川厚生病院、さらに障がい者福祉施設の北海道療育園で大規模なクラスターが発生し、自衛隊の看護師（看護官）らが対象医療機関に災害派遣されることになった。幸い、年が明けてからそれらのクラスターは収束したが、他の医療機関なども含め、まだ予断を許さない状況が続いている。



高性能空気清浄機を各10台ずつ、計30台を寄贈



日本赤十字社の「献血サポーター」に登録し、ホール駐車場で献血活動を行うなど、合田観光商事は様々な活動を実施

ホールのコロナ対策用に用意していた  
空気清浄機30台を急遽、医療機関に

大規模クラスターが発生した旭川市の2医療機関および障がい者福祉施設に対して、札幌市に本社を置き、「ひまわり」の名で北海道・東北に37ホール（2020年6月現在）を展開している株式会社合田観光商事では、高性能空気清浄機を各10台ずつ、計30台を急遽、寄贈することに決め、12月末に配送を完了した。

この空気清浄機は、強力な紫外線で浮遊菌やウイルスを抑制し、効率よくきれいな空気を循環させるものだが、本来であれば、合田観光商事ではホールの新型コロナウイルス予防対策として設置する予定だったもので、それを緊急対応的に寄贈することにした。

合田観光商事では旭川市に営業ホールを構えているわけではないが、同じ北海道に基盤を置く企業として、大規模クラスターの発生を非常事態と捉え、速やかに今回の支援活動を行うことに決定したが、コロナ禍の緊急対応であり、企業理念に基づく経営者判断で、この支援に関しては一切の広報活動を控えたという。なお、空気清浄機を贈られた吉田病院からは理事長名義の礼状が、札幌方面遊技事業協同組合を通じて届けられた。

「災害ユートピア」という言葉がある。大規模な災害に直面した人々が、惨禍に向き合うことで、境遇の違いを乗り越えて連帯し、支え合うようなコミュニティが一時的に生まれる事態をアメリカのある作家が指して呼んだものだが、新型コロナウイルスの感染拡大に見舞われている日本でも、マスクや医療用防護服、義援金、医療関係者へ贈られる感謝や激励の言葉などは、さしずめ災害ユートピアの一端と呼んでいいかもしれない。合田観光商事の今回の空気清浄機の寄贈も、その一環として大いに評価できる。



静岡県  
株式会社ABC  
「児童養護施設等  
退所児童応援」事業



株式会社ABC  
代表取締役社長  
富田英児さん

児童養護施設から巣立つ  
若者たちに  
新生活のスタートを応援  
する支度金を寄付

児童養護施設を卒園する児童に  
1人あたり40,000円の支度金寄付

児童養護施設は「児童福祉法」に定められた児童福祉施設の一つである。児童養護施設には災害や事故により親を失った子ども、あるいは親の離婚や病気、また虐待などの不適切な養育を受けているなどの様々な事情によって、家族による養育が困難とされる、おおむね2歳から18歳の子どもたちが生活している。厚生労働省子ども家庭福祉課によると、全国に605ある児童養護施設で、約25,000人の子どもたちが生活しているという(2019年時点)。

児童養護施設で生活する子どもたちは、原則18歳になると退所(卒園)して、自立した生活を送ることになるが、なかには高校を中退したり、高校に進学しなかったりする子どももいて、そういうケースでは15歳で退所することもあり、そこから自分一人で生きていかなければならない。

児童養護施設などを3月に卒園(措置解除)する際、4月からの新生活を支援するためとして、国からは支度費(81,260円)が支給されるが、当然ながらそれだけでは十分ではない。そこで、静岡県を中心に、隣接する山梨県、長野県、愛知県に全35ホールを展開する株式会社ABCでは、静岡県内の児童養護施設や自立援助ホームを卒園する子どもたちがより充実した新生活のスタートを切ることができるよう、新生活に必要な支度金(家電製品、生活用品、スーツなどを購入するための資金)として、1人あたり40,000円を贈ることにした。



静岡県内の11ヵ所の児童養護施設を卒園した31名に寄付金を贈呈



寄付金を受け取った児童から贈られた御礼のメッセージ

新たな社会貢献活動の開始に加え  
「ABCしあわせ基金」も継続実施

この事業は、これまでも地域社会や社会的弱者のために様々な社会貢献活動に取り組んできたABCが新たに始めた社会貢献活動だが、2020年2月13日に行われた贈呈式では、静岡県内の11ヵ所の児童養護施設を卒園した31名に寄付金合計124万円が贈られた。

寄附金贈呈式では静岡県社会福祉協議会や各施設代表者の立ち合いのもと、ABCの富田英児代表取締役社長より、静岡県児童養護施設協議会の乙部邦子会長に目録が贈呈された。富田社長が「これからの日本を担う若い人たちの力になれば」と語ったのに対し、乙部会長からは各施設を代表して感謝状と、「夢や目標に向かって頑張ります」「ご支援ありがとうございます」などと書かれた児童からのお礼のメッセージが渡された。贈呈式の模様は「静岡新聞」朝刊、地元情報誌、業界誌に掲載されたほか、ローカルテレビ局4社でも放送された。なお、2021年2月にも、第2回目となる贈呈式が行われ、31名に合計124万円の寄付金が贈られた。

また、ABCでは社会福祉事業への支援を目的に、創業50周年の記念事業の一環として、2003年6月に「ABCしあわせ基金」を設立し、毎年、静岡県社会福祉協議会へ寄付を実施している(18年間の合計額は、約1億2,000万円余り)。この基金から県内の社会福祉団体や民間非営利活動団体などに福祉車両などが寄贈されており、現在、累計75台が活躍している。2020年11月10日に寄附金贈呈式および車両贈呈式が行われ、富田社長から静岡県社会福祉協議会の神原啓文会長へ500万円の目録が贈呈された。2020年は61団体から車両提供の申し出があり、御殿場市、沼津市、浜松市の3団体に福祉車両が贈られた。



## 記録的な大雨で 大きな被害を出した 地域の復興に 全社体制で取り組む

### 熊本県 岩下兄弟株式会社 「熊本豪雨災害からの復興活動 『がんばるばい人吉』」 事業



岩下兄弟株式会社  
代表取締役社長  
岩下洋三さん

#### 令和2年7月豪雨で氾濫・決壊した 球磨川水系の人吉市で復旧に取り組む

新型コロナウイルスの感染が続くなか、大きな自然災害に見舞われることは二重の苦しみに違いない。それが現実になってしまったのが、2020年7月の「令和2年7月豪雨」と命名された記録的な大雨である。この豪雨による被害は全国におよび、被災地域は35府県（災害対策本部発表）となった。なかでも深刻な事態に陥ったのが熊本県であり、死者65名、行方不明者2名（総務省消防庁、2021年2月26日現在）を出すにおよんだ。とりわけ県南部を流れる球磨川水系では、人吉市、球磨村、芦北町、八代市の一部など計13か所が氾濫・決壊し、広大な面積が浸水した。球磨村にあった特別養護老人ホームでは、水没した施設で14名の入所者が死亡するという痛ましい事態となった。

人吉市に本社を置き、熊本県と宮崎県に25ホールを展開する岩下兄弟株式会社では、本社併設ホールである「モナパレス青井本店」が被災した。青井本店ではホール内に水が流れ込み、床から50～60cm付近まで浸水し、1ヵ月余り休業を余儀なくされることになった。しかし、同社では営業再開まで手をこまねいていたわけではなく、自らが被災したにもかかわらず、地域の復旧・復興に向けて精力的に活動することにした。その基盤には、これまで同社が積み上げてきた社会貢献活動に対する取り組みがあり、九州北部豪雨、広島市土砂災害など、災害ボランティア活動にも積極的に参加してきた。



ホール駐車場の一角を水害によって町中から出た大量のゴミの仮置き場として提供



メッセージがプリントされたTシャツを製作し、ボランティア団体や行政関係者などに配布



備品を保管するための倉庫も寄贈

#### 従業員の安否確認や住宅提供に続き 近隣住民のために支援活動を実施

同社がまず行ったのは、被災地域の従業員の安否確認だった。幸い死傷者はゼロだったが、人吉地区を中心に自宅が床上浸水した従業員やパートスタッフが約40名いたため、その人々のために寮や借り上げ住宅、さらに仮住まい先などを確保して提供した。次いで社内でボランティア隊を結成し、被災した社員らの住宅の泥の掻き出しや清掃などの支援活動に取り組んだ。

次に、地域社会に対する活動として人吉市内の本店の立体駐車場を近隣住民の緊急避難場所として開放したほか、ホール駐車場の一角を水害によって町中から出た大量のゴミの仮置き場として提供した。さらに復旧・復興にあたる地元の人たちを元気づけようと、岩下博明会長（当時、現特別相談役）がデザインした、「がんばるばい人吉」のメッセージがプリントされたTシャツ1,000枚製作し、ボランティア団体や行政関係者などに配布したほか、人吉市内の飲食店などが集まる「人吉復興！コンテナマルシェ」が2021年1月に開設されたので、本店駐車場を貸し出したり、新型コロナ感染対策としてハンドジェル9,000個の提供やテーブル・椅子など備品を保管する倉庫も寄贈した。

こうした支援活動の先頭に立った岩下洋三社長は、「今回の豪雨被害による社員への安否確認や支援物資の手配などに関し、指示命令系統を明確化して迅速・適切に対応できたのは、2016年に発生した熊本地震での経験が非常に役立ちました。ここ数年、日本各地でこれまで経験したことのないような局地的な豪雨被害が発生しているので、自分たちには無縁と思わずに、災害発生時の体制の整備を是非していただければと思います。今後も長期的な支援活動を続けていきたいと考えています」と話している。

第16回社会貢献大賞 受賞一覧

1、社会貢献大賞

申請団体		事業名
石川県	石川県遊技業協同組合 同県金沢支部	「医療用防護服およびオゾン紫外線除菌機器の寄贈」事業

2、社会貢献賞

		申請団体		事業名
都府県方面 部門	最優秀賞	福岡県	福岡県遊技業協同組合	「第13回子ども絵画コンクール」事業
	優秀賞	宮城県	宮城県遊技業協同組合	「震災後の生活弱者等への支援及び地域の安全安心の確保に向けた支援活動」事業
		秋田県	秋田県遊技業協同組合	「コロナ感染予防対策(秋田市小中高全児童へマスク4万2,000枚を寄贈)」事業
		福島県	福島県遊技業協同組合連合会	「子ども見守り活動・なりすまし詐欺撲滅キャンペーン(福島県警察との共催)」事業
支部組合 部門	最優秀賞	長崎県	長崎県遊技業協同組合 島原半島遊技場組合	「安全・安心まちづくり」事業
	優秀賞	宮城県	宮城県遊技業協同組合 古川地区遊技業組合	「子どもの未来のための大崎市内小学生全員への図書カード寄贈」事業
		千葉県	千葉県遊技業協同組合 船橋遊技場防犯組合	「『災害に強いまちづくり』を支援～災害避難体験VR機材の寄贈～」事業
		三重県	三重県遊技業協同組合 鳥羽支部	「支部内全保育所・園に対する保育行政支援活動」事業
組合員ホール 部門	最優秀賞	香川県	愛染興業株式会社	「子供達による瀬戸内海の環境維持改善活動の継続」事業
	優秀賞	札幌方面	株式会社合田観光商事	「新型コロナウイルス感染症クラスター発生医療機関への支援」事業
		静岡県	株式会社ABC	「児童養護施設等退所児童応援」事業
		熊本県	岩下兄弟株式会社	「熊本豪雨災害からの復興活動『がんばるばい人吉』」事業

募集と審査の結果

第16回「社会貢献大賞」については、2月末日に申請を締め切り、30都府県方面組合から60件の申請があった(2020年は28都府県方面組合から65件)。内訳は、実施主体別で都府県方面21件、支部組合10件、ホール29件であった。

3月26日(木)の常任幹事会のなかで第1次審査会を実施し、4月9日(金)に実施した「社会貢献活動審査委員会」(杉浦正健委員長、野口昇委員長代行)で審査を行った。顕彰事業の詳しい事業内容は、この「社会貢献活動年間報告書」に記載されている。

# 社会貢献活動 全国データ編

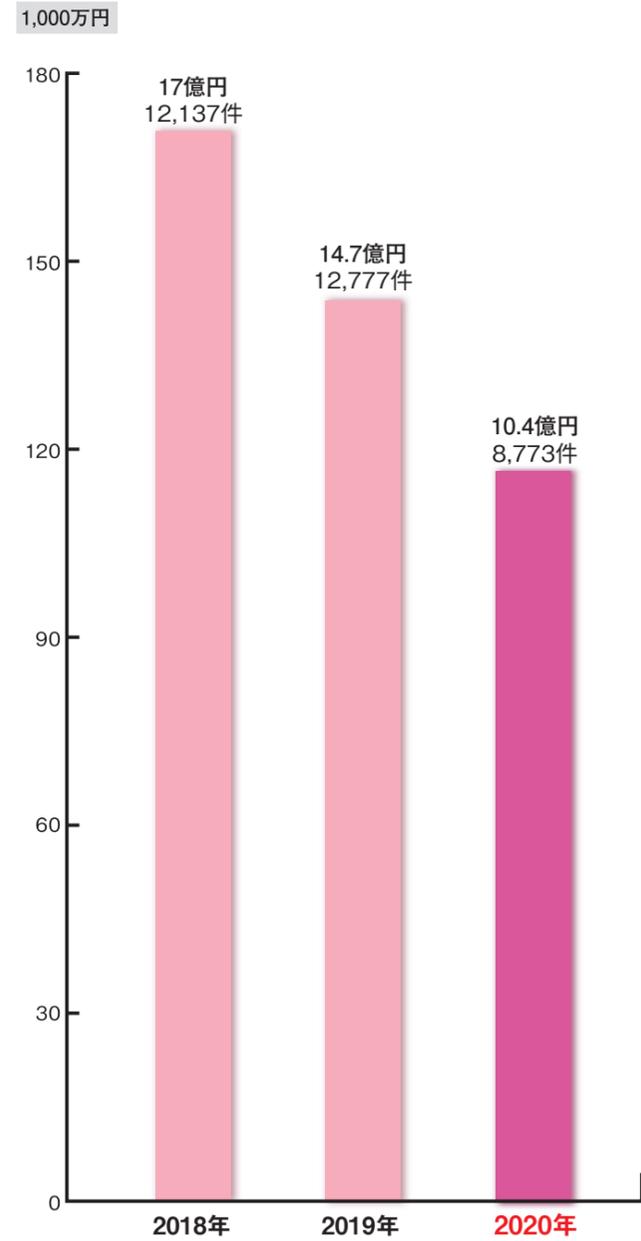
- 78 社会貢献・社会還元の実施状況調査結果  
年別 拠出額と拠出件数  
年別 現金・物品の割合
- 79 2020年拠出元別 拠出額と割合  
2020年拠出元別 現金・物品の割合
- 80 社会貢献・社会還元の実施状況調査結果  
2020年分野別 拠出額と割合
- 81 2020年分野別 現金・物品の割合
- 82 都府県方面別 社会貢献・社会還元金集計表(総金額)
- 83 都府県方面別 社会貢献・社会還元件数集計表(総件数)
- 84 都府県方面別 社会貢献・社会還元金集計表(現金明細)
- 85 都府県方面別 社会貢献・社会還元金集計表(物品明細)
- 86 2020年 社会貢献・社会還元の実施状況調査結果総評



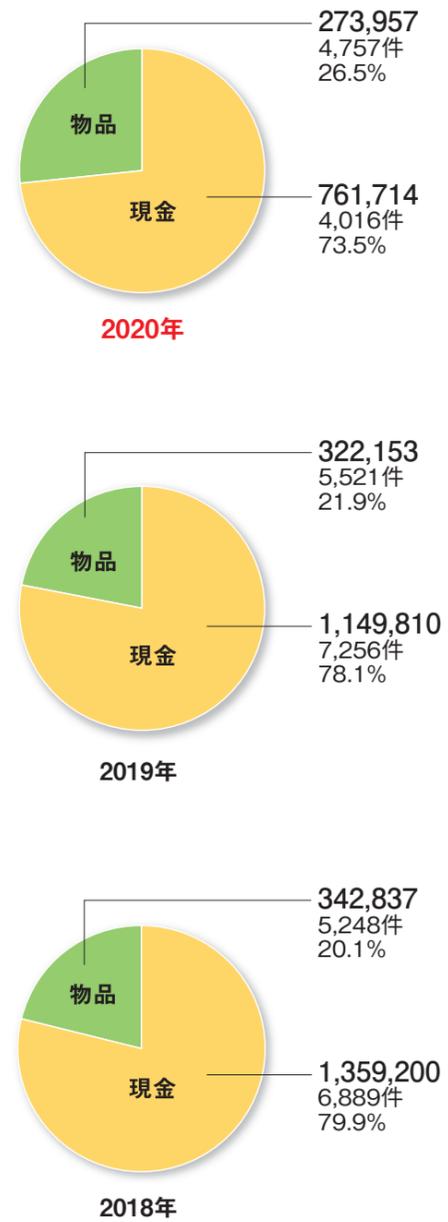
資料提供 全日本遊技事業協同組合連合会(2020年全日遊連及び各都府県方面組合のデータ)

# 2020年 社会貢献・社会還元の実施状況調査結果

■年別 抛出現額と抛出席数

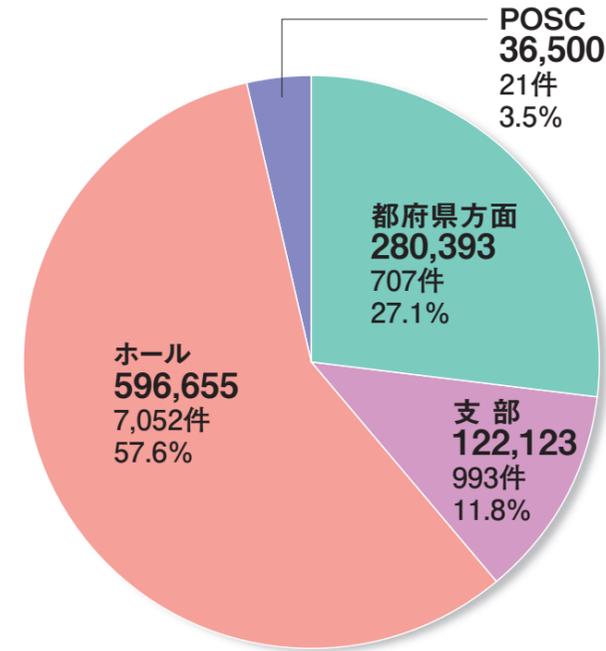


■年別 現金・物品の割合 (単位:千円)



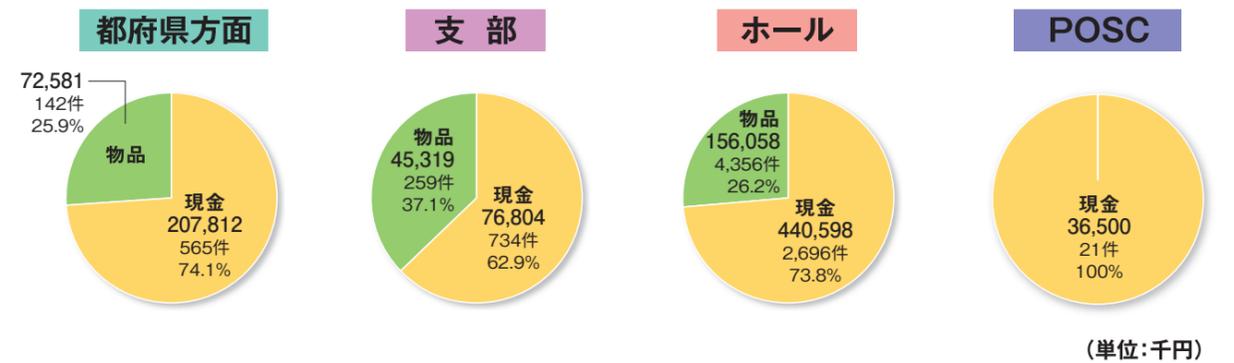
■2020年抛出現元別 抛出現額と割合 (単位:千円)

総抛出現額……1,035,670,984円  
総件数……8,773件



■2020年抛出現元別 現金・物品の割合

※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。



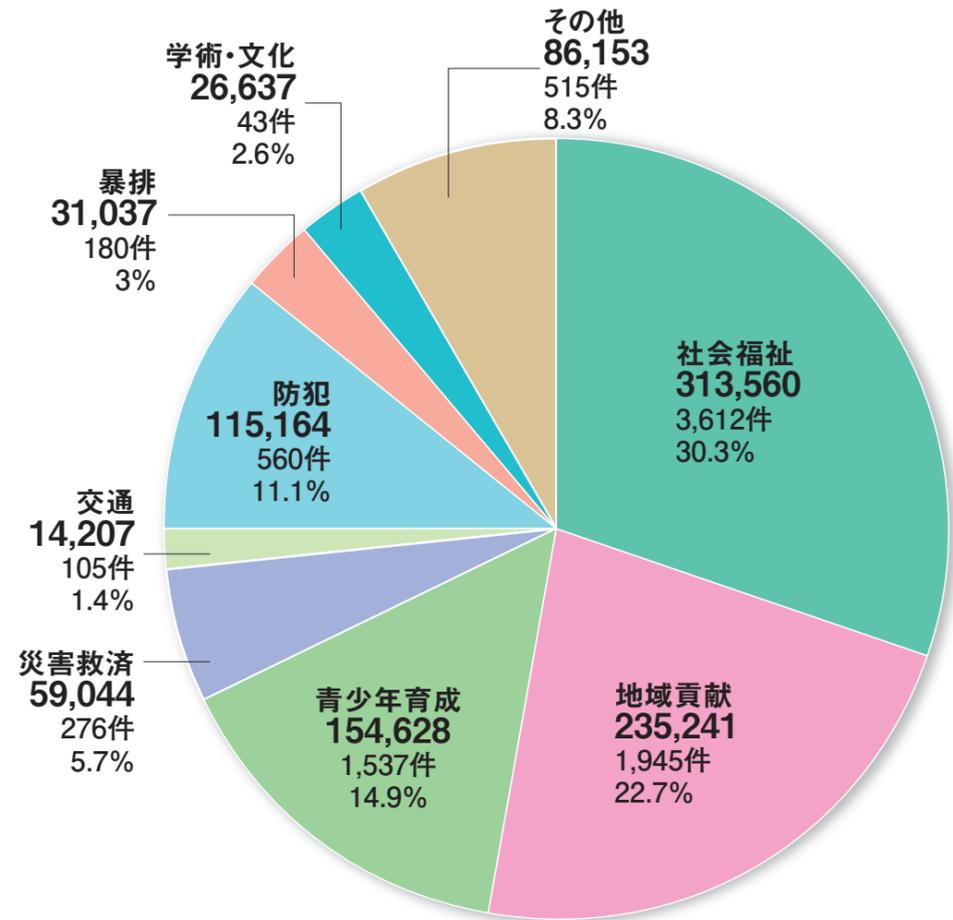
対象期間	2018年	2019年	2020年	
抛出現総額 (件数)	1,702,037,305円 (12,137件)	1,471,965,083円 (12,777件)	1,035,670,984円 (8,773件)	
内訳	現金抛出現額 (件数)	1,359,200,181円 (6,889件)	1,149,810,000円 (7,256件)	761,714,040円 (4,016件)
	物品抛出現額 (件数)	342,837,124円 (5,248件)	322,153,000円 (5,521件)	273,956,944円 (4,757件)

抛出現元	都府県方面	支部	ホール	POSC	
抛出現総額 (件数)	280,393,053円 (707件)	122,122,575円 (993件)	596,655,356円 (7,052件)	36,500,000円 (21件)	
内訳	現金抛出現額 (件数)	207,812,358円 (565件)	76,803,971円 (734件)	440,597,711円 (2,696件)	36,500,000円 (21件)
	物品抛出現額 (件数)	72,580,695円 (142件)	45,318,604円 (259件)	156,057,645円 (4,356件)	—

# 2020年 社会貢献・社会還元の実施状況調査結果

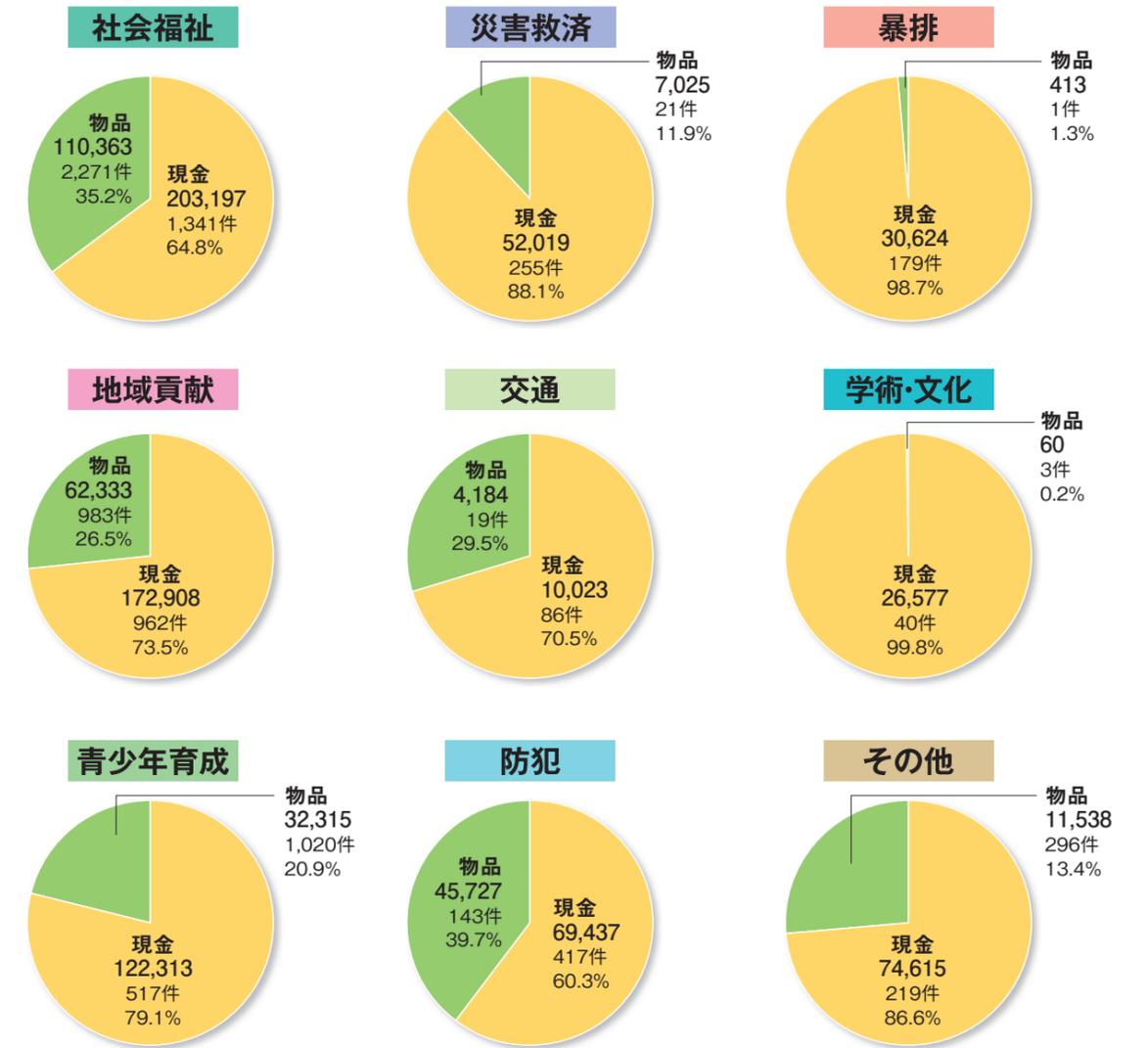
■2020年分野別 拠出額と割合 (単位:千円)

総拠出額……1,035,670,984円  
総件数……8,773件



■2020年分野別 現金・物品の割合 (単位:千円)

現金総額……761,714,040円  
件数……4,016件  
物品総額……273,956,944円  
件数……4,757件



拠出内容	社会福祉	地域貢献	青少年育成	災害救済
拠出総額 (件数)	313,559,992円 (3,612件)	235,241,315円 (1,945件)	154,628,182円 (1,537件)	59,043,608円 (276件)
内訳	現金拠出額 (件数)	203,197,278円 (1,341件)	122,313,198円 (517件)	52,018,594円 (255件)
	物品拠出額 (件数)	110,362,714円 (2,271件)	32,314,984円 (1,020件)	7,025,014円 (21件)

拠出内容	交通	防犯	暴排	学術・文化	その他	
拠出総額 (件数)	14,207,170円 (105件)	115,163,697円 (560件)	31,036,500円 (180件)	26,637,235円 (43件)	86,153,285円 (515件)	
内訳	現金拠出額 (件数)	10,023,200円 (86件)	69,437,075円 (417件)	30,624,000円 (179件)	26,577,235円 (40件)	74,615,369円 (219件)
	物品拠出額 (件数)	4,183,970円 (19件)	45,726,622円 (143件)	412,500円 (1件)	60,000円 (3件)	11,537,916円 (296件)

# 2020年 社会貢献・社会還元の実施状況調査結果

## 都府県方面別 社会貢献・社会還元金集計表(総金額)

(総金額) ※総金額は現金と物品を現金換算した金額の総額です。

都府県方面 (組合)	拠出内容(金額)										合 計
	社会福祉	地域貢献	青少年育成	災害救済	交 通	防 犯	暴 排	学術文化	その他		
北海道	札幌	855,540	1,610,911	450,000	3,258,000	240,000	7,627,140	400,000	0	331,960	14,773,551
	旭川	440,360	4,239,329	906,000	0	0	0	0	0	0	5,585,689
	釧路	130,254	368,867	246,250	0	0	320,000	100,000	0	30,000	1,195,371
	北見	20,000	10,000	215,000	100,000	0	1,000,000	0	0	0	1,345,000
	函館	1,575,000	617,110	10,000	0	0	1,470,000	110,000	0	30,000	3,812,110
東北	青森	5,871,980	2,332,770	710,000	421,662	713,100	2,130,846	20,000	10,000	17,000	12,227,358
	岩手	2,576,763	2,033,635	516,800	60,624	90,000	1,619,450	566,000	130,000	1,121,000	8,714,272
	宮城	6,981,216	1,477,977	936,385	1,145,024	2,790,000	5,220,000	1,457,500	30,000	60,000	20,098,102
	秋田	956,661	2,242,029	3,103,690	0	0	656,950	90,000	0	30,000	7,079,330
	山形	2,850,000	276,295	687,270	867,500	0	2,979,130	10,000	0	118,622	7,788,817
	福島	762,900	2,838,735	365,000	0	230,000	1,500,000	693,000	0	61,760	6,451,395
	東京	24,367,978	114,884,355	13,799,943	1,372,676	187,000	2,974,484	0	50,000	3,906,421	161,542,857
関東	茨城	3,105,000	2,987,055	1,720,000	0	0	1,000,000	360,000	300,000	240,000	9,712,055
	栃木	2,399,143	3,119,658	955,000	0	0	80,000	0	160,000	0	6,713,801
	群馬	2,168,123	393,476	1,887,315	0	94,000	2,013,755	150,000	200,000	17,200,916	24,107,585
	埼玉	8,686,698	5,332,900	3,930,448	1,088,614	134,000	1,505,660	220,000	13,913,290	90,380	34,901,990
	千葉	7,624,493	538,600	170,500	2,811,500	0	6,464,375	2,700,000	2,920,000	904,878	24,134,346
	神奈川	39,065,170	3,898,589	629,132	1,596,553	598,000	2,809,650	246,000	0	1,616,226	50,459,320
	新潟	5,177,714	413,856	490,000	1,041,500	0	100,000	100,000	0	0	7,323,070
	山梨	2,600,325	125,500	235,000	100,000	0	720,000	400,000	0	153,000	4,333,825
	長野	6,597,368	5,695,160	2,252,248	505,000	66,500	4,452,670	50,000	35,000	640,000	20,293,946
	静岡	28,198,633	1,141,000	1,394,100	2,162,147	36,000	1,210,000	1,060,000	0	56,446	35,258,326
中部	富山	3,311,964	844,879	1,669,000	360,862	170,000	3,287,600	50,000	10,000	0	9,704,305
	石川	1,330,000	15,370,000	100,000	57,512	0	350,000	0	0	22,739	17,230,251
	福井	615,000	120,000	1,147,000	0	0	1,330,000	200,000	20,000	0	3,432,000
	岐阜	2,871,106	4,902,795	100,000	11,664,241	0	441,000	1,320,000	0	10,000	21,309,142
	愛知	20,941,474	6,262,330	305,000	2,490,934	730,000	7,584,083	199,000	2,000,000	600,000	41,112,821
	三重	4,788,437	118,000	7,195,000	0	450,000	736,000	0	0	430,560	13,717,997
近畿	滋賀	8,279,983	201,849	100,000	100,000	492,320	498,000	300,000	5,000	0	9,977,152
	京都	14,617,281	2,730,599	500,000	0	100,000	100,000	0	0	1,000,000	19,047,880
	大阪	17,268,091	1,058,690	42,242,361	361,360	66,000	16,643,930	2,020,000	3,800,000	50,000	83,510,432
	兵庫	6,387,970	3,190,752	1,477,500	129,500	50,000	6,021,544	3,543,000	115,000	3,872,000	24,787,266
	奈良	836,000	472,000	100,000	310,000	0	1,600,000	200,000	0	30,000	3,548,000
	和歌山	13,600,600	734,000	340,000	100,000	80,000	0	562,000	0	0	15,416,600
中国	鳥取	774,010	1,371,549	54,000	0	110,000	95,000	80,000	0	90,983	2,575,542
	島根	1,944,288	2,656,897	1,974,658	0	222,000	0	110,000	0	0	6,907,843
	岡山	5,620,992	8,913,029	6,200,076	108,492	0	500,000	0	200,000	32,020,000	53,562,589
	広島	4,569,826	3,119,064	2,061,800	0	20,000	5,487,100	8,530,000	2,050,000	530,200	26,367,990
	山口	739,500	922,925	1,551,832	158,000	0	3,295,000	520,000	0	630,462	7,817,719
四国	徳島	59,317	0	15,000	0	0	0	100,000	20,000	0	194,317
	香川	1,273,279	40,000	3,049,686	0	0	1,500,000	400,000	0	10,000	6,272,965
	愛媛	3,379,049	1,999,105	11,075,788	25,000	1,573,000	1,289,152	400,000	0	4,297,516	24,038,610
	高知	1,756,442	2,115,800	614,500	6,000	0	100,000	805,000	0	13,000	5,410,742
九州	福岡	2,671,821	3,783,904	1,631,500	410,472	20,000	3,407,000	70,000	0	873,056	12,867,753
	佐賀	3,733,170	1,523,042	162,200	0	0	1,044,000	210,000	5,000	35,000	6,712,412
	長崎	4,187,737	2,022,027	1,353,000	207,000	250,000	1,615,000	665,000	0	1,440,293	11,740,057
	熊本	7,569,904	4,466,475	480,000	14,568,684	2,260,000	4,892,500	300,000	0	8,372,693	42,910,256
	大分	4,382,332	2,019,389	1,930,900	339,890	0	2,174,285	340,000	0	1,746,891	12,933,687
	宮崎	1,822,905	2,392,845	1,246,077	5,949,354	407,550	1,120,000	300,000	0	954,000	14,192,731
	鹿児島	2,102,720	509,492	2,828,000	965,507	2,020,000	80,000	580,000	0	724,808	9,810,527
	沖縄	6,863,475	4,802,071	7,463,223	0	7,700	2,118,393	500,000	663,945	1,790,475	24,209,282
小計		301,309,992	235,241,315	134,578,182	54,843,608	14,207,170	115,163,697	31,036,500	26,637,235	86,153,285	999,170,984
全日遊連		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
P O S C		12,250,000	0	20,050,000	4,200,000	0	0	0	0	0	36,500,000
合 計		313,559,992	235,241,315	154,628,182	59,043,608	14,207,170	115,163,697	31,036,500	26,637,235	86,153,285	1,035,670,984

全日遊連 2020年3月31日

## 都府県方面別 社会貢献・社会還元件数集計表(総件数)

(総件数)

都府県方面 (組合)	拠出内容(件数)										合 計
	社会福祉	地域貢献	青少年育成	災害救済	交 通	防 犯	暴 排	学術文化	その他		
北海道	札幌	20	29	24	2	3	11	1	0	2	92
	旭川	6	23	9	0	0	0	0	0	0	38
	釧路	5	7	11	0	0	4	1	0	1	29
	北見	2	1	14	1	0	3	0	0	0	21
	函館	8	41	1	0	0	10	2	0	1	63
東北	青森	130	89	36	60	7	20	1	1	2	346
	岩手	104	60	11	2	3	22	10	2	9	223
	宮城	426	59	213	22	3	6	5	1	2	737
	秋田	34	56	24	0	0	6	4	0	1	125
	山形	83	13	15	5	0	5	1	0	16	138
	福島	36	92	15	0	6	10	6	0	10	175
	東京	122	92	51	7	4	35	0	1	25	337
関東	茨城	30	8	6	0	0	1	2	1	1	49
	栃木	68	26	14	0	0	1	0	5	0	114
	群馬	60	20	17	0	3	11	17	2	20	150
	埼玉	194	129	10	4	3	9	3	1	4	357
	千葉	72	10	5	4	0	7	1	7	19	125
	神奈川	131	58	28	7	10	29	10	0	25	298
	新潟	47	22	32	2	0	6	1	0	0	110
	山梨	22	15	4	1	0	1	1	0	5	49
	長野	56	71	28	2	2	15	1	1	3	179
	静岡	66	25	69	5	4	4	4	0	3	180
中部	富山	62	19	25	1	4	23	1	1	0	136
	石川	4	6	1	2	0	3	0	0	1	17
	福井	10	5	20	0	0	3	1	1	0	40
	岐阜	133	24	10	19	0	9	4	0	1	200
	愛知	141	71	9	35	6	36	4	1	1	304
	三重	100	7	20	0	2	7	0	0	15	151
近畿	滋賀	48	13	1	1	5	2	1	1	0	72
	京都	59	53	1	0	1	1	0	0	1	116
	大阪	58	23	9	6	2	23	2	4	2	129
	兵庫	106	63	7	8	2	55	16	3	11	271
	奈良	11	13	1	2	0	3	1	0	1	32
	和歌山	180	12	12	1	3	0	13	0	0	221
中国	鳥取	76	25	4	0	1	3	3	0	5	117
	島根	71	58	21	0	3	0	2	0	0	155
	岡山	37	43	16	2	0	1	0	2	4	105
	広島	83	51	13	0	1	29	22	2	7	208
	山口	15	21	23	4	0	10	2	0	6	81
四国	徳島	3	0	2	0	0	0	1	1	0	7
	香川	18	1	8	0	0	2	2	0	1	32
	愛媛	83	40	55	2	10	11	2	0	7	210
	高知	25	36	6	2	0	1	5	0	2	77
九州	福岡	79	37	27	11	1	23	1	0	67	246
	佐賀	67	46	4	0	0	6	2	1	2	128
	長崎	39	86	10	2	2	10	10	0	51	210
	熊本	165	44	14	19	4	11	1	0	65	323
	大分	63	38	37	2	0	15	8	0	69	232
	宮崎	11	30	58	18	1	3	1	0	7	129
	鹿児島	44	18	7	12	8	3	3	0	19	114
	沖縄	93	116	467	0	1	51	1	4	21	754
小計		3,606	1,945	1,525	273	105	560	180	43	515	8,752
全日遊連		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
P O S C		6	0	12	3	0	0	0	0	0	21</



## 2020年 社会貢献・社会還元の実施状況調査結果総評 2020年1月～12月 総額10億3,567万円の拠出

報告：一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構 事務局

### 2020年新型コロナウイルスの影響を大きく受けた年に

2020年1月から12月までの1年間に展開された社会貢献活動を対象に、都府県方面組合、各支部組合及び各組合員ホールからの報告をもとに、社会貢献・社会還元の実施状況調査の結果を取りまとめた。

拠出金総額は、10億3,567万円、件数8,773件であった。内訳は、現金が約7億6,171万円、物品(現金換算)が約2億7,396万円である。

前年比で総額では、約4億3,629万円の減(前年の約70.4%)、件数は4,004件の減(同約68.7%)となった。内訳は現金が、約3億8,810万円の減(同約66.2%)で、物品が4,820万円の減(同約85.0%)となった。

拠出元別の金額は、総額で、都府県方面組合が約2億8,039万円、支部組合が約1億2,212万円、組合員ホールが約5億9,666万円となり、前年比で都府県方面は約1億3,740万円の減(前年の67.1%)、支部が約7,495万円の減(同62.0%)、組合員ホールが約2億1,154万円の減(同73.8%)であった。

拠出内容別の金額および構成比は、その他を除くと多い順で、①社会福祉関連約3億1,356万円(構成比30.3%)、②地域貢献関連約2億3,524万円(同22.7%)、③青少年育成関連約1億5,463万円(同14.9%)、④防犯関連約1億1,516万円(同11.1%)、⑤災害救済関連約5,904万円(同5.7%)、⑥暴排関連約3,104万円(同3.0%)、⑦学術・文化関連約2,664万円(同2.6%)、⑧交通安全関連約1,421万円(同1.4%)となった。

### 青少年育成に力を入れた一年に

拠出金の前年比の特徴は、「青少年育成関連」への拠出が、1,354万円の増(前年の109.6%)、「学術・文化関連」が6,395万円減(同29.4%)となった。

新型コロナウイルスの影響を受け、ほとんどの分野で拠出が減り、その中でも「学術・文化関連」は大きく減少した。しかし、「青少年育成関連」への拠出は前年を上回るものとなった。

寄贈先の特徴としては、新聞社(新聞社を通じた寄付)が金額で前年の219.0%、医療機関が金額で同189.5%、件数で同208.6%、子ども食堂が金額で同290.6%、件数で同176.3%と大きく伸びた。また、奨学金への寄付も金額で同138.3%、件数で同1585.7%と大きく増え、特にホール各店舗からの寄付が大きく件数を伸ばした。一方、新型コロナ

ウイルスの影響を大きく受けたであろう祭りやイベント、スポーツ大会などは大きく下がることとなった。

寄贈された物品の内容では、特徴的なことは、福祉や防犯を目的とした福祉車両等の車両は、2,660万円相当18台寄贈され、別途車両購入費として2,502万円の現金寄贈があり、合わせて5,163万円が寄贈された。車いすは87万円相当29台が寄贈され、別途車いす購入費として30万円の現金寄贈があり、合わせて117万円が寄贈された。防犯カメラは1,509万円相当77台が寄贈され、防犯カメラの購入費として別途83万円の現金寄贈があり、合わせて1,592万円寄贈された。また、新型コロナウイルスの流行を受け、医療機関への医療用防護服やマスクの寄付、各種施設、学校へのマスクの寄付が目立った。また、このような社会情勢を反映し、子ども食堂やフードバンクへの食料品の寄付も目立つ結果となった。

ボランティア活動等の社会貢献活動では、各都府県方面組合から1,617件(昨年3,589件)の具体的事例報告が寄せられた。特徴としては、「清掃活動」「献血活動」「パトロール活動」「災害ボランティア活動」といった奉仕型の貢献活動が全体の83.1%と前年に比べ11.2ポイント増加している。また、2020年の傾向としては新型コロナウイルスへの対応といった新たな活動が報告されるようになってきた。しかし、全体として外出や接触を伴うことの多いボランティア活動自体の報告件数が大きく減少することとなった。

### 今後の課題と展望

2020年は、新型コロナウイルスの影響を受け、業界自体度重なる自粛要請に揺れた一年だった。その影響もあり、金額、件数ともに過去10年で最も少ない結果となった。そのような中でも、コロナ禍で生活に困窮する人を助けようと、フードバンクや子ども食堂への寄付は増え、授業料が払えず中退を余儀なくされている学生を助けようと奨学金への寄付も増えている。また、医療機関、学校、施設への医療用防護服やマスクの寄贈も数多く行われた。

2021年も、業界を取り巻く環境は極めて厳しいうえに、新型コロナウイルスの影響がまだまだ続き、きわめて困難な状況になることが予想されるが、このような状況でも地域のためできることを取り組んでいきたいと考えている。

一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構の助成事業についても、コロナ禍の影響を大きく受けた方々への支援に手厚く助成していく。

## 札幌方面 札幌方面遊技事業協同組合



合田康広 理事長



公益社団法人北海道家庭生活総合カウンセリングセンターに寄付【写真①】



高性能空気清浄機を寄贈【写真②】

### ■方面遊協

- 犯罪行為の発生後速やかに被害者その家族等を支援援助し、当該犯罪被害等の早期軽減に資することを目的として設立・活動を行っている公益社団法人北海道家庭生活総合カウンセリングセンターに対して、7月のファン感謝デーによる社会貢献費等を寄付し犯罪弱者への支援に寄与【写真①】

### ■支部

- 札幌市内9地区の防犯協会連合会に対して、総額100万円を寄付し、札幌市における地域防犯活動の推進を支援(札幌遊技業協同組合)

### ■ホール

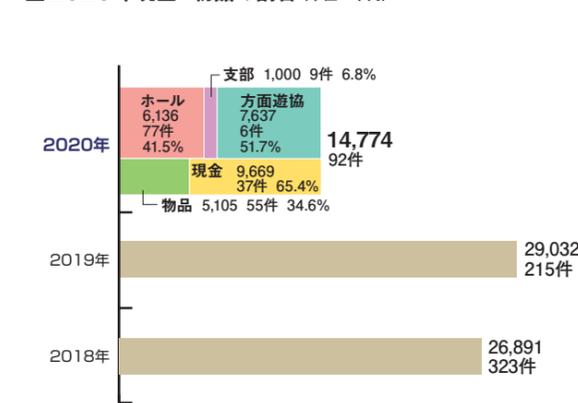
- 旭川市内で発生した、複数医療機関における新型コロナウイルス感染症クラスターへの抑止対策支援として、医療法人社団慶友会吉田病院等3カ所の対象医療機関へ、高性能空気清浄機(各医療機関10台・計30台)を寄贈し、医療関係者のクラスター終息対応をサポート(株式会社合田観光商事)【写真②】
- 「子供たちの登下校を安全に」をスローガンに通学路の交通指導を推進する「伏古北小学校交通指導みまもーる」に本年もホールスタッフが毎朝交替で従事し、小学校より感謝状と児童からの手紙を受領(株式会社正栄プロジェクト イーグル・ウイング伏古店)

## DATA

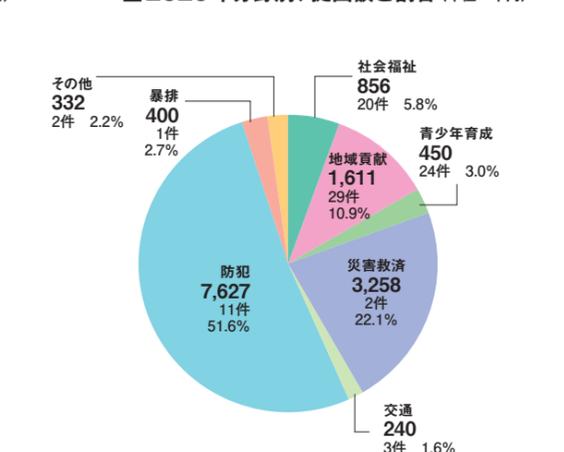
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合(単位:千円)

#### ■2020年現金・物品の割合(単位:千円)



### ■2020年分野別、拠出額と割合(単位:千円)



# 旭川方面 旭川方面遊技事業協同組合



山本淳一 理事長

## ■方面遊協

- 北海道パチンコ・パチスロファン感謝デー実施の際に参加するホールから社会貢献活動支援資金として協賛してもらった資金の中から旭川方面防犯協会連合会へ寄贈
- 「はあーとふるBOX」募金の稚内地区および羽幌地区の分を稚内市社会福祉協議会と羽幌町社会福祉協議会へ寄贈
- 組合4ホールの駐車場で献血キャンペーンを実施【写真①】

## ■支部

- 組合員ホールの景品カウンターに「はあーとふるBOX」募金の募金箱を置き、お客様からのあまり玉の寄付・スタッフからの寄付された募金を、旭川市育英基金・旭川中央防犯協会・旭川東防犯協会へ寄付金として贈呈（旭川遊技場組合）【写真②③】

## ■ホール

- 毎年、旭川市長寿社会生きがい基金及び旭川市あさひやまもつと夢基金へ社会貢献活動の一環として寄贈（株式会社山本ビル）



献血キャンペーンを実施【写真①】



旭川市育英基金への贈呈式【写真②】



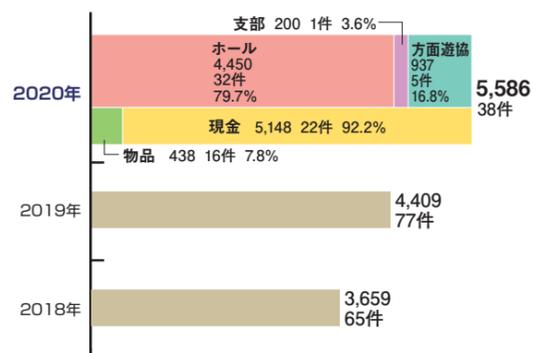
旭川中央防犯協会、旭川東防犯協会への贈呈式【写真③】

## DATA

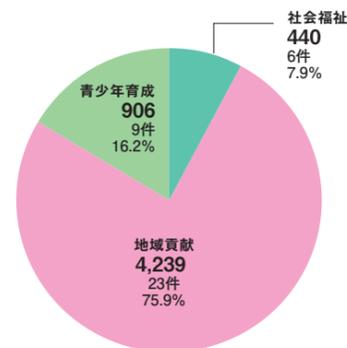
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



# 釧路方面 釧路方面遊技業協同組合



岡本慶秀 理事長

## ■方面遊協

- 釧路市・根室市の防犯協会及び暴力追放運動推進協議会へ事業運営に対する支援を実施
- 根室市共同募金、根室防犯協会に寄付金を贈呈

## ■ホール

- ホールに災害・非常用備蓄品を設置（帯広ひまわり）【写真①】
- スタッフ4名で近隣住宅街付近のごみ拾い活動を実施（帯広ひまわり）【写真②③】



ホールに設置した災害・非常用備蓄品【写真①】



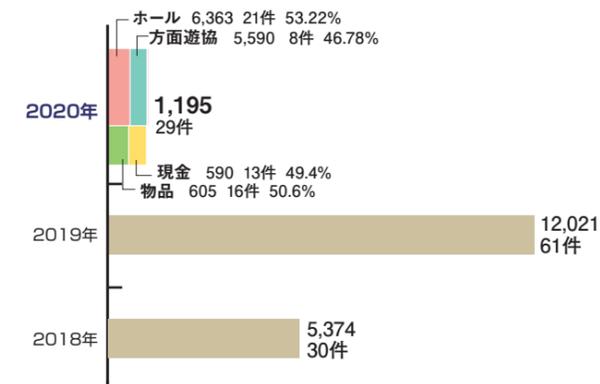
近隣住宅街付近のごみ拾いを実施【写真②③】

## DATA

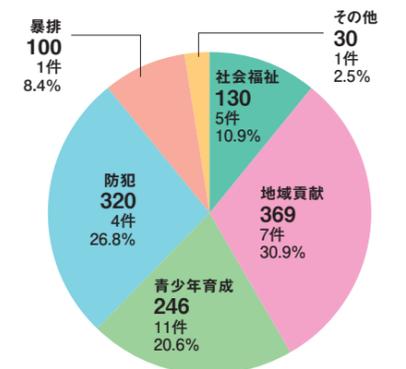
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



# 北見方面 北見方面遊技業協同組合



温山 寿男 理事長

## ■方面遊協

- 組合加盟ホールでイベントを開催し寄付金を集め、北見方面防犯協会連合会に防犯グッズ購入資金として50万円を寄付【写真①】

## ■支部

- 北見市消防後援会に寄付（北見地区遊技場組合）
- 北見市消防後援会へ資金援助（北見地区遊技場組合）
- 遠軽地区防犯協会に寄付（遠軽地区遊技業協同組合）

## ■ホール

- ホールスタッフが地域のゴミ拾い活動を実施（北見ひまわり）
- 北海道赤十字血液センターの移動献血車にホール駐車場を提供し、献血に協力（パチンコパーラー東和北見店）
- 美幌町教育委員会に鉛筆やノートを寄贈（美幌ひまわり）
- ホールスタッフが地域のゴミ拾い活動を実施（知床ひまわり）



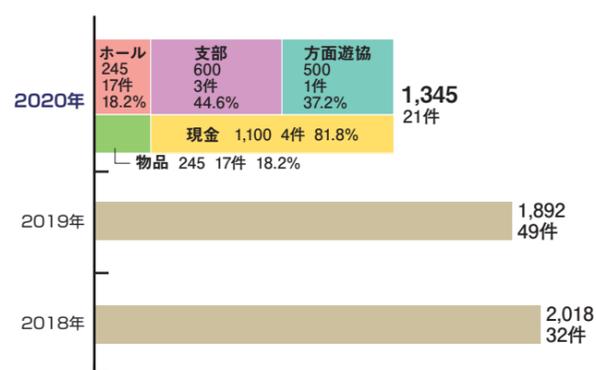
北見方面防犯協会連合会に寄付【写真①】

## DATA

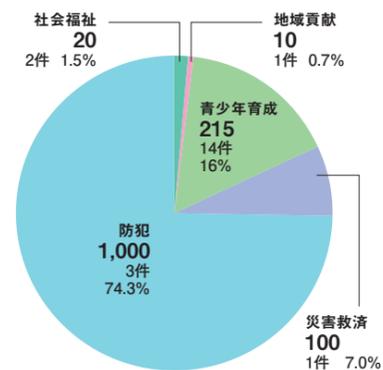
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



# 函館方面 函館方面遊技業協同組合



山本 篤 理事長

## ■方面遊協

- 北海道警察函館方面本部管内に所在する9地区防犯協会へ活動支援金を寄付
- 函館市・北斗市の組合員ホールから「愛の玉」を積立て、地域住民への福祉活動支援のため函館市・北斗市・七飯町の社会福祉協議会へ継続して寄付

## ■ホール

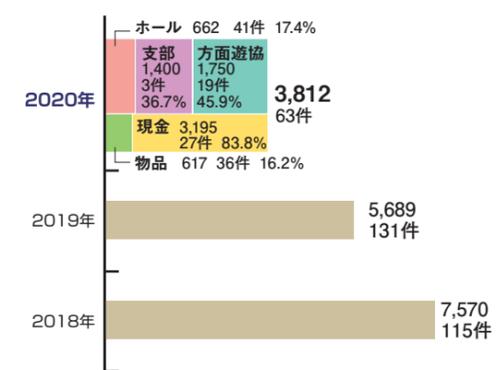
- 児童養護施設や地域の保育所等へのお菓子の寄贈を継続的に実施（ガイア函館港、ライジング五稜郭、ライジング八雲）
- ホール内にて缶飲料のプルタブやペットボトルのキャップを回収し、各事業団体を通じて医療支援や社会福祉に役立てる活動を実施（ベガスベガス函館港店、ベガスベガス函館吉川店、ケイオー湯川店、パチンコボンボン）
- 地元の少年野球チームが全道大会に出場するため、ホール内で募金活動を実施（パーラー桃太郎）

## DATA

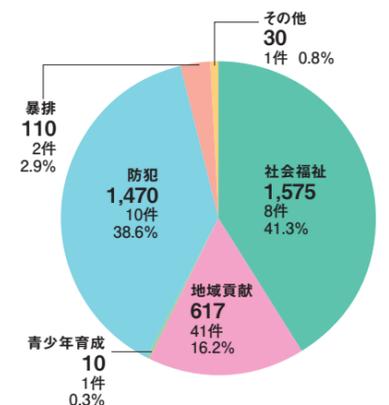
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）





若林浩司 理事長

## ■県遊協

- 青森県防犯協会連合会に特殊詐欺被害防止用品を寄贈【写真①②】
- 青森県交通安全母の会連合会に寄付
- 青森県母子寡婦福祉連合会に寄付【写真③】

## ■支部

- 青森地区防犯協会に防犯カメラを寄贈（青森支部）
- 小学生たちに「万引き防止標語入り鉛筆」を寄贈（中弘南支部）
- 八戸地区連合防犯協会に寄付（八戸支部）

## ■ホール

- 児童福祉施設等にお菓子を寄贈（マルハン浜田店・マルハン三好店・ライジング堅田・ガイアネクスト湊高台・USA弘前店・メガガイア青森中央等）
- ホール近隣の小学校の登校時間帯に交通安全のため、交差点で旗振り誘導を実施（マルハン弘前石渡店）
- 青森市役所公園河川課の地域花いっぱいまちづくり事業に賛同し、ホールスタッフがホール前の「花壇づくり」を実施（スーパードーム青森東店）



特殊詐欺被害防止用品を寄贈【写真①②】



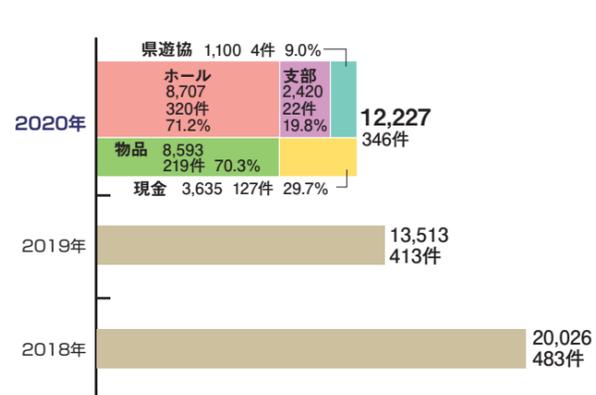
青森県母子寡婦福祉連合会から感謝状を受領【写真③】

## DATA

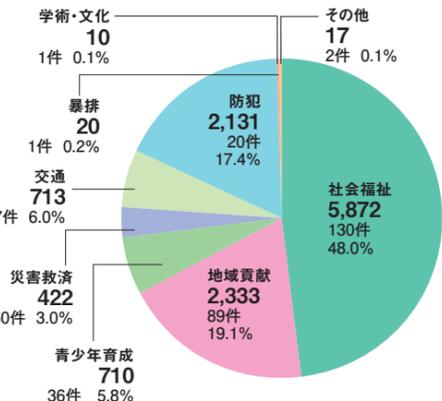
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



伊藤 嘉 理事長

## ■県遊協

- ヤクルト協賛による社会貢献活動として、各ホールで正月3が日に無料配付するヤクルト年賀商品を購入して、年賀シールの貼付作業を依頼した社会福祉法人4施設に作業報酬支援金26万円を贈呈
- 「第18回いわてパチンコ・パチスロカーニバル」等の益金を関係機関、団体への協力、支援として岩手県社会福祉協議会、岩手県同胞援護会、岩手県暴力団追放推進センターの3団体に60万円を贈呈【写真①】
- 社会貢献の一環として、青年部会と各支部組合が一丸となって、12会場のホール駐車場において献血活動を実施し、175名(200ml換算345本)が献血に協力

## ■支部

- 児童養護施設「みちのくみどり学園」の幼児から高校生までの児童・生徒67人を盛岡グランドホテルに招待して、ランチ交流会を開催した。テーブルマナーを学びながら、コース料理の食事と全員に当たるビンゴゲームを通じて子どもたちと交流（盛岡遊技業組合青年部会）【写真②】
- 児童養護施設「藤の園」に、青年部が児童へのクリスマスプレゼントとケーキを持ってサンタクロース慰問をしたほか、施設維持費として5万円を寄付（一関地区遊技業組合 青年部会）
- 所轄警察署より特殊詐欺被害防止への協力要請があり、特別防犯対策監杉太郎氏と多くの芸能界で活躍されている方々によって結成された特殊詐欺防止プロジェクトチーム「SOS47〜家族の絆 作戦〜」の啓発動画を使って、地域の皆様が特殊詐欺の被害にあわないために、ホールが所有する電光掲示板等により特殊詐欺被害防止の啓発活動を実施（盛岡遊技業組合）

## ■ホール

- 地区防犯協会で実施する「自転車鍵かけ運動」に参加して、駐輪場の自転車の施錠状況の確認と駅利用者への自転車施錠の呼び掛けを行ったほか、年末年始の地域安全運動「安心街灯り」にも参加してイルミネーションの設置作業を実施（ユニオンザプライム8盛岡南）【写真③】
- 海洋ごみを減らして、観光資源にも恵まれた岩手県の美しい海を後世に繋げていくために活動している、いわて海ごみなくし隊に参加し、ごみ拾い活動を実施（セントラル宮古）
- 地区企業等地域安全連絡会で6月と8月に実施する自転車ツーロック運動に参加し、ツーロック推進の呼び掛けを行い、自転車盗難防止活動を実施（ウインズ紫波）



3団体に支援金を寄贈【写真①】



児童養護施設の子どもたちを招待してランチ交流会を実施【写真②】



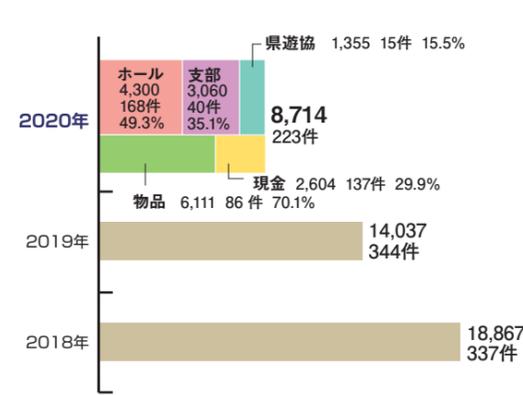
「自転車鍵かけ運動」に参加【写真③】

## DATA

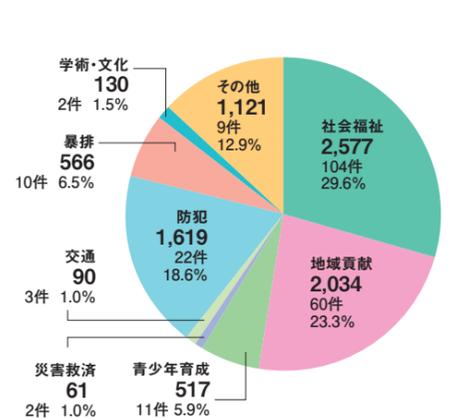
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）





竹田 隆 理事長

## ■県遊協

- 県民の安全安心な生活に貢献する団体である「宮城県防犯協会連合会」、「宮城県暴力団追放推進センター」へ計200万円寄付したほか、同センターには街頭キャンペーン用ウェットティッシュ等1万個を寄贈【写真①】
- 地域社会に貢献している団体である「みやぎ被害者支援センター」、「日本盲導犬協会仙台訓練センター」へ計100万円を寄付し、さらに、ヤクルト本社東日本支店等との共催で、「年賀シール」貼付作業を4箇所の福祉施設に依頼し、貼付手数料のほか計40万円を寄贈
- 東日本大震災被災地復興支援等の社会貢献活動を目的として「社会福祉法人旭が丘学園」、「特定非営利活動法人子ども村東北」、「一般社団法人宮城骨髄バンク」の3団体に計100万円を寄付。同3団体から感謝状を受領【写真②③】

## ■支部

- 「おおさき子ども未来基金」を創り、地域の要望に沿った青少年健全育成の施策を実施し、大崎市内外小学生に図書カードを贈呈及び大崎東部地区防犯協会連合会に20万円を寄付等地域安全活動に対する支援（古川地区遊技業組合）

## ■ホール

- 地域の安全安心に向けた各種活動の支援及び就学支援等の福祉活動の展開（扇屋商事株式会社）
- ホール所在自治体等へのマスクの寄贈等（北都観光株式会社）
- 災害見舞金の募金活動や地域の福祉施設等への支援活動等の実施（株式会社マルタマ・株式会社新井商事・株式会社カツヨシ商事・株式会社協和商事）



「宮城県防犯協会連合会」、「宮城県暴力団追放推進センター」へ寄付金贈呈【写真①】



「特定非営利活動法人子ども村東北」、「一般社団法人宮城骨髄バンク」へ寄付金贈呈【写真②】



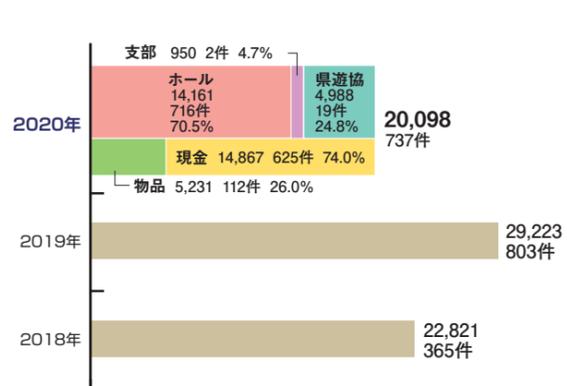
社会福祉法人旭が丘学園に寄付金贈呈【写真③】

## DATA

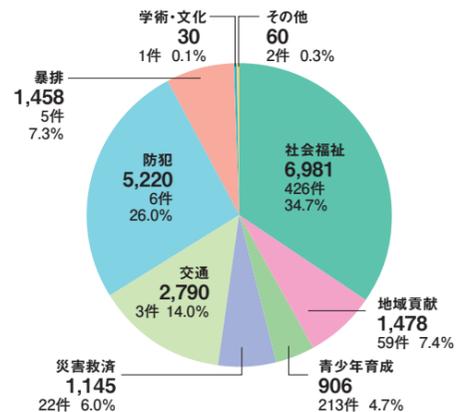
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



松岡信吉 理事長

## ■県遊協

- 社会貢献贈呈式を開催し、秋田県社会福祉協議会を通じて県内6施設にアルミ製車いす各々2台計12台（24万円）、秋田県防犯協会連合会に防犯グッズ（30万円）を寄贈【写真①】
- ヤクルト本社東日本と共催で、ヤクルト飲料水への年賀シール貼りの謝礼として、3施設に施設から希望のあった電化製品（12万円相当）を寄贈【写真②】
- 学校における新型コロナウイルス感染防止のため、秋田市教育委員会を通じて、秋田市内の小・中学校等にマスク42,000枚（283万円相当）を寄贈



車いすや防犯グッズを寄贈【写真①】



福祉施設に電化製品を寄贈【写真②】

## ■支部

- 秋田市内の母子支援施設3カ所を訪問し、図書カード、食品、菓子等を寄贈（秋田中央遊技業協同組合）
- 大仙市内の新入学児童に対して、登下校時の安全安心のための防犯ブザーを寄贈（大仙地区遊技業協同組合）
- 湯沢警察署に対して、電話による特殊詐欺被害を防止するため、固定電話に取付ける簡易型自動録音機を寄贈し、警察署から高齢者に提供（横手湯沢遊技業組合）

## ■ホール

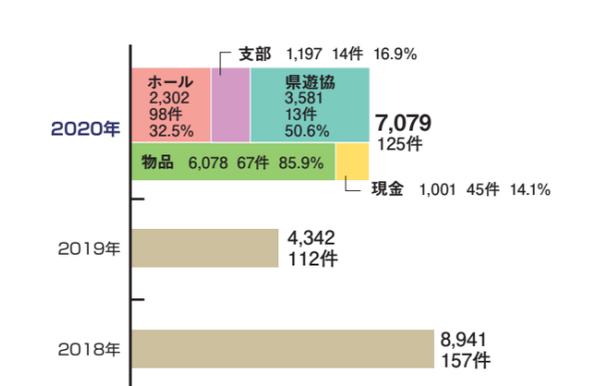
- 年間を通して、地元の社会福祉協議会へ地域支援事業としてお菓子を寄贈（ビー・ギャル能代店）
- 能代市役所へ子どもの新型コロナウイルス感染防止予防のため、マスク1,500枚を寄贈（ダイナム能代店）
- にかほ市役所へ新型コロナウイルス感染防止予防のため、マスク1,500枚を寄贈（パーラーK&K）

## DATA

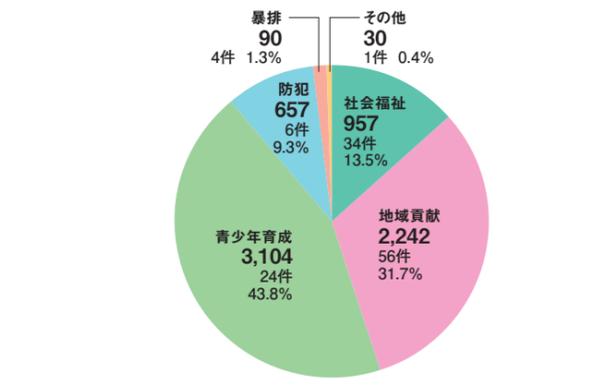
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）





井上 静夫 理事長

## ■ 県遊協

- 犯罪や少年非行、子ども・女性への性的被害等の抑止を図るため、市民の安全・安心なまちづくりを目的に山形市へ防犯カメラ1台(一式190万円)を寄贈【写真①②】
- 依存問題対策及び薬物乱用防止の啓発活動として、中・高校生や会社員等を対象に「パチンコ・パチスロは18歳になってから。のめり込みに注意!」「STOP 薬物乱用は、ダメ。ゼッタイ。」と記載した蛍光マーカーを県内のJR駅8カ所にて組合員と共に配布【写真③】
- 県民の安全安心のための防犯活動に役立ててもらうため、山形県防犯協会連合会へ70万円を寄付

## ■ 支部

- 町民の安全・安心まちづくりを目的に庄内町へ防犯カメラ1台を寄贈(庄内支部)

## ■ ホール

- グループ全店に「募金箱」と「端玉お菓子募金箱」を設置し、県内の児童養護施設5施設に20万円ずつ計100万円と集まった端玉お菓子を寄付。そのほか、少年軟式野球大会、中学校軟式野球大会の運営実施や日本赤十字社の献血に協力(株式会社マルホ)
- 児童養護施設に年間を通してお菓子を寄贈(アイランド米沢店)
- 児童養護施設に玩具、DVD、絵本、お菓子の詰め合せを寄贈(エスタディオ三川)
- 高齢者福祉施設(ケアセンター)に対し、入所者へのリハビリ活用のためスロット台を寄贈(株式会社ベガスベガス)



防犯カメラ贈呈式【写真①】



防犯カメラの寄贈に対し感謝状を受領【写真②】



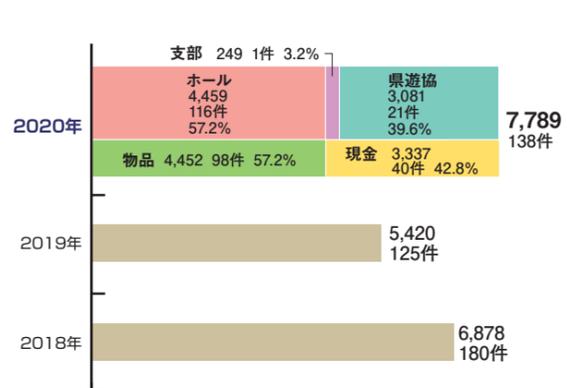
依存問題対策及び薬物乱用防止の啓発活動を実施【写真③】

## DATA

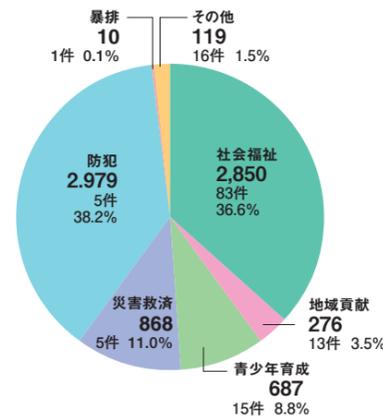
※ 物品は現金換算した金額です。  
※ グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■ 年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合 (単位: 千円)

#### ■ 2020年現金・物品の割合 (単位: 千円)



### ■ 2020年分野別、拠出額と割合 (単位: 千円)



諸田 英模 代表理事

## ■ 県遊連

- 福島県内の児童養護施設7カ所に「福島県遊連図書」として施設の子どもたちに絵本、図鑑等の児童図書、約30冊ずつ計210冊を贈呈。本事業は平成30年から実施しており、今回で4回目【写真①】
- 交通安全協会、星空体験実行委員会、福島県森林・林業・緑化協会、ラジオ福島、福島県防犯協会連合会、暴力追放運動推進センター等に寄付【写真②】
- 福島県警察本部から交通安全広報活動として、ホール設置のデジタルサイネージ等(屋外・屋内)を活用した広報啓発活動への協力依頼を受け、所属員ホールの協力を得て年間を通じて実施【写真③】

## ■ 支部

- 福島地区交通安全協会、福島県防犯協会連合会等に寄付(福島地区遊技業協同組合)

## ■ ホール

- 相馬野馬追実行委員会に開催協賛(株式会社つばめエージェンシー)
- 会津若松市社会福祉協議会にお菓子を寄贈(株式会社マルハン)
- 会津坂下町教育委員会にお菓子を寄贈(株式会社アラジン)



県内の児童養護施設に児童図書を贈呈【写真①】



寄付金贈呈式【写真②】



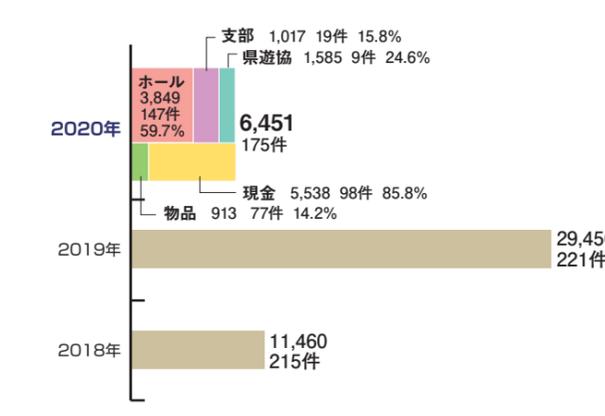
交通安全広報活動として、ホール設置のデジタルサイネージ等を活用した啓発活動を組合員ホールの協力のもと年間を通じて実施【写真③】

## DATA

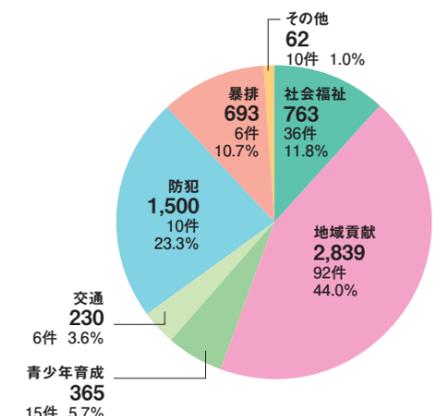
※ 物品は現金換算した金額です。  
※ グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■ 年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合 (単位: 千円)

#### ■ 2020年現金・物品の割合 (単位: 千円)



### ■ 2020年分野別、拠出額と割合 (単位: 千円)





阿部恭久 理事長

## ■都遊協

- 給付型奨学金制度「PP奨学金（パチンコ・パチスロ奨学金）」に協力し、100万円を寄付【写真①】
- ぱちんこ依存問題相談機関「認定NPO法人リカバリーサポート・ネットワーク」に約475万円、ギャンブル等に問題を抱える人の回復支援施設「認定NPO法人ワンダーポート」に300万円を寄付
- 東京防犯協会連合会にLEDライト付キーホルダー2万個を寄贈【写真②】

## ■支部

- 地域の医療機関や防犯協会に対しマスクを寄贈（葛飾組合・小松川組合）
- 防犯協会に振り込め詐欺防止録音機200台を寄贈（小岩組合）

## ■ホール

- 東京都ドッジボール協会に協賛金として100万円を寄託（日の丸ぱちんこ）
- 足立区役所にマスク5,000枚を寄贈（ピーアークホールディングス株式会社）
- 社会福祉法人にお菓子を寄贈（コンサートホール調布・SAP武蔵村山・ドキわくランド中河原駅前店等）

あなたの善意を、**pp奨学金**（パチンコ・パチスロ奨学金）に寄付してください。

2020年度は44名の学生に奨学金を交付しました。

「pp奨学金（パチンコ・パチスロ奨学金）」は、パチンコ・パチスロ業界が社会福祉法人さほうと21と共同で設立した返済を求めない独自の学生支援プログラムです。皆様の募玉が意欲ある若者の未来を創ります。ご協力をお願いします。

support21.or.jp

pp奨学金（パチンコ・パチスロ奨学金）運営事務局：TEL.03-5823-4200

「PP奨学金」への支援を呼びかけるポスター【写真①】



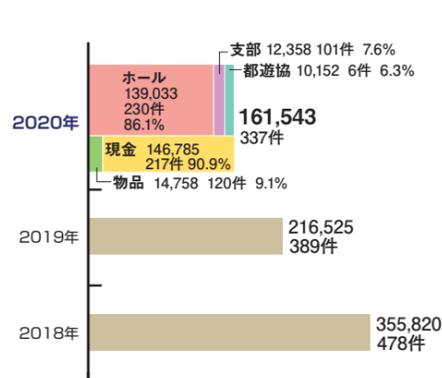
LEDライト付キーホルダーを寄贈【写真②】

## DATA

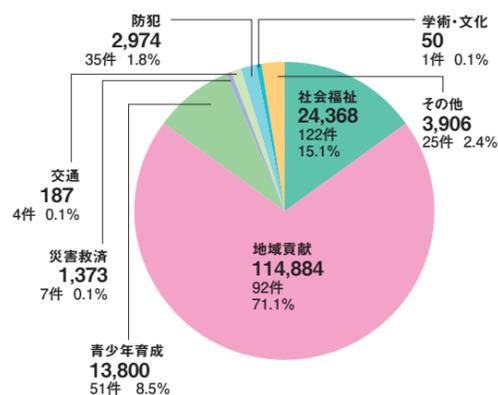
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



平文暉朗 理事長

## ■県遊協

- 茨城新聞社文化福祉事業団に50万円寄付【写真①】
- 茨城県社会福祉協議会に150万円寄付【写真②】
- 財団法人茨城県防犯協会に100万円寄付

## ■支部

- 茨城町社会福祉協議会や大洗町社会福祉協議会、水戸市社会福祉協議会に寄付（水戸組合）
- 北茨城市民病院、高萩市役所にマスク等を寄贈（高萩組合）

## ■ホール

- 常総市社会福祉協議会、ひたちなか市社会福祉協議会、児童養護施設内原和敬寮等にお菓子を寄贈（パーラージュピター石下店・キコーナ勝田駅前店・キコーナ水戸店・美野里店）



茨城新聞社文化福祉事業団に寄付【写真①】



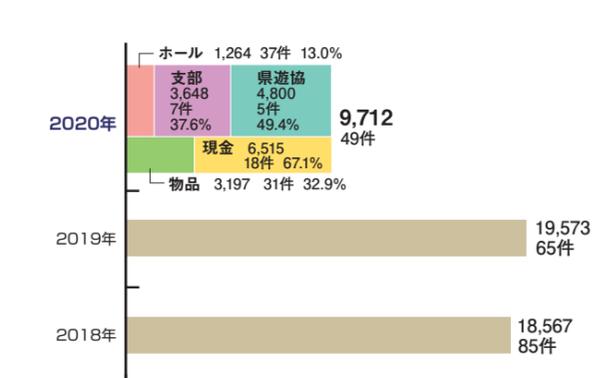
茨城県社会福祉協議会に寄付【写真②】

## DATA

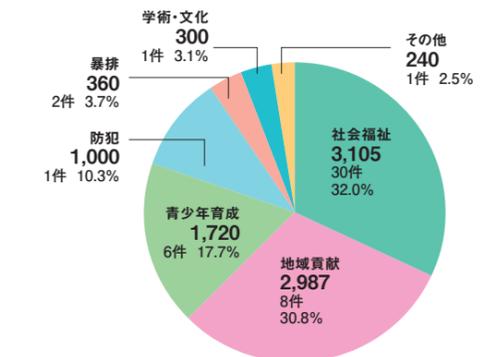
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）





金 淳次 理事長

## ■県遊協

- 栃木県地域福祉基金に100万円を寄付し感謝状を受領。この寄付活動は、1983年から継続し今回で37回目となり累計8,121万円になる【写真①】
- 社会福祉協議会に車いす10台を寄贈。2000年から毎年実施し、寄贈した車いすは累計323台になる
- 栃木県警察本部生活安全部生活安全企画課を通し、防犯広報啓発グッズを作成して寄贈【写真②】

## ■支部

- 宇都宮社会福祉基金に寄付(宇都宮連合)
- 下野奨学金に寄付(宇都宮連合)

## ■ホール

- 栃木県庁、栃木市役所、鹿沼市役所等にマスクを寄贈(五月女総合プロダクト株式会社)
- 社会福祉法人那須塩原市社会福祉協議会にお菓子を寄贈(ZAPP西那須野)
- 社会福祉法人バステルにお菓子を寄贈(ライブガーデン野木)
- 鹿沼市教育委員会に鉛筆や消しゴムを寄贈(ライブガーデン鹿沼グランドシティ)



栃木県地域福祉基金に寄付し感謝状を受領【写真①】



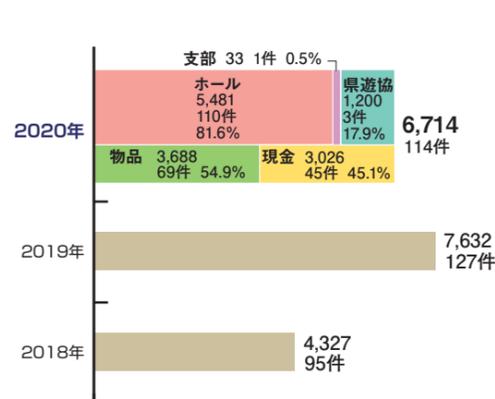
防犯広報啓発グッズを作成して寄贈【写真②】

## DATA

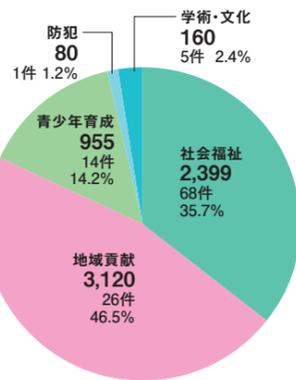
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合(単位:千円)

#### ■2020年現金・物品の割合(単位:千円)



### ■2020年分野別、拠出額と割合(単位:千円)



森山秀夫 理事長

## ■県遊協

- 群馬ヤクルト販売(株)と協力し、福祉キャンペーンを実施。売上金の一部を車いすの購入にあて、群馬県健康福祉課を通じて県内の高齢者福祉施設6カ所へ自乗式車いすを各1台寄贈【写真①】
- 群馬県警察本部、群馬県防犯協会へ、各種防犯活動に役立ててもらうため通帳ケース、クリアファイル、メモ帳の防犯啓発グッズ約100万円相当を寄贈【写真②】
- 3月に実施を予定していた群馬県ファン感謝祭が中止となり、賞味期限の近い食品(甘梅、うどん、米約120万円相当)を賛同いただいた各組合員ホールより集め、フードバンクまえばしへ寄贈【写真③】



福祉施設に車いすを寄贈【写真①】



防犯グッズを寄贈【写真②】



フードバンクへ寄贈【写真③】

## ■支部

- 前橋署管内自転車盗難防止対策協議会主催の前橋駅周辺自転車盗難防止パトロールに組合員が参加(前橋遊技場組合)
- 館林市、板倉町、明和町の3市町の新入生へ、ライト付き防犯ブザーを寄贈(館林遊技業組合)

## ■ホール

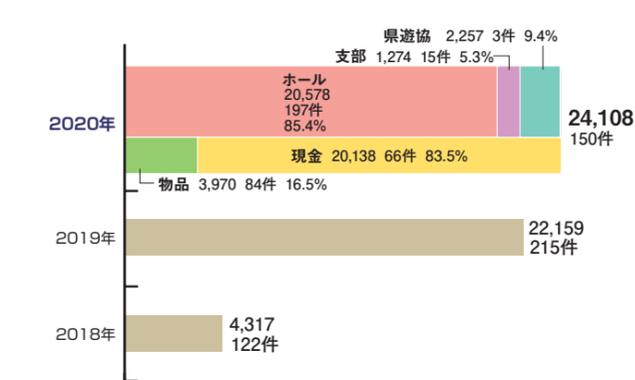
- コロナ禍における子育てママ応援企画として、日替わり弁当の無料配布を実施(D'ステーション前橋大和店)
- 日本赤十字社に協力し、ホール駐車場内にて献血活動を実施(マルハン前橋天川大島店)
- スタッフ9名で地域清掃活動として、ホール周辺の草取りやゴミ拾いを実施(マルハン前橋天川大島店)

## DATA

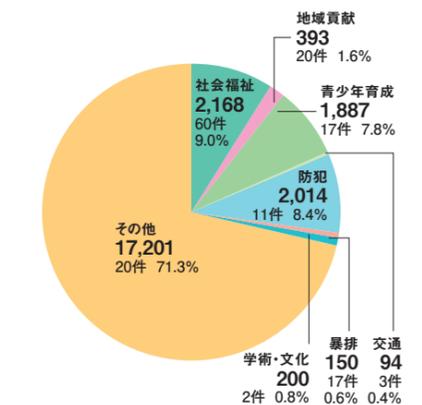
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合(単位:千円)

#### ■2020年現金・物品の割合(単位:千円)



### ■2020年分野別、拠出額と割合(単位:千円)



# 埼玉県 埼玉県遊技業協同組合



趙 顕洙 理事長

## ■県遊協

- 埼玉県遊協の50周年記念事業として、子ども食堂等に対する支援活動を規定する実施要領及び同細則を制定し、公募により支援金を要請する子ども食堂を募集して当組合委員会で審査と支援金を(1回の開催ごとに最低10,000円)決定し運営資金を提供
- 埼玉県親善大使「吉武まつ子」彩の国チャリティーコンサートは、今回で40回目を迎え埼玉県遊協及び傘下岩槻遊技業組合において協賛金を支援しており、その協賛金は、視聴覚障がい者及び同介助者の入場料に充てられた
- 元オリンピック金・銀メダリスト神白高子氏指導のもと家庭婦人バレーボール交流会による「決勝選抜神白バレーボール大会」を協賛開催【写真①】

## ■支部

- 地区組合及び組合員ホールが一体となって、お菓子・ジュース類を子ども食堂への寄贈と、地域内で活動する「子ども食堂」に持参等して、同食堂を利用する子どもたちに提供(上尾遊技業組合・鴻巣組合・東入間組合・飯能組合・熊谷組合・岩槻組合・春日部組合・越谷組合等及び各ホール)
- 岩槻・蓮田組合は、毎年12月に地域内の児童養護施設等に社会貢献の一環としてクリスマスプレゼントを提供(岩槻・蓮田組合)【写真②】

## ■ホール

- 組合員ホールが一体となって、お菓子・ジュース類を子ども食堂への寄贈し、食堂を利用する子どもたちに提供(組合員ホール)【写真③】



「決勝選抜神白バレーボール大会」を協賛開催【写真①】



児童養護施設等にクリスマスプレゼントを提供【写真②】



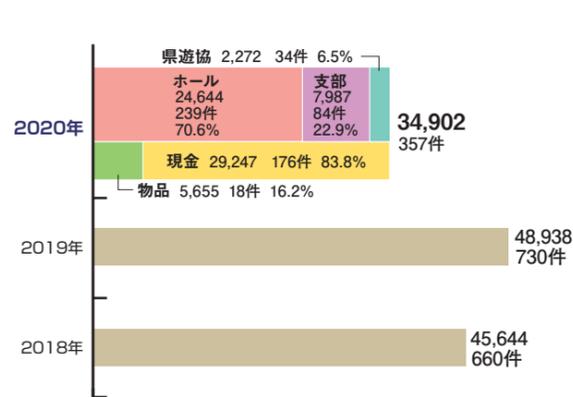
組合員ホールが一体となり子ども食堂を支援【写真③】

## DATA

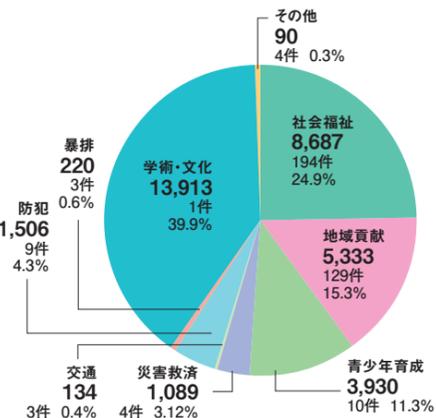
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合(単位:千円)

#### ■2020年現金・物品の割合(単位:千円)



### ■2020年分野別、拠出額と割合(単位:千円)



# 千葉県 千葉県遊技業協同組合



星山聖達 理事長

## ■県遊協

- 県内マスメディア3社とで構成する「夢まるふぁんど委員会」では、地域振興支援事業の一環として、県内5市町に防犯パトロールカー5台を寄贈【写真①】
- 福祉支援事業の一環として、児童福祉施設やボランティア団体、こども病院等に総額373万円を支援【写真②】
- 文化・国際支援事業の一環として、県内で活動する文化・交流団体8団体に総額292万円を支援【写真③】

## ■支部

- 災害に強いまちづくりへの支援のため、船橋市役所に避難体験VR4台を寄贈(船橋遊技場防犯組合)
- 新型コロナウイルス感染症対策への支援として、習志野警察署にマスクを寄贈(習志野地区組合)
- 「電話de詐欺」被害防止対策への支援(市原組合)

## ■ホール

- フードバンクへの支援(SAP野田)
- 虐待のない社会づくりへの支援(株式会社大和商事)
- ギャンブル等依存症対策団体への支援(株式会社ガイア)



防犯パトロールカー贈呈式を伝えるポスター【写真①】



児童福祉施設やボランティア団体等への支援活動を伝えるポスター【写真②】



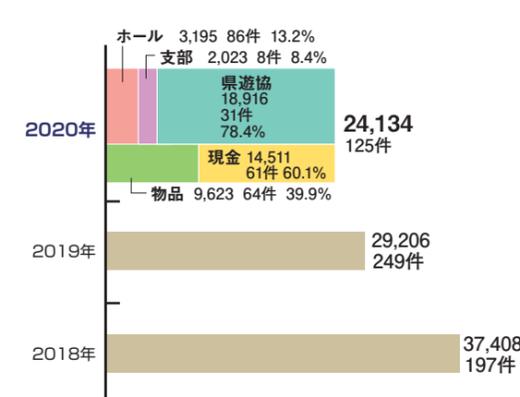
文化・交流団体への支援金を贈呈【写真③】

## DATA

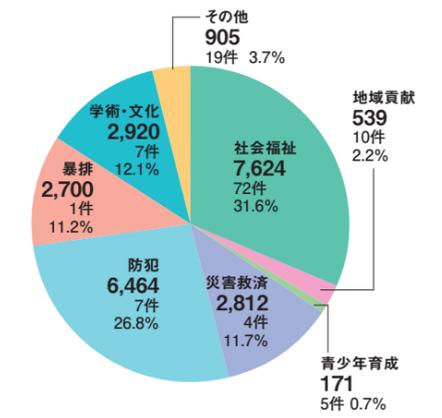
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合(単位:千円)

#### ■2020年現金・物品の割合(単位:千円)



### ■2020年分野別、拠出額と割合(単位:千円)





伊坂重憲 理事長

## ■県遊協

- 日本赤十字社神奈川県支部に対し、横浜市立みなと赤十字病院の救護車両購入助成金として300万円を贈呈【写真①】
- 横浜市に対し、市民のコロナ禍における健康づくりをサポートするため、「横浜市『よこはま健康スタンプラリー』」事業に対し約300万円を贈呈【写真②】
- 公益財団法人神奈川新聞厚生文化事業団に対し、車いす空の旅事業を支援するため、300万円を贈呈【写真③】

## ■支部

- 新型コロナウイルス感染症まん延防止のため警察署にマスクを贈呈（鶴見遊技場組合・港北遊技場組合・都筑・緑遊技場組合）
- 藤沢市に対し、「新日本プロレス WORLD TAG LEAGUE 2020 藤沢市愛の輪福祉基金チャリティー」のプロレス観戦チケットを贈呈（藤沢遊技場組合）
- 毎月、伊勢佐木警察署並びに伊勢佐木防犯協会の外郭団体等との合同で伊勢佐木町・福富町周辺地区における合同パトロール活動に参加（横浜遊技場組合伊勢佐木支部）

## ■ホール

- NPO法人スマイルオブキッズ「リラの家」にホールスタッフが毎月2回訪問し、飲料水や食料品を提供するとともに、清掃作業等を行い、施設維持管理活動を行っている（東横商事グループ）
- 犯罪被害者支援のため、神奈川被害者支援センターに毎年支援金を贈呈（スリーセブン2）
- 障がい者の自立を支援するため、特定非営利活動法人ふりーらいふ地域包括支援センター風のセルフ商品を賞品として購入（平川商事グループ）



黒岩神奈川県知事から感謝状を受領【写真①】



林横浜市長から感謝状を受領【写真②】



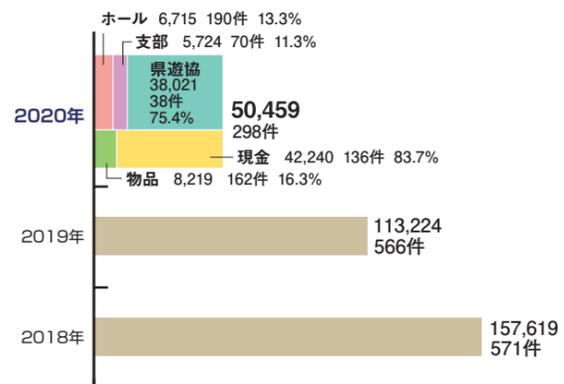
神奈川新聞厚生文化事業団篠原理事長から感謝状を受領【写真③】

## DATA

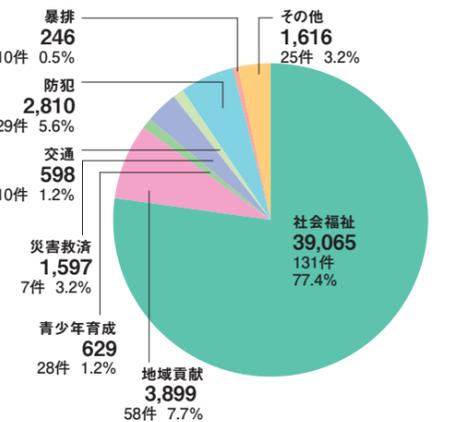
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



佐藤孔一 理事長

## ■県遊協

- 新潟県共同募金会に対し障がい者福祉施設移送車両購入費として400万円寄付【写真①②】
- 新潟県暴力追放運動推進センターに運営資金を寄付

## ■支部

- 市内の小学校18校区を対象に、下校時間帯に「子供安全パトロール」を実施し、犯罪の未然防止と安全で安心して生活できる街づくりに寄与（上越遊技業組合）
- 燕市防犯組合連合会に寄付（燕遊技場組合）
- 三条市防犯組合連合会に寄付（三条遊技場組合）

## ■ホール

- 児童養護施設にお菓子や玩具等を寄贈（エスタディオ見附）
- 福祉施設等にお菓子を寄贈（VEAM加茂店・VEAM五泉店・VEAM新潟亀田店・VEAM長岡川崎・VEAM美咲町店等）
- 社会福祉法人中蒲原福祉会特別養護老人ホームかめだ本町の里に車いすを寄贈（有限会社丸善観光）



車両のゴールデンキーを贈呈する佐藤理事長【写真①】



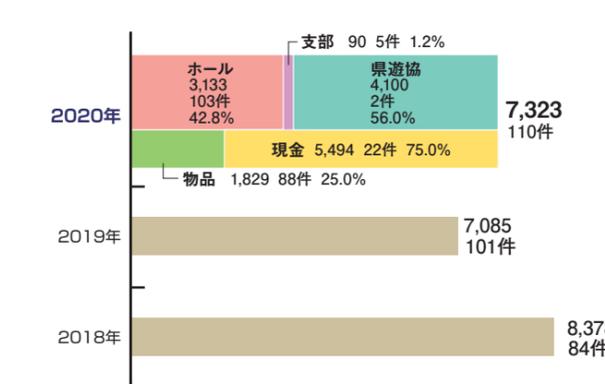
寄贈車両と佐藤理事長、県共同募金会の会長等関係者【写真②】

## DATA

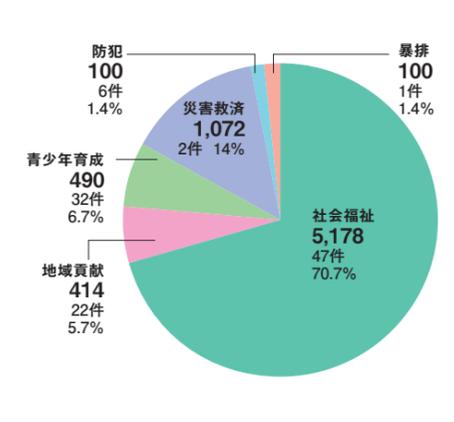
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）





星野 謙 理事長

## ■県遊協

- 山梨県看護師協会にフェイスシールド6,000枚を寄贈【写真①】
- 更生保護協会、山梨県共同募金会、山梨県防犯協会、山梨県暴力追放運動推進センター等に活動資金を寄付【写真②】
- 山梨県警察本部と災害時協力協定を締結

## ■ホール

- 被害者支援センターやまなしに寄付 (AKASAKA・パチンコビクトリー)
- ホール周辺の清掃活動を実施 (オーシャン上野原等)
- 山梨県赤十字血液センターと協力して、甲府市内のホール駐車場を利用して献血活動を実施 (マルハン甲府店)
- 地域行事への参加や支援 (大丸商事株式会社)
- 社会福祉活動への支援 (株式会社ABC)
- 環境活動への協力 (ダイナム南アルプス店)



看護師協会に寄贈【写真①】



山梨県防犯協会等に寄付【写真②】



平林憲男 理事長

## ■県遊協

- 熊本県南豪雨義援金として熊本県に50万円を寄付
- 高齢者、青少年育成、障がい者福祉に役立ててもらうため、長野県に100万円を寄託【写真①】
- 長野県保護観察協会、長野県犯罪被害者支援センター、日本ボーイスカウト長野県連盟、長野県囃子警察犬運営委員会、長野県立こども病院等に運営資金を寄付

## ■支部

- 青色回転灯付きパトロール車による小中学校の周辺道路を中心に部活動を行うNPO法人しなのに活動資金として400万円を寄付 (長野遊技場組合・須坂遊技場組合・中野遊技場組合)【写真②】
- 須坂市教育委員会にアルコール消毒液を寄贈 (須坂遊技場組合)
- 上田警察署に少年ボランティア蛍光帽子とベストを寄贈 (上小遊技場組合)

## ■ホール

- 児童養護福祉施設との毎年恒例の交流活動「つつじが丘学園祭」が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となったため、クリスマスプレゼント用に40人分のお菓子を寄贈 (ラッシュ岡谷)
- 医療従事者支援のためマスクを寄贈 (株式会社ジン・コーポレーション)



長野県に100万円を寄託【写真①】



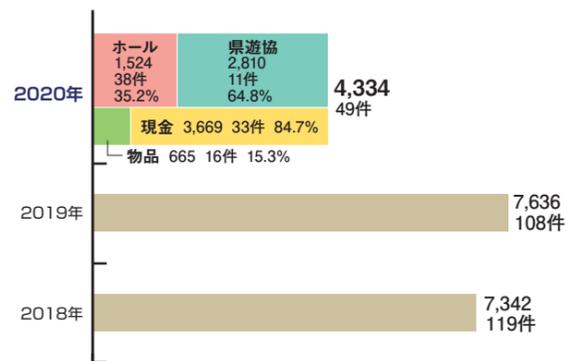
青パトによる防犯活動を支援【写真②】

## DATA

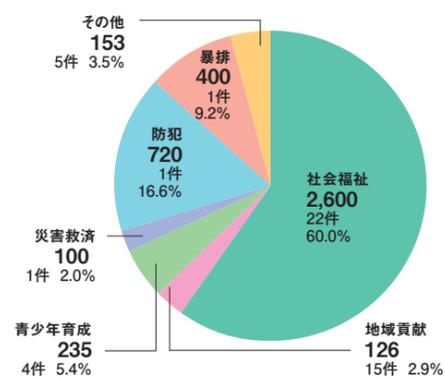
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合 (単位：千円)

#### ■2020年現金・物品の割合 (単位：千円)



### ■2020年分野別、拠出額と割合 (単位：千円)

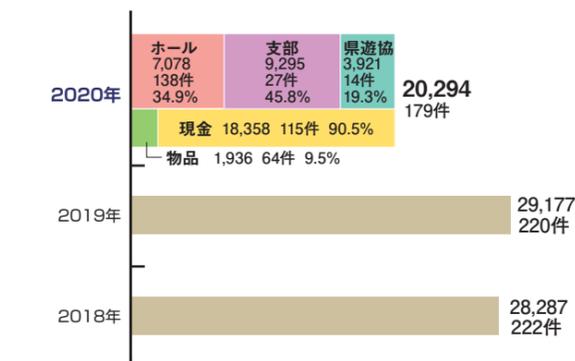


## DATA

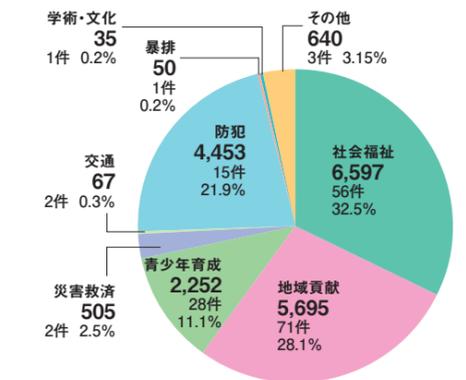
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合 (単位：千円)

#### ■2020年現金・物品の割合 (単位：千円)



### ■2020年分野別、拠出額と割合 (単位：千円)





富田直樹 理事長

## ■県遊協

- 地域貢献活動支援として公益財団法人「ふじのくに未来財団」へ20万円を寄贈（本年7回目、総額210万円を寄贈）【写真①】
- 「しずおかランニングパトロール」へ20万円を協賛金支援
- 障がい者自立支援のため、NPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」から購入したセルフ商品を、端玉賞品として全組合員ホール（254ホール）へ無償配布（1箱220点・2万円～508万円）【写真②】

## ■支部

- 例年、障がい児童福祉支援として「焼津市手を繋ぐ育成会」に20万円を寄付（藤枝・焼津市遊技業組合）
- 毎年年末に沼津市福祉協議会等4団体に40万円を寄付（沼津駿東遊技場組合）
- 毎年年末に三島市福祉協議会等3団体、児童福祉施設2カ所に14万円を寄付（三島遊技場組合）

## ■ホール

- 児童養護施設から社会人として独り立ちする次世代を担う退所者を支援するため、生活準備のための家電製品、スーツ等を購入するための支援金124万円（1人4万円、31人分）を静岡県児童養護施設協議会へ寄贈（株式会社ABC）
- 毎年、障がい者支援として「日本聴導犬協会」に300万円を寄贈（株式会社アブリイ）
- 日本赤十字社の献血に協力するため、ホール駐車場を献血場所として提供するとともに、スタッフも参加し献血者数の向上に努める（田村総業株式会社）



「ふじのくに未来財団」への寄贈【写真①】



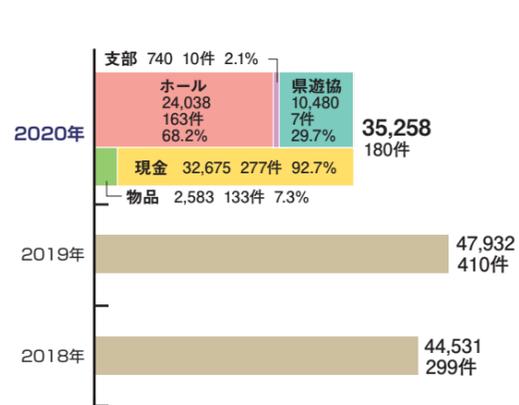
セルフ商品を組合員ホールへ無償配布【写真②】

## DATA

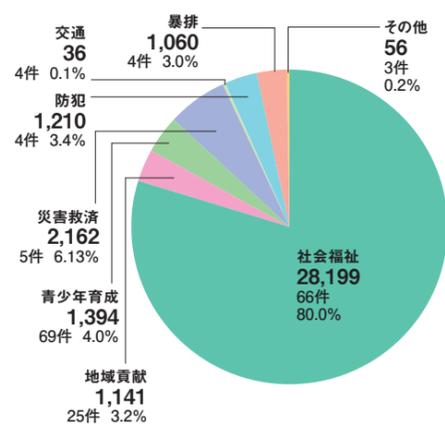
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



永森豊隆 理事長

## ■県遊協

- 富山県暴力追放推進センター、青少年育成富山県民会議、とやま被害者支援センター等に賛助金を預託

## ■支部

- 富山防犯協会、富山北部防犯協会等に賛助金を預託（富山市遊技業組合）
- 砺波市防犯協会、小矢部市防犯協会、氷見市防犯協会等に賛助金を預託（呉西地区遊技業組合）
- 中新川地区防犯協会に賛助金を預託（中新川地区遊技業組合）

## ■ホール

- 富山県内にある（養護施設・老人ホーム等）福祉施設を回り、お菓子をプレゼント（ノースランドグループ）【写真①】
- フードバンクとやまを通じて、母子家庭や子ども食堂に食材を寄贈（ノースランドグループ）【写真②】
- 射水市公立保育園に保育園用遊具一式を寄贈（エスタディオ小杉）



福祉施設にお菓子をプレゼント【写真①】



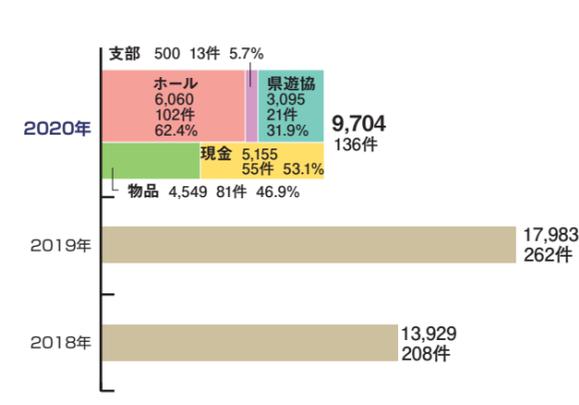
母子家庭や子ども食堂に食材を寄贈【写真②】

## DATA

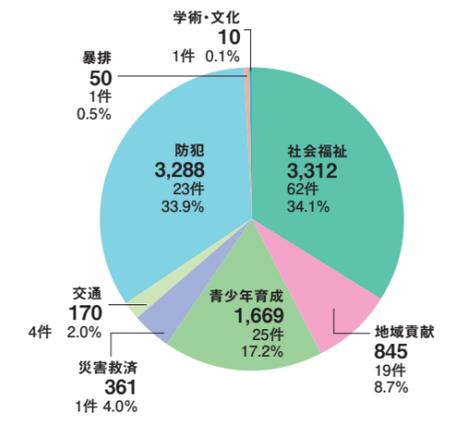
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）





浅野哲洋 理事長

## ■県遊協

- 石川県にコロナウイルス感染拡大防止対策のため、医療用防護服4,000着を寄贈【写真①】
- 事件被害者へのサポート支援や防犯活動推進協力のため石川県被害者サポートセンター、石川県防犯協会に寄付

## ■支部

- 石川県にコロナウイルス感染拡大防止対策のため、医療用防護服1,000着、オゾン紫外線除菌機50台を寄贈（金沢支部）【写真②】
- 小松市防犯協会に寄付（小松支部）

## ■ホール

- 石川県内福祉施設22カ所にお菓子255箱を寄贈（西原物産株式会社）
- 能美市立図書館に対し、新刊購入補助金を寄付（西原物産株式会社）
- 災害被災地への義援金を日本赤十字社に寄付（株式会社金沢ホームラン）



医療用防護服4,000着を寄贈【写真①】



オゾン紫外線除菌機50台を寄贈【写真②】



加藤英彦 理事長

## ■県遊協

- 年賀キャンペーンのシール貼付作業を授産施設に依頼
- 福井エフエム放送の防犯ブザー運動企画に賛同し寄付
- 「福井県ファン感謝祭」を開催。組合加盟店へ応募箱を設置し抽選をして豪華賞品をプレゼント【写真①】

## ■支部

- 福井県共同募金会に寄付（若狭支部）

## ■ホール

- 福井県しあわせ基金に寄付（クアトロプーム株式会社）
- 地域の祭事の際に協賛金を預託（株式会社エヌケイ商事）



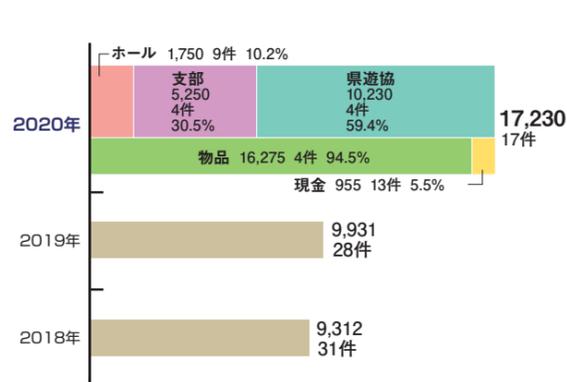
福井県ファン感謝祭のポスター【写真①】

## DATA

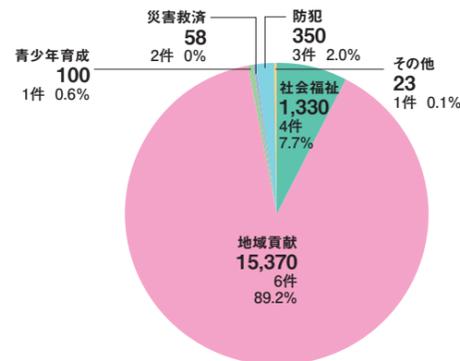
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）

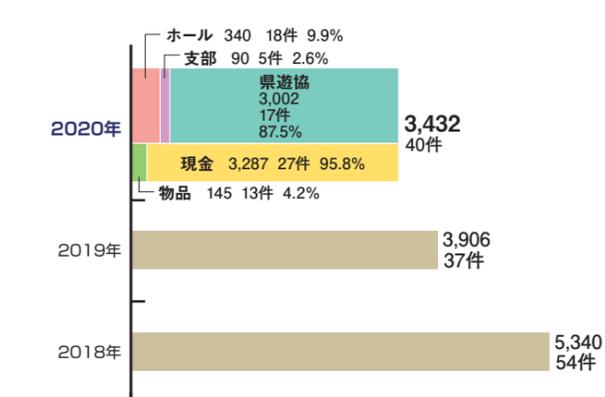


## DATA

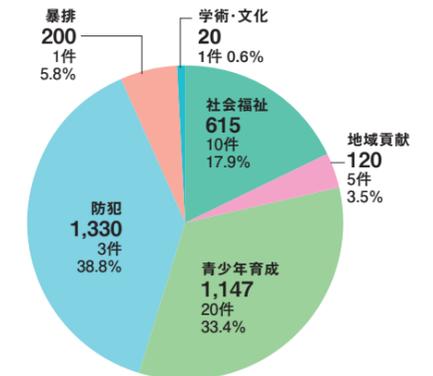
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）





金光淳用 理事長

## ■県遊協

- 更生保護法人岐阜県共助会、岐阜県暴力追放センター、犯罪被害者支援センター、更生保護法人洗心の家に寄付

## ■支部

- 多治見市に救急救命士用マスク20箱、屋外設置用AED収納BOXを寄贈（東濃遊技業組合）
- 土岐市に非常用簡易トイレセットを寄贈（東濃遊技業組合）
- 瑞浪市に足踏式消毒スタンド、消毒液セットを寄贈（東濃遊技業組合）
- 中津川市に防災用テントを寄贈（東濃遊技業組合）

## ■ホール

- 児童福祉施設や社会福祉協議会に対しお菓子を寄贈（キウヤ島店長良店・キウヤ島店・株式会社平成観光・ウイング御高店・ウイング池田店・グリフィン穂積店等）[写真①②]
- 高山赤十字病院に対しフェイスシールド500枚を寄贈（株式会社敬愛）
- 高山市、郡上市、下呂市に災害救済として各300万円を寄付（株式会社敬愛）
- 安心・安全ぎふのまちづくり協議会に対して、地域の防犯環境整備の一環（防犯カメラの設置）として300万円を寄付（株式会社善都）[写真③]



児童福祉施設等にお菓子を寄贈 [写真①②]



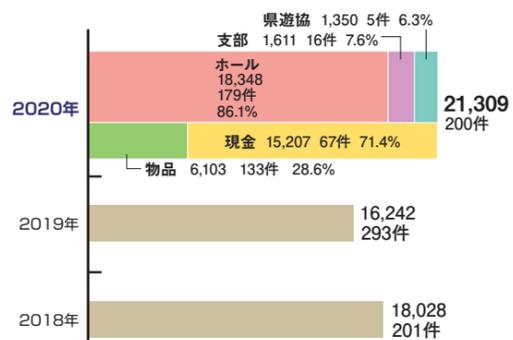
防犯カメラの設置を支援し感謝状を受領 [写真③]

## DATA

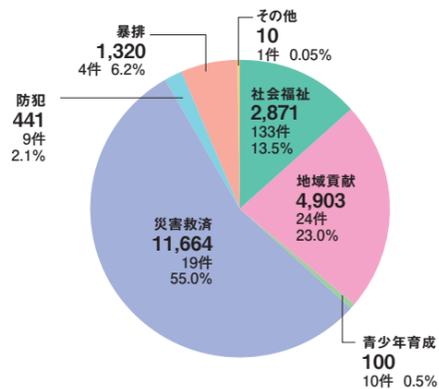
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



真城貴仁 理事長

## ■県遊協

- 尾張旭市、東海市、碧南市、高浜市に防犯カメラ20台を寄贈 [写真①]
- 県内授産施設を支援するためセルフ商品を購入

## ■支部

- 中村区連合防犯協議会に自動通知録音機を寄贈（中村区遊技場防犯組合）[写真②]
- 東海テレビ福祉事業に100万円寄付し、その企画で愛知県一宮市内の福祉施設及び身体障がい者施設の入所者並びに母子家庭の親子等を、一宮市尾西市民会館で開催された「コメディクラウンサーカス」に招待（一宮遊技業協同組合）
- 豊川防犯協会に防犯カメラを寄贈（豊川遊技業組合）

## ■ホール

- 天白区防犯協会にマスクを寄贈（プレイランドキャッスルグループ）
- 春日井市、瀬戸市、みよし市、東郷、豊田、中川区、緑区、守山区の社会福祉協議会に総額700万円を寄付（株式会社玉越）



印場駅付近に設置された防犯カメラ [写真①]



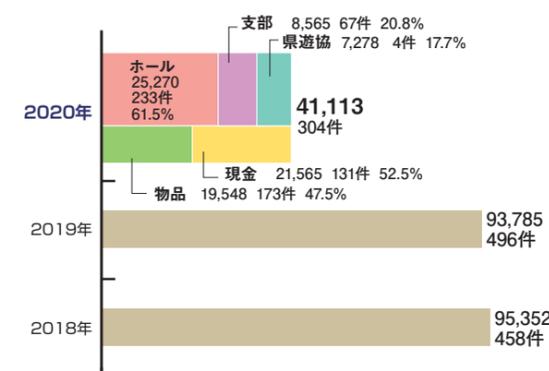
自動通知録音機の寄贈式 [写真②]

## DATA

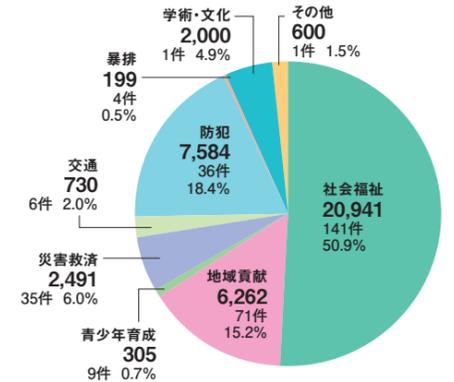
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）





権田 清 理事長

## ■県遊協

- 給付型奨学金として「(特非) フリースクール三重シュール」に300万円を預託。また、活動支援のため家賃補助金370万円も寄付【写真①】
- 三重県警察交通部にフラッシュLEDバンド1,000本を寄贈【写真②】

## ■支部

- 亀山市社会福祉協議会に寄付、また同市健康福祉部に掃除機。同市健康福祉部子ども家庭室には玩具を寄贈（亀山支部）
- 松阪市民病院と松阪あゆみ支援学校にマスクを寄贈（松阪支部）【写真③】
- 伊勢度会生活安全協会に防犯ブザーを寄贈（伊勢支部）

## ■ホール

- 日本赤十字社に対し、熊本地震の義援金を寄付（がちゃぼん久居）
- 児童福祉施設等にお菓子を寄贈（トップワン松阪店・PAO松阪店・ウイング玉城店・ウイング河芸店・ウイング津店・ぱちんこ富士井田川店・ラッキープラザ・キング観光サウザンド津店等）



「フリースクール三重シュール」を支援【写真①】



フラッシュLEDバンドを寄贈【写真②】



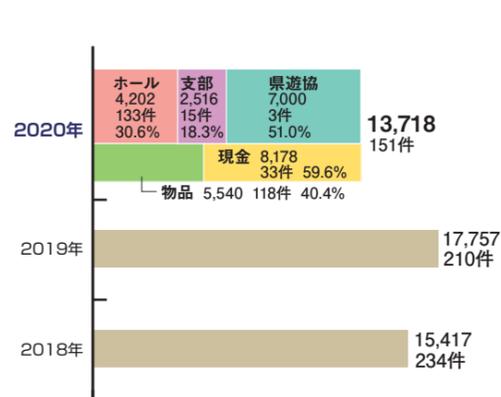
松阪警察署長から感謝状を受領【写真③】

## DATA

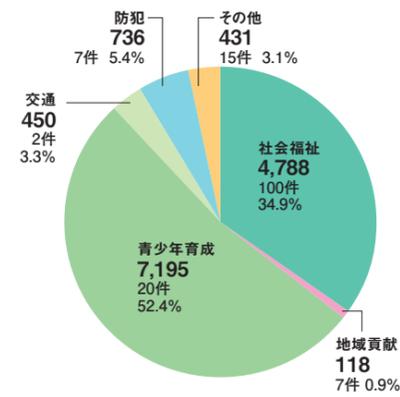
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



古川照雄 理事長

## ■県遊協

- 滋賀県社会福祉協議会、滋賀県暴力団追放推進センター、滋賀県防犯協会等に支援金を寄贈
- 県内の福祉施設、NPO法人等に、送迎用車両3台を寄贈【写真①】
- 公益財団法人おりづる会の交通遺児クリスマスに協賛し、お菓子や図書カードを寄贈（滋遊協青年部）

## ■支部

- 甲賀警察署子ども安全リーダーに活動用メッシュベストを寄贈（甲賀支部）【写真②】
- 近江八幡地区交通安全協会に反射エコバックを寄贈（湖東支部）【写真③】

## ■ホール

- 社会福祉法人にお菓子を寄贈（ベック&カンパニー・トップワン甲賀・トップワン八日市・イチバン・コーポレーション・トップワン水口等）
- 高島市社会福祉協議会に折りたたみ車いすを寄贈（サンエイ高島）



福祉施設等に送迎用車両を寄贈【写真①】



メッシュベストを寄贈【写真②】



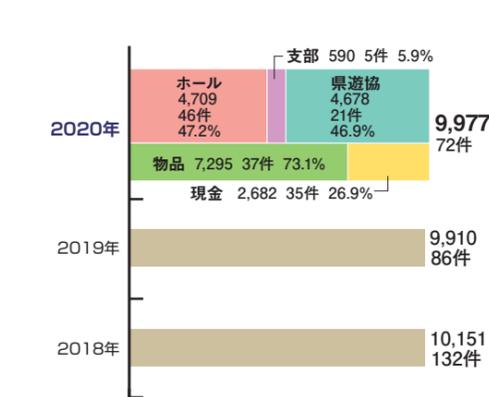
反射エコバックを寄贈【写真③】

## DATA

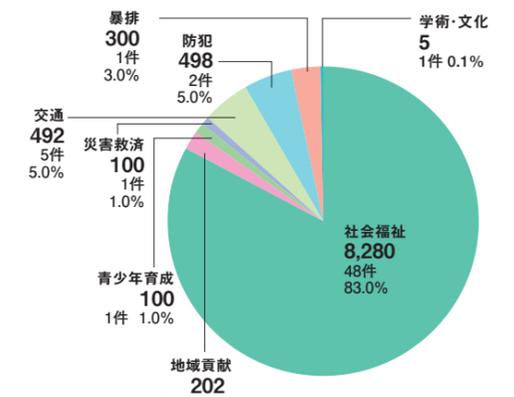
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）





白川鐘一 理事長

## ■府遊協

- 社会福祉法人きょうどうに福祉車両を寄贈。平成13年度から毎年府内の自治体や福祉団体に寄贈を行い20台目【写真①②】
- 京遊協を母体とする「公益財団法人京遊連社会福祉基金」から社会福祉に役立ててもらうため、京都府内の社会福祉団体等20団体に総額728万円を助成
- 京都市新型コロナウイルス感染対策支え合い基金に100万円寄付

## ■支部

- 西京防犯協会、右京防犯協会に寄付（洛西支部）
- 宇治防犯協会、宇治交通安全協会に寄付（山城支部）

## ■ホール

- フードバンク京都にお菓子やジュース、レトルト食品を寄贈（センター）
- 児童福祉施設にお菓子を寄贈（イチバンク御山淀店・長岡ジャンボ・トップワン五条店等）



社会福祉法人に福祉車両を寄贈【写真①②】



平川容志 理事長

## ■府遊協

- 増加する街頭犯罪の抑止に寄与するため、青色防犯パトロール車両を継続寄贈【写真①②】
- 暴力追放推進センターに200万円寄付
- 大阪府防犯協議会にウエットティッシュ1万6,000個を寄贈
- 大阪府に特殊詐欺被害防止ロゴ入りの「パイン飴」37,000袋を寄贈

## ■支部

- 大阪消防振興協会に防火予防標語入ビニール幕を寄贈（東住吉遊技業組合）
- 岸和田警察署に特殊詐欺被害対策電話録音機40台を寄贈（岸和田遊技業組合）
- 生野警察署生活安全課に防犯ブザー100個寄贈（生野遊技業組合）
- 枚岡警察署に特殊詐欺被害防止ステッカー15,000枚及び防犯機能付き電話機10台を寄贈（枚岡遊技業組合）
- 四條畷警察署にドライブレコーダー8台を寄贈（四條畷遊技業組合）
- 西成警察署に防犯啓発用オリジナルマスク300枚を寄贈（西成遊技業組合）

## ■ホール

- 堺市社会福祉協議会に福祉車両を寄贈（キコーナ）
- 児童福祉施設にお菓子を寄贈（株式会社シリウス・岸和田マルハン岸和田店）
- 地域の美化を目的として、ホール周辺の清掃を実施（クラブD・大東洋なんぼ店）



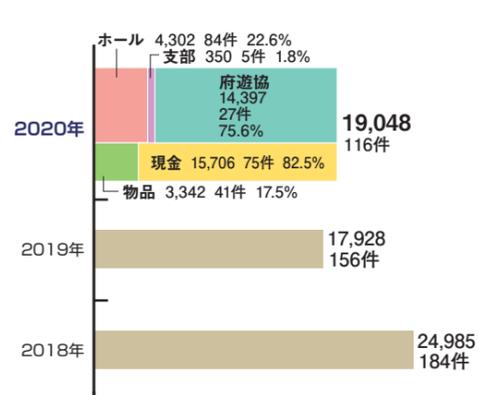
寄贈された青色防犯パトロール車【写真①②】

## DATA

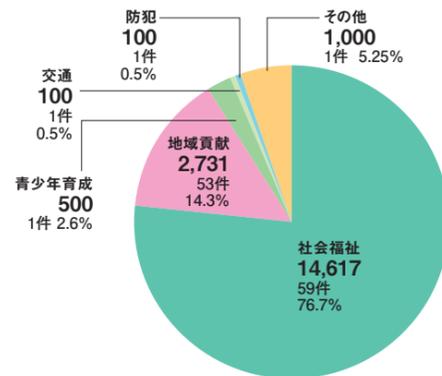
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2019年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2019年分野別、拠出額と割合（単位：千円）

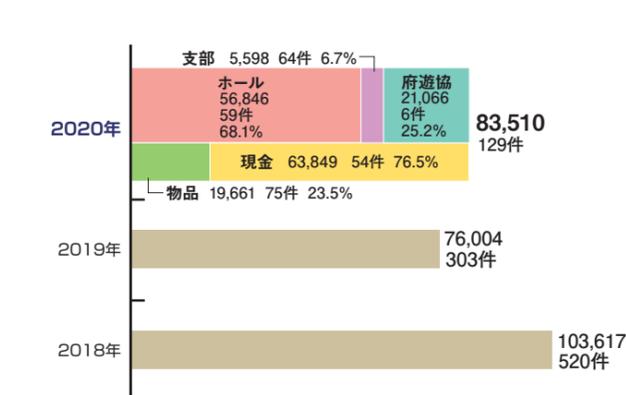


## DATA

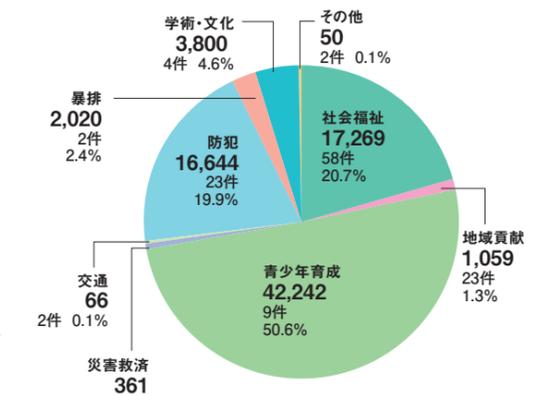
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2019年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2019年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



# 兵庫県 兵庫県遊技業協同組合



平山龍一 理事長

## ■県遊協

- 兵遊協が支援する少年団野球リーグ「第28回 兵庫地区・長田地区はあ〜とふる杯争奪リーグ戦大会」の開会式に兵遊協理事長が出席し、来賓挨拶を行うと共に、後日、開催への支援金として30万円を贈呈【写真①】
- 兵庫県児童養護連絡協議会が児童養護施設や乳児院等で生活する子どもたちがステージ等で芸術面を披露する場として開催した「第6回みんなの文化祭」において、青年部会長が子どもたちにお菓子の詰め合わせを贈呈し、兵遊協のマスコットと共に子どもたちとダンスを踊って場を盛り上げた【写真②】
- インターネット犯罪から青少年を守る活動の一環として、防犯広報チラシを作成すると共に、兵庫県警察少年課が制作する「情報モラル啓発教材（動画）」の発行に協賛し、約83万円を支援



少年団野球リーグを支援【写真①】



「第6回みんなの文化祭」にお菓子を贈呈【写真②】

## ■支部

- 青少年育成の一環として、神戸市少年野球団に野球ボール35ケース（1ケース12入り）約19万円相当を寄贈して、少年団野球リーグ「第28回 兵庫地区・長田地区はあ〜とふる杯争奪リーグ戦大会」のスポーツイベントを支援（生田支部）
- 全国地域安全運動の期間中（10月11日から10月20日の間）、組合員ホール22店舗では、店内に防犯ポスターを掲示すると共に、店内放送を通じて、来店客に同運動の広報啓発活動を実施（加古川支部）
- 市制施行80周年「防災講演会」自主防災リーダー推進大会に傘下組合員ホールから2名が出席し、災害時におけるリーダーとしての知識を学んだ（伊丹支部）

## ■ホール

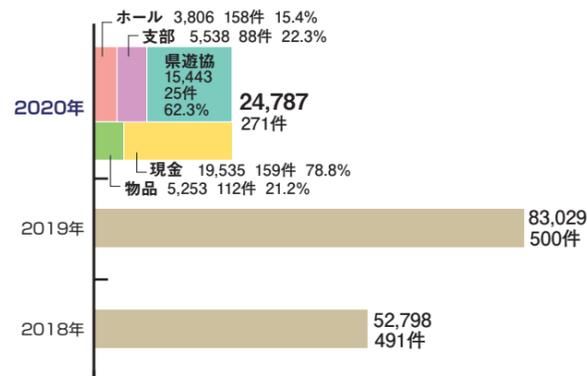
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として、尼崎総合医療センターへ不織布マスク4,500枚（1,500枚×3回）を寄贈して、医療活動の支援（ワールド）
- ホールスタッフ2名が毎週金曜日、地元の藤原台小学校前交差点で児童の見守り隊活動に参加（123五社店）
- ホール前及びその付近の道路上において、ゴミ拾い、掃除等の環境美化活動を毎日定期的の実施（ジョイガーデン）

## DATA

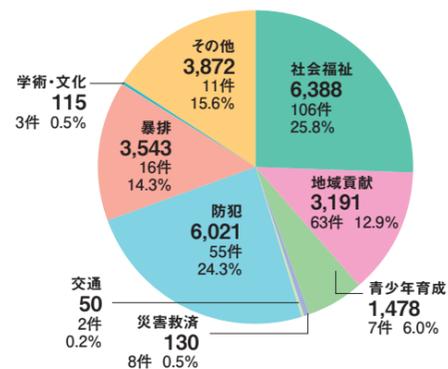
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



# 奈良県 奈良県遊技業協同組合



渡辺博治 理事長

## ■県遊協

- 安全安心な町づくり事業を支援するため、公益財団法人奈良県防犯協会に100万円寄付
- 緊急食糧支援（フードレスキュー）のため、奈良県社会福祉協議会に寄付【写真①】
- 公益財団法人奈良県暴力団追放県民センター、奈良県更正保護協会等に寄付



奈良県社会福祉協議会に寄付【写真①】

## ■支部

- ホール周辺の清掃活動（日本列島クリーン作戦）を8年連続実施（生駒・奈良西支部）

## ■ホール

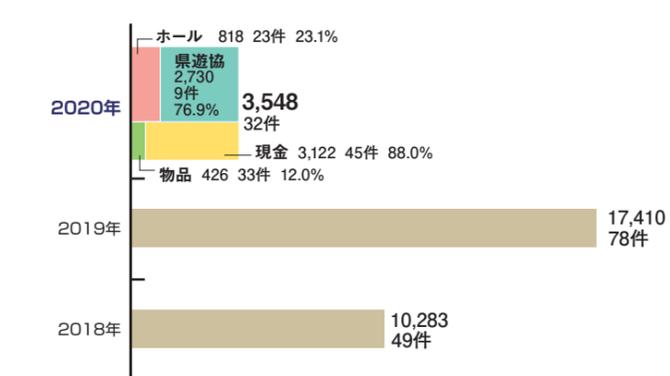
- 高田市消防第6分団に寄付（スーパードーム大和高田店）
- 嘉幡町自治会に寄付（APROW天理店）
- 上垣内自治会に寄付（五條シカゴ）

## DATA

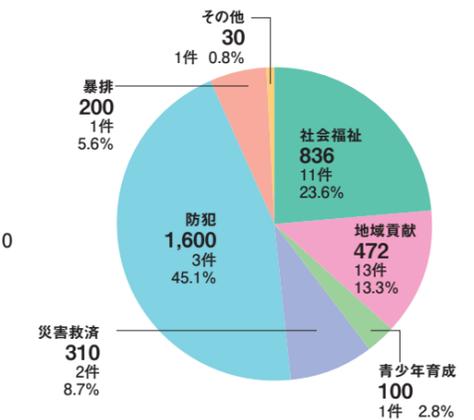
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



# 和歌山県 和歌山県遊技業協同組合



金 貴如 理事長

## ■県遊協

●平成2年に設立した社会福祉法人「和遊協社会福祉事業協会」は組合に加盟する協力ホールからの寄付金を原資とし、健康・衛生対策、危機管理対策、就労支援対策を重点に県下の福祉施設等に助成金交付事業を実施している。2020年も第30回助成金交付事業を実施し、和歌山県下の社会福祉施設等に27件、500万円の助成を実施【写真①②】

## ■支部

●支部員等50名が、和歌山城のボランティア清掃活動を実施（和歌山東支部・和歌山西支部・和歌山北支部）

## ■ホール

●和歌山県遊技業協同組合に加盟する50ホールが、年12万円の社会福祉事業協力金を社会福祉法人和遊協社会福祉事業協会に寄付し、それを原資に社会福祉法人和遊協社会福祉事業協会が和歌山県下の社会福祉施設等に助成金交付事業を実施（組合員ホール）



助成金で購入された防災グッズ【写真①②】

# 鳥取県 鳥取県遊技業協同組合



全本和由 理事長

## ■県遊協

●県独自のファン感謝祭の景品として障がい者就労施設から製品を購入【写真①】  
●日本赤十字社鳥取県支部に寄付

## ■支部

●鳥取市障がい者福祉協会に寄付（鳥取遊技業防犯組合）

## ■ホール

●介護施設入所者に対してメッセージカードを作成・送付。従来、介護施設入所者を招きパチンコ体験や健康イベント等を開催していたが、今期はコロナの影響で中止となったための代替取組（玄海）  
●障がい児童のトランポリン体験に際し介助ボランティアを実施（ジャンボJM米子店）  
●血液センターにおける集団献血（マルハン鳥取店）【写真②】



ファン感謝祭の景品を告知するポスター【写真①】



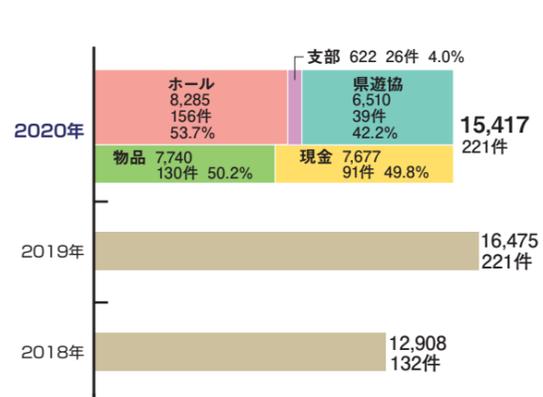
ホールスタッフが献血に協力【写真②】

## DATA

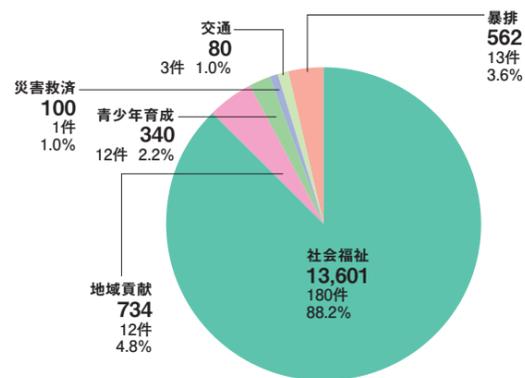
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）

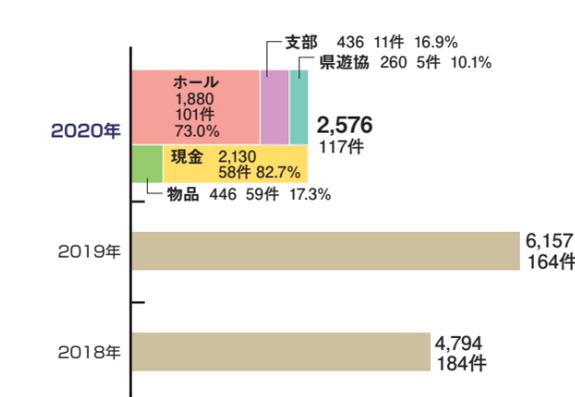


## DATA

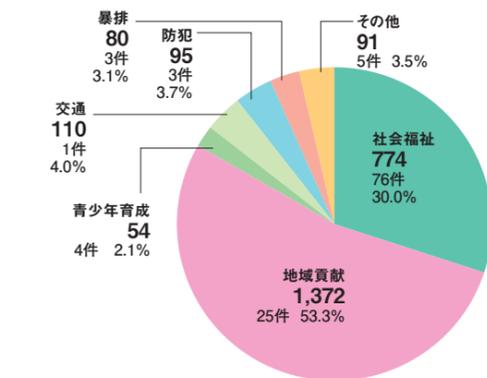
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



# 島根県 島根県遊技業協同組合



洪 錫圭 理事長

## ■県遊協

2020年中は、行く末が見通せないコロナ禍の影響を受けたことから、例年続けてきた組合事業としての寄付、寄贈等の社会貢献活動の歩みを一旦保留しました。  
地区協力会や各運営会社、ホールによる個別の事情を踏まえた活動に委ねたところ、時宜を得た多くの取組がなされました。

## ■支部(地区協力会)

- 所轄警察署への特殊詐欺被害防止の広報啓発活動支援（クリアファイルの製作寄贈）
- 所轄警察署への交通安全講習用教材CDの製作寄贈（道路交通法改正）

## ■ホール

- コロナ感染予防物品（マスク1万枚、手指消毒剤）を医療施設、福祉施設及び保育所に寄贈
- 書籍、図書券を小中学校及び幼稚園に寄贈
- 菓子等飲食物を社会福祉協議会、児童福祉施設及び幼稚園に寄贈
- 共同募金会、日本盲導犬協会、県交通安全協会、被害者サポートセンター、町内会及び24時間テレビ募金に現金を寄付・募金
- 青少年健全育成、防犯、暴追、事故防止等の各種行事・活動に協賛参加、ホール周辺清掃活動等

# 岡山県 岡山県遊技業協同組合



千原行喜 理事長

## ■県遊協

- 一般社団法人岡山県青少年財団に300万円を寄付
- 岡山県桃太郎愛のともしび基金に100万円を寄付
- 岡山県防犯協会、日本赤十字社岡山県支部、山陽新聞社会事業団、山陽放送等に寄付【写真①】
- 児童福祉施設に対しお菓子の詰め合わせを寄贈（青年部会）

## ■支部

- 岡山県青少年財団、岡山市地域子育て支援課等に寄付（岡山支部）

## ■ホール

- 社会福祉法人旭川荘に折りたたみ車いすを寄贈（ジャンボ、サンエイグループ）
- 児童福祉施設に玩具やお菓子、家電等を寄贈（成通グループ）
- NPO法人や福祉施設に対し、備品や活動資金等多数支援（サンエイグループ）



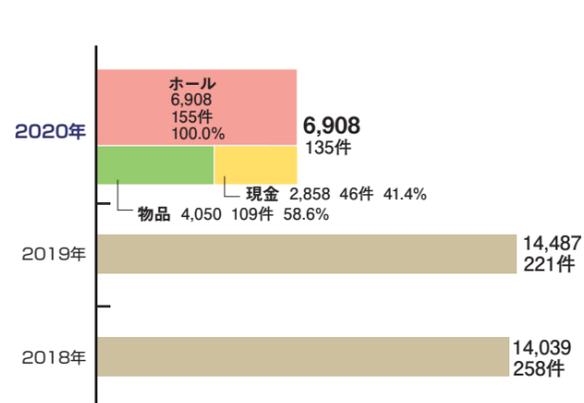
寄付を実施し感謝状を受領【写真①】

## DATA

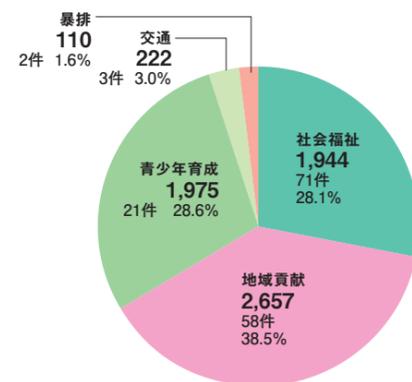
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）

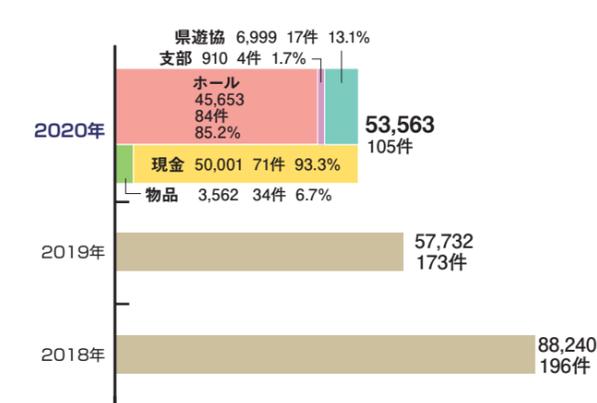


## DATA

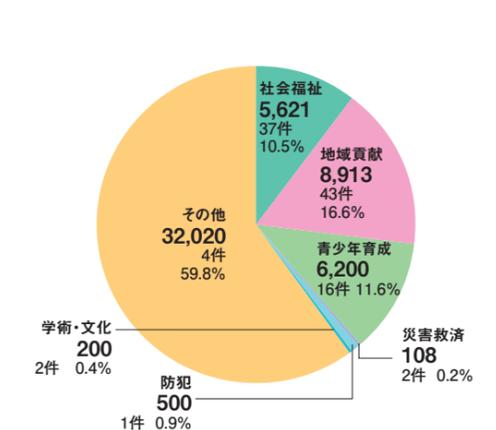
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



# 広島県 広島県遊技業協同組合



延川章喜 理事長

## ■県遊協

- 社会貢献の一環として、災害時に県からの要請により組合加入ホールの駐車場を救助や復旧作業の活動拠点として使用するため「災害時における支援協力に関する協定」を県遊協と広島県とで締結【写真①】
- 社会貢献の一環として、県ファン感謝デーに合わせ契約会社とブックオフがコラボした児童用図書を県内全域すべての児童養護施設に贈呈【写真②】
- 社会貢献及び青少年健全育成の一環として、広島県の文化・スポーツ振興事業支援のため広島県教育事業団に200万円を寄付。同支援は昭和57年から行っており、これまでの支援総額は1億4,000万円以上となっている【写真③】

## ■支部

- 青少年健全育成を目的に開催されている「広島中央少年ソフトボール大会」を平成6年から運営支援を続けているもので、本年度も50万円の財政支援を行うとともに広島市遊協会長（県遊協理事長）、広島中央支部長が参加し出場選手を激励した。（支援累計約1,350万円）（広島市遊協・広島中央・広島市遊協）
- 広島市遊技業防犯協会広島南支部は、平成5年から27年の長きにわたり、管内に所在する小島内にある児童養護施設の児童への福祉支援を続けており、本年度も児童の要望に応じて「水筒」を寄贈。支援を通じて同施設の職員や児童とは強い繋がりにより良好な関係を保持している。なお、本年度の寄贈で事業開始から総額約290万円に達している（広島南）

## ■ホール

- きょうされん広島県支部に車いすを寄贈（フローグループ）
- 東広島市と三次市にマスクを各5,000枚を寄贈（伯和グループ）



災害時の支援協力に関する協定を広島県と締結【写真①】



児童養護施設に児童図書を贈呈【写真②】



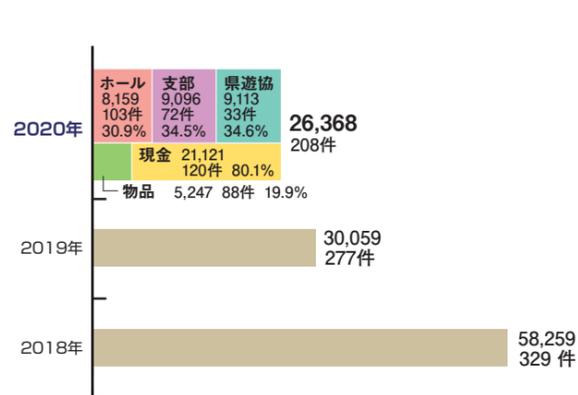
広島県教育事業団に寄付【写真③】

## DATA

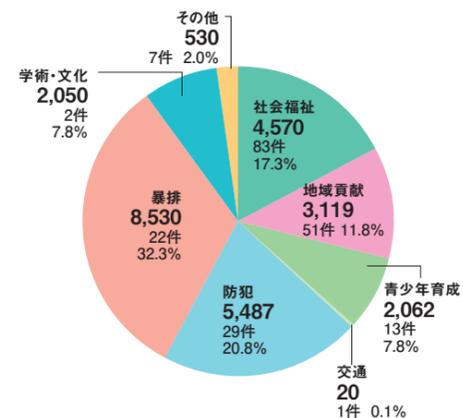
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



# 山口県 山口県遊技業協同組合



金栄作 理事長

## ■県遊協

- 県内の自治会に対し、防犯カメラ5台を寄贈【写真①】

## ■支部

- 宇部市防犯対策協議会に対し、100万円を寄付（宇部市遊技場防犯組合）
- 防府市社会福祉協議会に対し、50万円を寄付（防府遊技場防犯組合）【写真②】

## ■ホール

- 下関市に対し、マスク300枚を寄贈（PSJグループ）
- 下関飲食店組合に対し、消毒液160リットルを寄贈（PSJグループ）
- 社会福祉法人ヘスティア華城に対し、車いす3台を寄贈（ジャンボ防府店）



防犯カメラを寄贈【写真①】



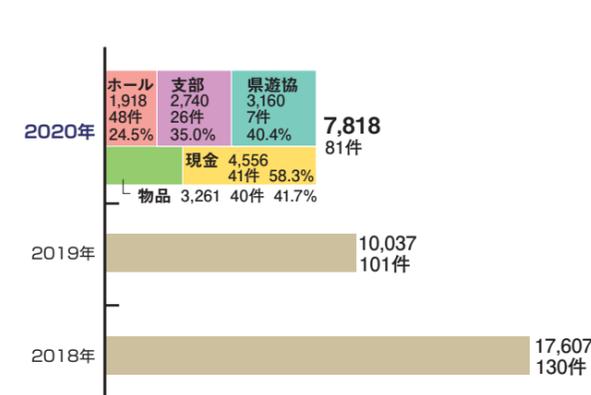
防府市社会福祉協議会に寄付【写真②】

## DATA

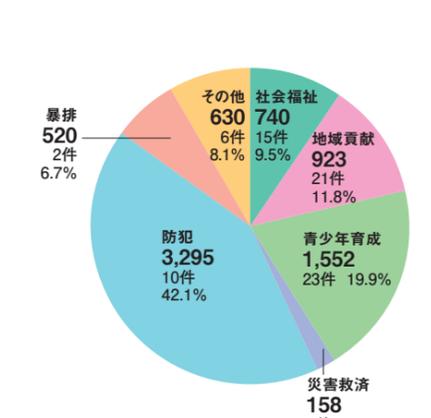
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）





久岡征司 理事長

## ■県遊協

- 観光協会の学術文化への賛助会費
- 徳島暴力追放センターの暴力排除関連団体への賛助会費

## ■ホール

- 社会福祉協議会にお菓子を寄贈（ミリオン）
- 徳島県共同募金会に寄付（ミリオン・ニューメトロ）
- スポーツイベントに寄付（nikko上板イオンタウン店・ニューメトロ）



平山 剛 理事長

## ■県遊協

- 長年にわたり暴力排除意識の普及並びに暴力追放運動の推進に努め、安全で安心な地域社会づくりに寄与したとして、知事と中四国管区警察局長連盟の表彰状を受領【写真①】
- 香川県防犯協会連合会から多年にわたる地域防犯活動への貢献を評価され、感謝状を受領【写真②】

## ■ホール

- 子どもたちが参加する稚魚の放流と海岸清掃等、瀬戸内海の環境維持改善活動を実施（愛染興業株式会社）【写真③】
- 児童教育文化向上の為、県内5市2町に計約300万円の児童図書を寄贈（株式会社たまや）
- 地域貢献活動として各ホール周辺の公道の清掃活動を定期的に実施（株式会社グランド商事・アドバンス）



安全で安心な地域社会づくりに寄与したとして感謝状を受領【写真①】



地域防犯活動への貢献を評価され感謝状を受領【写真②】



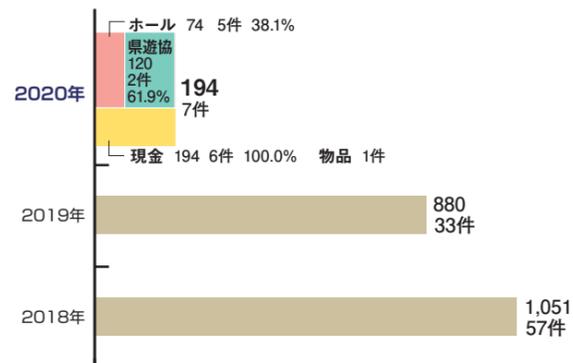
子どもたちが参加する稚魚の放流と海岸の清掃活動を実施【写真③】

## DATA

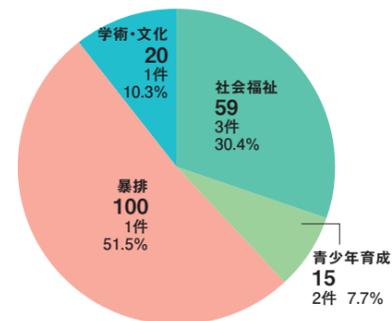
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）

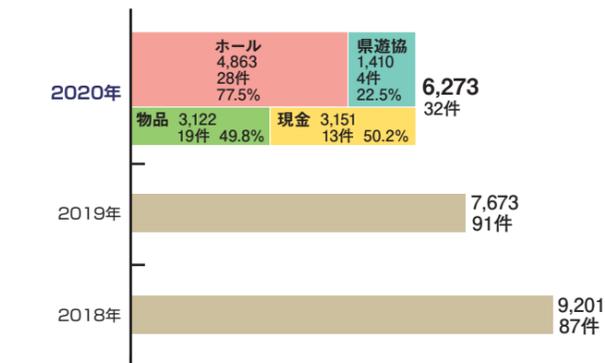


## DATA

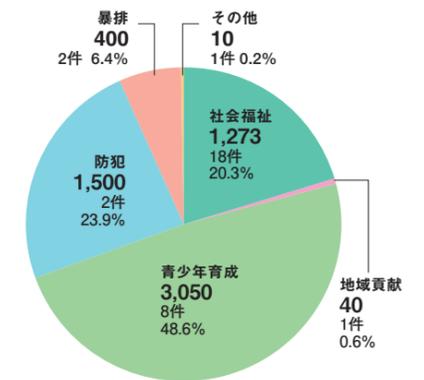
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）





川井義廣 理事長

## ■県遊協

- 暴力団根絶広報に協力するため、愛媛県暴力追放推進センターに30万円を寄付し、新聞紙上、駅コンコースでの広報活動を実施【写真①】
- 愛媛県交通安全協会に道路横断旗1,000本を寄贈（平成22年から継続実施）【写真②】
- 高齢者を対象とした特殊詐欺被害防止啓発活動に活用する暑中見舞い葉書「かもめーる」1万枚を愛媛県警察本部に寄贈（平成26年から継続実施）

## ■支部

- 松山市を中心とする中予地区4地区の防犯協会に総額40万円相当の防犯グッズ等を寄贈（中予地区遊技業防犯協力会）
- 松山東地区交通安全協会に反射材500個（55,000円相当）を寄贈（中予地区遊技業防犯協力会）

## ■ホール

- サッカーを通じた青少年育成のため、FC今治新居浜サッカークリニックに協賛し、550万円を寄付（株式会社日光商事）
- 新型コロナウイルスの感染拡大のため、中止となった花火大会に代わり、「夜市」を開催し、屋台やプロジェクションマッピングの花火を実施（キスケ株式会社）
- 年間を通じて、児童施設、高齢者施設に対して、お菓子、飲料、マスクをダンボールに詰めて寄贈を実施（グランディール天国）



広報活動に対し感謝状を受領【写真①】



道路横断旗1,000本を寄贈【写真②】



秋 太海 理事長

## ■県遊協

- 児童養護施設への児童用図書（ゆずま図書）寄贈【写真①】
- 「愛の献血キャンペーン」として組合員ホール駐車場を貸し出して献血支援【写真②】
- 児童養護施設へのクリスマスプレゼントを実施

## ■ホール

- 県内小学生に地元サッカークラブの試合の無料観戦を支援等するドリームパスポートを実施（株式会社慶尚）【写真③】
- 地域祭礼、イベントへの協賛（株式会社慶尚・株式会社玉井・有限会社成・有限会社栄幸商事等）
- 地区清掃活動への参加（株式会社慶尚・株式会社土佐商事・株式会社玉井等）



児童養護施設に児童図書を寄贈【写真①】



「愛の献血キャンペーン」を実施【写真②】



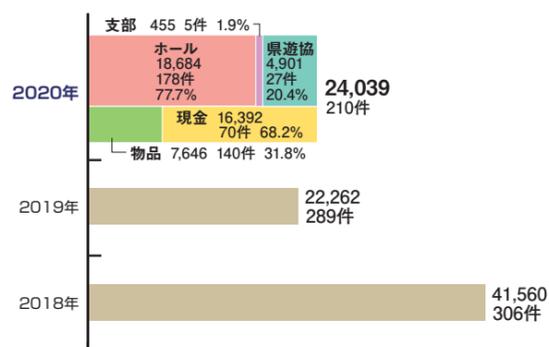
サッカーの無料観戦を実施【写真③】

## DATA

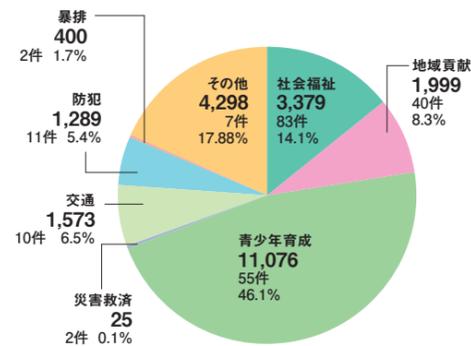
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）

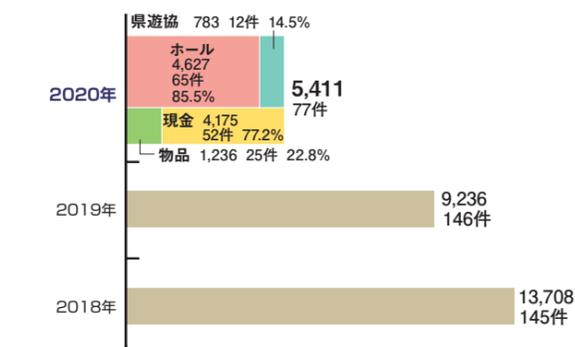


## DATA

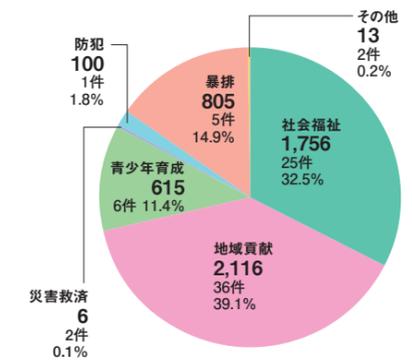
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）





平岡聖教 理事長

## ■県遊協

- 児童養護施設で暮らす児童を対象とした「第13回こども絵画コンクール」を開催【写真①】
- 児童養護施設19カ所にお菓子や図書券、毛布、布団、マスク等を寄贈
- 社会福祉5団体へ総計200万円を寄付

## ■支部

- 公益社団法人福岡県少年警察ボランティア協会に寄付（福岡市遊技場組合）
- 東福岡防犯協会に寄付（福岡東遊技場防犯組合）
- 青パトによる防犯パトロール活動にホールスタッフが参加（筑紫遊技場組合・春日遊技場組合）

## ■ホール

- 福岡市医師会にマスク1万枚を寄贈（株式会社玉屋）【写真②】
- 町内会や児童福祉施設等にお菓子を寄贈（キャロル・キャロル遊遊館・EVO3・ユーコーラッキーゆめパーク久留米店・ユーコーラッキー広又本店・ユーコーラッキー国分店・株式会社玉屋・パーラーAパーク・ベルエアマックス広川店等）



「第13回こども絵画コンクール」を開催【写真①】



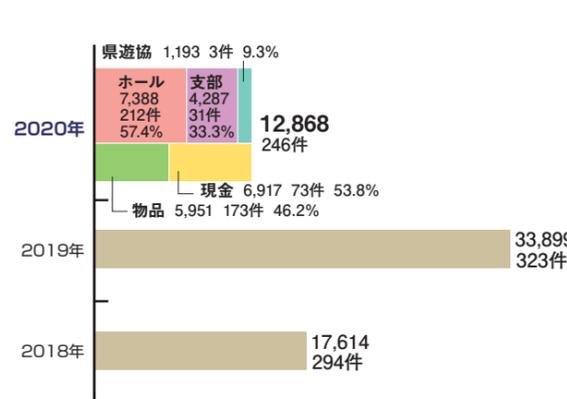
福岡市医師会にマスクを寄贈【写真②】

## DATA

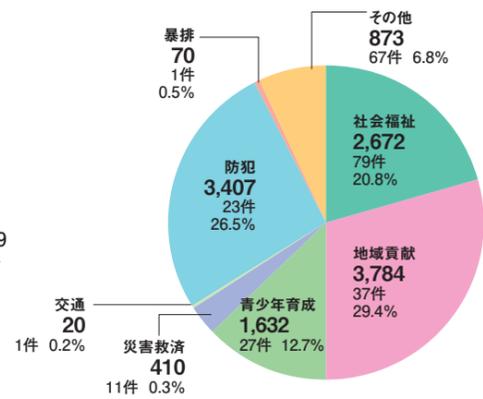
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



新富和紀 理事長

## ■県遊協

- ニセ電話詐欺防止対策として、コンビニエンスストアで使用する「ニセ電話詐欺防止封筒」10万枚を佐賀県防犯協会に寄贈【写真①】
- 6カ所の児童養護施設に「クリスマスプレゼント（お菓子、図書カード、マスク）」を寄贈
- 佐賀県暴力追放運動推進センター、佐賀県防犯協会に活動資金を寄贈【写真②】

## ■支部

- 地区の防犯協会、社会福祉法人関係団体に寄付（唐津地区遊技場組合・伊万里市遊技場組合）

## ■ホール

- 子ども食堂市民サポートセンター、児童福祉施設等にお菓子を寄贈（ゴールドラッシュ高木瀬店・つかさ神埼店808・ユーコーラッキー鳥栖郊外店・たんぼぼ・まるみつ三日月店等）
- 障がい者自立支援施設からセルフ商品を購入（キングホール鏡店等）
- 全国クリーンデーの清掃活動に参加（キングホールグループ）【写真③】



「ニセ電話詐欺防止封筒」を10万枚寄贈【写真①】



活動資金を寄贈【写真②】



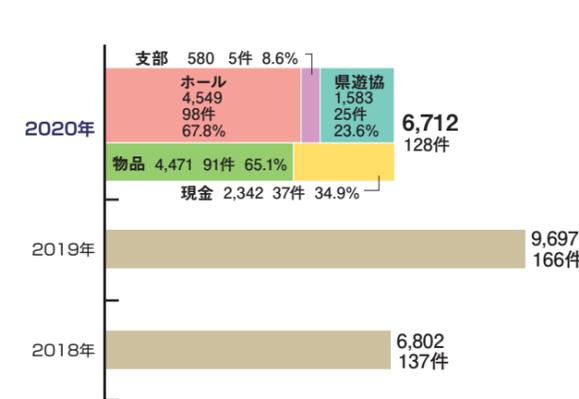
全国クリーンデーの清掃活動に参加【写真③】

## DATA

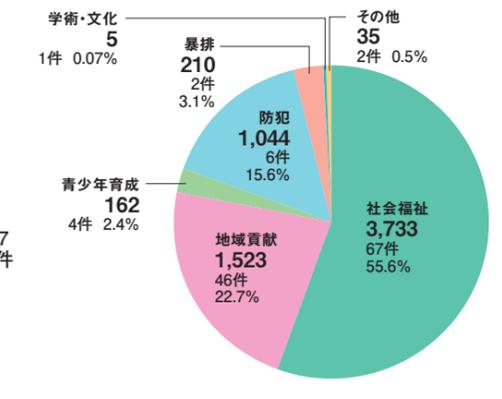
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）





松尾道彦 理事長

## ■県遊協

- 長崎県へフェイスシールド3,000個を寄贈【写真①】
- 子ども食堂、地域スポーツクラブへキッチン用品、スポーツ用品を寄贈【写真②】

## ■支部

- 市内交差点に防犯カメラ2基を寄贈・設置（五島市遊技場組合）
- 特殊詐欺被害防止カレンダーを作成し配布（島原半島遊技場組合）

## ■ホール

- 近隣の学校施設へ不足した衛生用品を寄贈（ひくちグループ）【写真③】
- 地元の児童施設にお菓子類を寄贈（マルハン佐世保店）



長崎県へフェイスシールドを寄贈【写真①】



キッチン用品、スポーツ用品を寄贈【写真②】



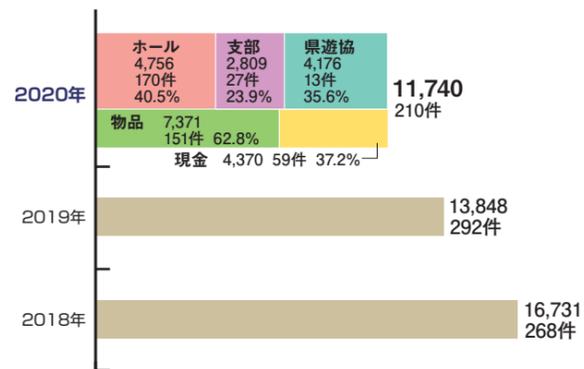
学校施設へ衛生用品を寄贈【写真③】

## DATA

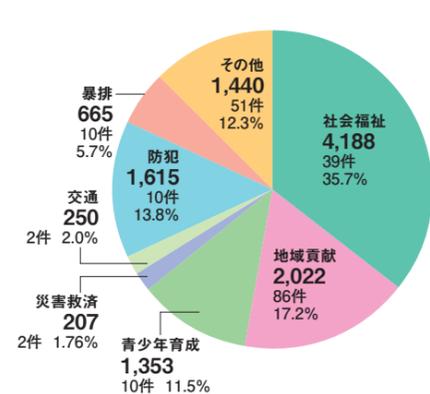
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



岩下博明 理事長

## ■県遊協

- 社会貢献キャンペーンとチャリティゴルフで得た浄財を毎年、県内12カ所の児童養護施設へ寄贈
- 第17回目となる福祉施設利用者支援活動として、授産施設菊陽学園入所者の方々に正月3が日でお客様に配布する総付景品へのシール添付作業を委託。12月23日に作業対価と学園で必要とする運動器具や電化製品を寄贈
- 熊本県へ令和2年7月豪雨災害義援金を寄付【写真①】

## ■支部

- 山鹿警察署との合同による防犯のぼり旗を制作し寄贈【写真②】（山鹿地区）

## ■ホール

- 令和2年7月豪雨の災害ごみの仮置き場としてホール駐車場を提供【写真③】（岩下兄弟株式会社）
- 令和2年7月豪雨災害復旧ボランティア活動を実施（株式会社SB Good Industry・エル菊池店）



熊本県へ豪雨災害義援金を寄付【写真①】



防犯のぼり旗を制作し寄贈【写真②】



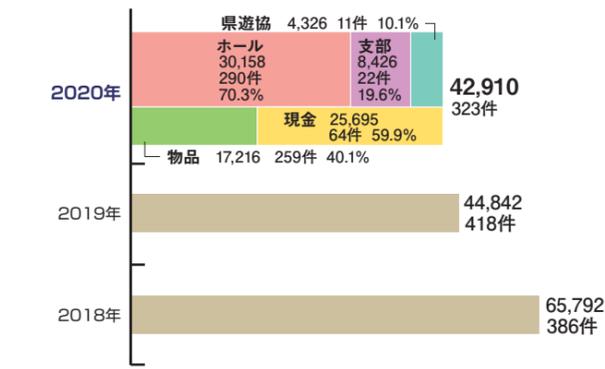
豪雨の災害ごみの仮置き場としてホール駐車場を提供【写真③】

## DATA

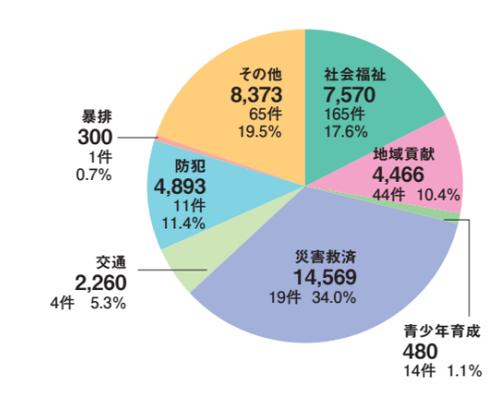
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



# 大分県 大分県遊技業協同組合



木下哲二 理事長

## ■県遊協

- 大分県医師会にマスク3万枚を寄贈【写真①】
- 大分県警察本部に特殊詐欺撃退防犯機器（電話タイプ）101台や音響機器（特殊詐欺撃退防犯）を寄贈【写真②】
- 大分県福祉保健企画課に令和2年7月大分県豪雨災害義援金を寄付【写真③】

## ■支部

- 公益財団法人大分県防犯協会や大分市暴力絶滅協議会等に賛助金を寄贈（大分市遊技業防犯組合）
- 中津地区少年警察ボランティアや大分県防犯協会等に寄付（中津市遊技場組合）

## ■ホール

- 玖珠町役場にマスク2,500枚を寄贈（クラブハウス玖珠支店）
- 児童福祉施設の子どもたち全員に3,000円以内の希望の品を募りプレゼント（セントラルパーク大分本店）
- 児童福祉施設にお菓子を寄贈（パチンコ湖月南大分店・パチンコ湖月下郡店・エーワン王子店・バーラーウィング）



大分県医師会にマスクを寄贈【写真①】



特殊詐欺撃退防犯機器の寄贈に対し感謝状を受領【写真②】



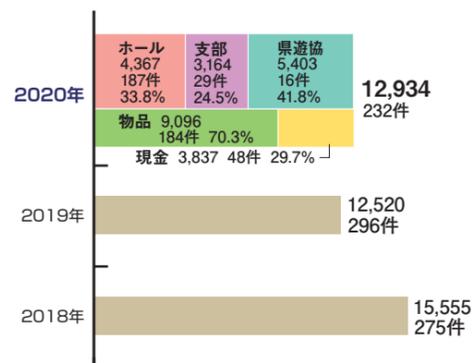
大分県豪雨災害義援金を寄付【写真③】

## DATA

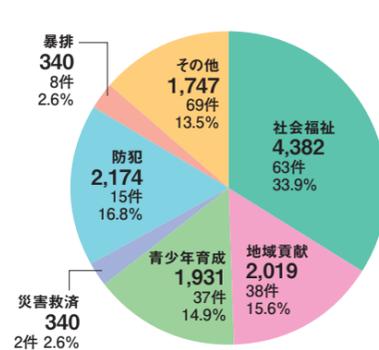
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



# 宮崎県 宮崎県遊技業協同組合



岩下政稔 理事長

## ■県遊協

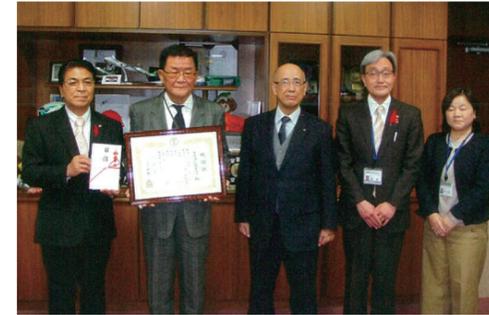
- 宮崎県共同募金会に豪雨災害義援金として300万円を寄付【写真①】
- 日本赤十字社に台風災害義援金を寄付
- 首里城復旧・復興支援募金活動事務局、宮崎県共同募金会に寄付

## ■支部

- 日向市社会福祉協議会のフードバンク事業に食料品や飲料を寄贈（日向地区遊技業組合）
- 都城地区地域安全協会に防犯ワイヤーロックを寄贈（都城地区遊技業組合）【写真②】
- 高齢者福祉施設37カ所に野菜ジュース、お菓子を寄贈（宮崎地区遊技業組合）【写真③】

## ■ホール

- 延岡市、日向市、門川町、椎葉村、諸塚村、美郷町に交通安全と事故防止のためランドセルカバーを寄贈（株式会社西の丸）
- 児童福祉施設に対しDVDプレイヤー等を寄贈（ASTY都城店）
- 児童福祉施設やフードバンクにお菓子を寄贈（まるみつ日向店・ユーコーラッキー宮崎店・ユーコーラッキー都城店・ユーコーラッキー小林店等）



宮崎県共同募金会に寄付【写真①】



防犯ワイヤーロックを寄贈【写真②】



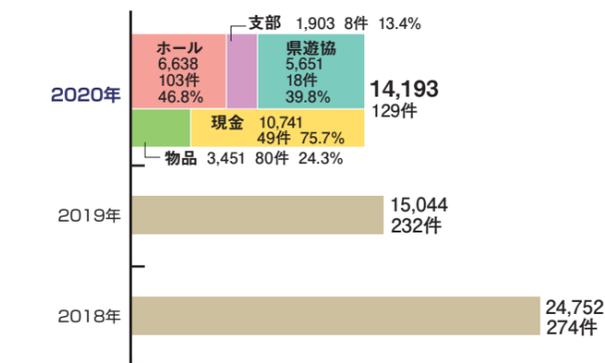
野菜ジュース、お菓子を寄贈【写真③】

## DATA

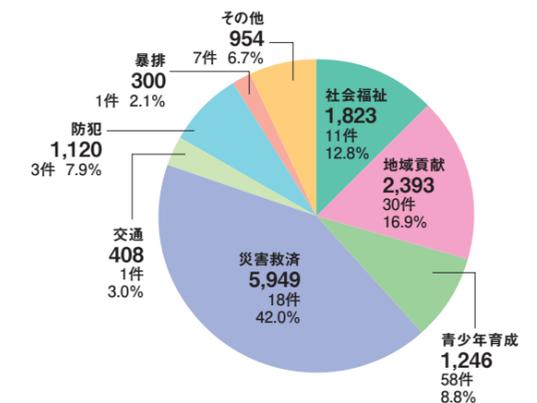
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）





正 吉浩 理事長

## ■県遊協

- 交通事故で親を亡くした交通遺児への援護事業支援として、鹿児島県交通被災者たすけあい協会に128万円を寄付
- 児童福祉施設にクリスマスプレゼントとして、会議・作業用長机を寄贈
- 県内の青色パトロール隊へ燃料費を支援 [写真①]

## ■支部

- 鹿児島県暴力追放運動推進センターに寄付（鹿児島市遊技事業組合）

## ■ホール

- 日本赤十字社に協力し、ホール駐車場にて献血活動を実施（株式会社丸榮・有限会社丸商）
- 児童福祉施設にお菓子を寄贈（ユーコーラッキー鹿児島新栄店・まるみつ始良店等）
- 日本赤十字社に熊本震災義援金、八代市豪雨災害義援金を寄付（がちゃぼん天文館千日店）
- 児童福祉施設にDVDプレイヤー、文具、スポーツ用品等を寄贈（木村商事）



青色パトロール隊へ燃料費を支援 [写真①]



眞嗣正 理事長

## ■県遊協

- 福祉活動を始め、スポーツ、学術、文化、研究事業、コミュニティ強化等を行う団体に助成金を贈呈 [写真①]
- チャリティゴルフコンペを開催し、収益金は子どもを支援するNPO団体、子育て世帯に支援金を給付する沖縄子ども未来プロジェクトに寄付 [写真②]

## ■ホール

- 沖縄県内で活動しているNPO法人やボランティア団体等に寄付（株式会社サンシャイン） [写真③]
- 児童福祉施設や社会福祉協議会にお菓子、食料品を寄贈（マルシンV1・セブン浦添・セブン石川・ピータイムII・ピータイムおもしろ・ピータイム久米島・ファラオ・イースペースと那原等）



スポーツ、学術、文化、研究事業、コミュニティ強化等を行う団体を助成 [写真①]



沖縄子ども未来プロジェクトに寄付 [写真②]



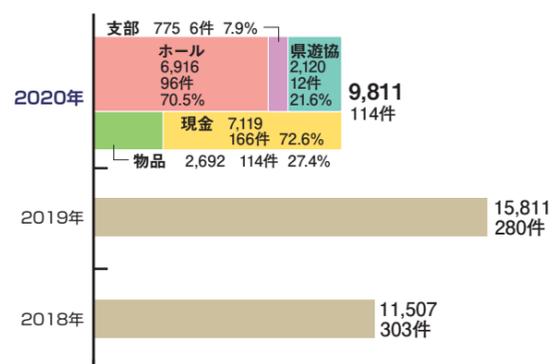
NPO法人やボランティア団体に寄付 [写真③]

## DATA

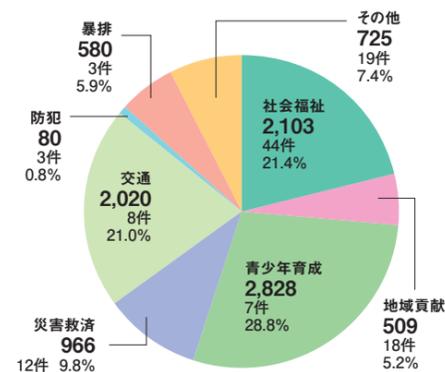
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）

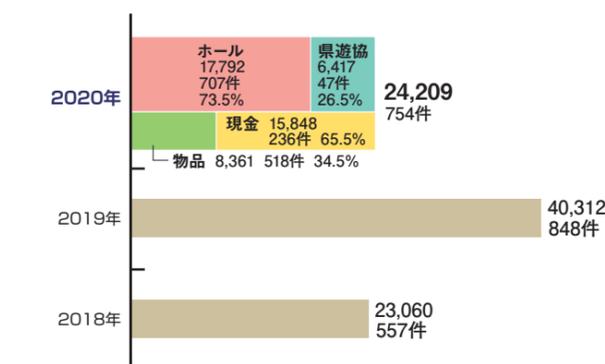


## DATA

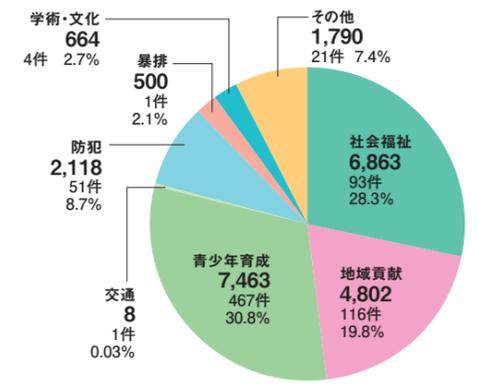
※物品は現金換算した金額です。  
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

### ■年別拠出額と拠出件数及び拠出元別拠出額と割合（単位：千円）

#### ■2020年現金・物品の割合（単位：千円）



### ■2020年分野別、拠出額と割合（単位：千円）



# 賛助会員一覧 (2021年7月1日現在)

## 株式会社ロッテ

【担当者連絡先】  
 担当部署：広報部  
 住 所：〒160-0023  
 東京都新宿区西新宿3-20-1  
 電 話：03-5388-5694  
<http://www.lotte.co.jp/>

## J-NET株式会社

【担当者連絡先】  
 担当部署：経営企画本部  
 住 所：〒110-0015  
 東京都台東区東上野2-24-1 トータテ上野ビル  
 電 話：03-5818-7743  
<http://www.j-net-sys.co.jp>

## 株式会社ヤクルト本社

【担当者連絡先】  
 担当部署：直販営業部  
 住 所：〒105-8660  
 東京都港区東新橋1-1-19  
 電 話：03-3574-8946  
<http://www.yakult.co.jp>

## 株式会社そごう・西武

【担当者連絡先】  
 担当部署：商事事業部  
 住 所：〒102-0084  
 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル8階  
 電 話：03-6272-7643  
<http://www.sogo-seibu.co.jp>

## ぺんてる株式会社

【担当者連絡先】  
 担当部署：東京営業部  
 住 所：〒101-0032  
 東京都千代田区岩本町3-6-10  
 電 話：03-3866-6208  
<http://www.pentel.co.jp>

# POSCの活動この1年

(2020年1月～12月の主な活動)

## 1月

■2019年度第1回常任幹事会を開催

## 3月

■2019年度第2回理事会(書面)

- ①議長代行について
- ②顧問・参与の選任について
- ③委員会の設置について
- ④社会貢献大賞審査委員会細則について
- ⑤社会貢献審査委員の選任について
- ⑥助成事業運営細則について
- ⑦2020年度助成事業の選考について
- ⑧経理規定について
- ⑨協賛パートナーについて

■2019年度第2回常任幹事会を開催

## 4月

■監事会を開催

■社会貢献大賞審査委員会(書面)

■2020年度第1回理事会(書面)

- ①2019年度事業・決算報告について
- ②2020年度事業計画(案)について
- ③2020年度収支予算案について
- ④第15回社会貢献大賞の審査結果について報告

## 6月

■2020年度通常総会(書面)

- ①社員の経費負担について
- ②常勤理事の報酬について
- ③2019年度決算について
- ④理事の選任について
- ⑤非常勤役員報酬規程について

■第1回常任幹事会を開催

## 7月

■社会貢献大賞・都府県方面部門表彰式を開催

■社会貢献活動年間報告書「AJOSC's 2019」を  
発行

■第2回理事会(書面)

- ①常任幹事の選任について

## 9月

■第2回常任幹事会を開催

## 11月

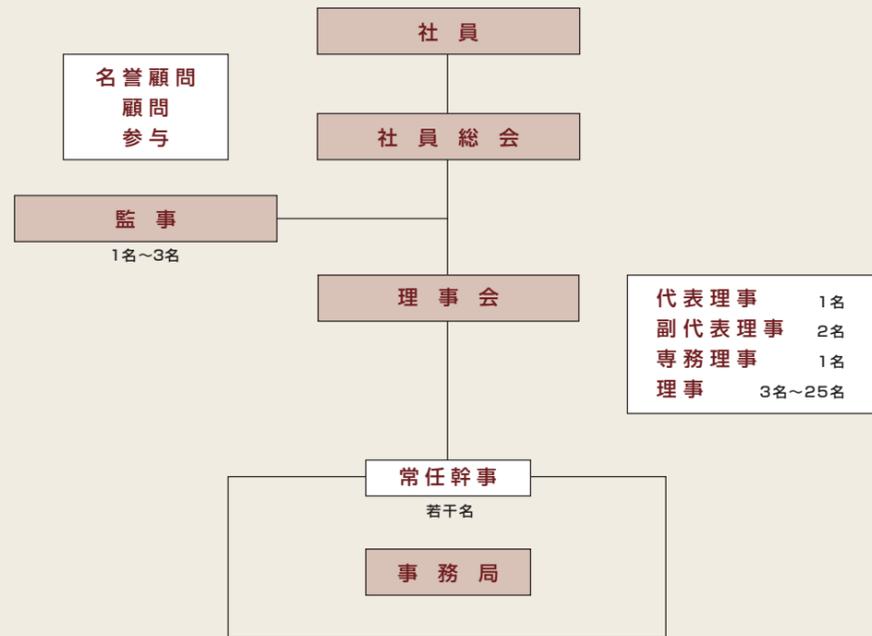
■第3回常任幹事会を開催

## 12月

■2020年社会貢献、社会還元の実施調査



一般社団法人 パチンコ・パチスロ社会貢献機構 組織図



役員 [2021年7月1日現在]

■代表理事



宮田 亮平  
前文化庁長官

■副代表理事



野口 昇  
日本ユネスコ協会連盟  
顧問

■名誉顧問



杉浦 正健  
弁護士  
元法務大臣



阿部 恭久  
全日遊連 理事長

■顧問



野沢 太三  
全国保護司連盟 理事長  
元法務大臣

■専務理事



廣田 卓也  
元NHK 松山放送局 副局長

■理事



赤松 広隆  
衆議院議員  
衆議院 副議長



上野 公成  
都市再生研究所 理事長  
元参議院議員



田中 哲二  
中国研究所 会長  
中央アジア研究所 所長  
元日本銀行 参事



永井 多恵子  
国際演劇協会 会長



松尾 守人  
パシフィック野球連盟 参与  
元ロッテ 常務取締役



脇田 直枝  
W.N コミュニケーションズ 代表



太田 裕之  
全日遊連 専務理事



松尾 道彦  
全日遊連 副理事長

■監事



高橋 孝一郎  
全日遊連 顧問税理士



原 一夫  
税理士

■参与

安井 康雄  
元全日本社会貢献団体機構 専務理事

山下 頼充

元全日本社会貢献団体機構 専務理事

■常任幹事

川北 秀人  
人と組織と地球のための国際研究所 代表者

榊原 光裕

元全日本社会貢献団体機構 専務理事

進藤 勇治

元通産省企画官

玉井 賢二

平山郁夫シルクロード美術館 副理事長

星野 謙

全日遊連 副理事長

松尾 道彦

機構 理事

標原 克弘

全日遊連 事務局長

毛利 秀美

機構 事務局長

■事務局

事務局長

毛利 秀美

元NHK 部長

# 一般社団法人 パチンコ・パチスロ社会貢献機構 定款

第1条 (名称)	第1章 総則 当法人は、一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構（以下「機構」という。）と称する。英文ではPachinko-Pachislot Organization of Social Contribution とし、略称を POSC と表示する。																																																												
第2条 (主たる事務所の所在地)	機構の主たる事務所は、東京都新宿区に置く。																																																												
第3条 (目的)	機構は、社会貢献事業が社会を支える極めて重要な活動であるとの観点に立ち、遊技産業（風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律第2条第1項第4号に規定する営業（ぱちんこ屋及び同法施行令第8条に規定する営業に限る。）及び当該営業に関係する事業をいう。以下同じ。）並びに公的機関及び民間団体と連携しながら、文化及び芸術の振興、平和で住みよい社会づくり並びにパチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む民間団体及び研究機関に対する支援などの社会貢献活動を推進することを目的とする。																																																												
第4条 (事業)	機構は、前条に定める目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。 (1) 民間団体及び研究機関（本条において、以下「民間団体等」という。）が行う活動及び研究（本条において、以下「活動等」という。）に対する助成 (2) 民間団体等が行う活動等に対する顕彰 (3) 民間団体等が行う活動等の現状と今後の可能性を考えるフォーラム等の開催 (4) 前3号の事業その他の機構が推進する社会貢献活動に関する報告書の作成及び配布その他広報活動の推進 (5) その他機構の目的を達成するために必要な事業																																																												
第5条 (公告の方法)	機構の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法で行う。																																																												
第6条 (社員資格と入社)	第2章 社員 遊技産業に関係する団体が機構の目的に賛同する者は、理事会の議決を経て、機構の社員となることができる。																																																												
第7条 (経費の負担)	(1) 社員は、機構を運営するために必要な経費を支払わなければならない。 (2) 社員が支払う経費の額は、社員総会の決議により定める。																																																												
第8条 (社員の退社)	(1) 社員は、3か月前までに退社届を提出することによって、任意に機構を退社することができる。 (2) 社員は、退社届の提出後においても、退社の時まで前条に定める経費の支払い義務を負うものとする。 (3) 社員は、第1項に定める場合のほか、次の各号に掲げる事由により当然に退社する。 ①破産、民事再生又は会社更生等の法的倒産手続開始の申立てがあったこと ②前条に定める経費の支払いを6か月以上滞納し、催告にもかかわらず支払わなかったこと ③総社員の同意 ④解散 ⑤除名																																																												
第9条 (社員の除名)	(1) 社員が次の各号に掲げる事由の一に該当する場合は、総社員の半数以上であって、総社員の議決権の3分の2以上の議決権を有する者の賛成を得た社員総会の決議により除名することができる。 ①機構の名誉を毀損し、又は機構の目的に反する行為をしたとき ②機構の定款又は社員総会の決議に違反する行為をしたとき (2) 前項の定めにより社員を除名する場合には、機構は、当該社員に対し、除名の決議を行う社員総会の日から1週間前までにその旨を通知し、かつ、当該社員総会において弁明の機会を与えなければならない。																																																												
第10条 (社員総会)	第3章 社員総会 (1) 社員総会は、定時社員総会及び臨時社員総会とし、いずれもすべての社員をもって構成する。 (2) 定時社員総会は毎年6月に開催し、臨時社員総会は必要に応じて開催するものとする。 (3) 社員総会の開催は理事会において決定し、代表理事が招集する。 (4) 社員総会を招集するときは、開催日の14日前までに、各社員に対し、開催日時、場所及び議題を記載した書面又は電磁的方法によって通知を発しなければならない。																																																												
第11条 (議長)	(1) 社員総会の議長は、代表理事がこれを行う。 (2) 代表理事に事故があるときは、あらかじめ理事会の定める順序により、他の理事がこれを行う。																																																												
第12条 (決議の方法)	(1) 社員総会の議事は、法令又は定款に別段の定めがある場合を除き、総社員の議決権の過半数を有する社員が出席し、出席した社員の議決権の過半数をもって決する。 (2) 理事又は社員が社員総会の目的である事項について提案をした場合において、当該提案につき社員の全員が書面又は電磁的方法によって同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなす。																																																												
第13条 (議決権)	社員の議決権の個数は、社員総会の決議により定める当該事業年度の経費負担の割合（当該事業年度の経費負担の割合に関する社員総会の決議がない場合には、前事業年度における割合とする。）に応じて次のとおりとする。ただし、設立後、経費負担の割合に関する決議がなされるまでに開催される社員総会においては、社員は各1個の議決権を有するものとする。 <table border="1"> <tr> <td>経費負担の割合が 0% を超え</td> <td>5% 未満の場合</td> <td>1 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 5% 以上で</td> <td>10% 未満の場合</td> <td>2 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 10% 以上で</td> <td>15% 未満の場合</td> <td>3 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 15% 以上で</td> <td>20% 未満の場合</td> <td>4 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 20% 以上で</td> <td>25% 未満の場合</td> <td>5 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 25% 以上で</td> <td>30% 未満の場合</td> <td>6 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 30% 以上で</td> <td>35% 未満の場合</td> <td>7 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 35% 以上で</td> <td>40% 未満の場合</td> <td>8 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 40% 以上で</td> <td>45% 未満の場合</td> <td>9 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 45% 以上で</td> <td>50% 未満の場合</td> <td>10 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 50% 以上で</td> <td>55% 未満の場合</td> <td>11 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 55% 以上で</td> <td>60% 未満の場合</td> <td>12 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 60% 以上で</td> <td>65% 未満の場合</td> <td>13 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 65% 以上で</td> <td>70% 未満の場合</td> <td>14 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 70% 以上で</td> <td>75% 未満の場合</td> <td>15 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 75% 以上で</td> <td>80% 未満の場合</td> <td>16 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 80% 以上で</td> <td>85% 未満の場合</td> <td>17 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 85% 以上で</td> <td>90% 未満の場合</td> <td>18 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 90% 以上で</td> <td>95% 未満の場合</td> <td>19 個</td> </tr> <tr> <td>経費負担の割合が 95% 以上で</td> <td>100% 未満の場合</td> <td>20 個</td> </tr> </table>	経費負担の割合が 0% を超え	5% 未満の場合	1 個	経費負担の割合が 5% 以上で	10% 未満の場合	2 個	経費負担の割合が 10% 以上で	15% 未満の場合	3 個	経費負担の割合が 15% 以上で	20% 未満の場合	4 個	経費負担の割合が 20% 以上で	25% 未満の場合	5 個	経費負担の割合が 25% 以上で	30% 未満の場合	6 個	経費負担の割合が 30% 以上で	35% 未満の場合	7 個	経費負担の割合が 35% 以上で	40% 未満の場合	8 個	経費負担の割合が 40% 以上で	45% 未満の場合	9 個	経費負担の割合が 45% 以上で	50% 未満の場合	10 個	経費負担の割合が 50% 以上で	55% 未満の場合	11 個	経費負担の割合が 55% 以上で	60% 未満の場合	12 個	経費負担の割合が 60% 以上で	65% 未満の場合	13 個	経費負担の割合が 65% 以上で	70% 未満の場合	14 個	経費負担の割合が 70% 以上で	75% 未満の場合	15 個	経費負担の割合が 75% 以上で	80% 未満の場合	16 個	経費負担の割合が 80% 以上で	85% 未満の場合	17 個	経費負担の割合が 85% 以上で	90% 未満の場合	18 個	経費負担の割合が 90% 以上で	95% 未満の場合	19 個	経費負担の割合が 95% 以上で	100% 未満の場合	20 個
経費負担の割合が 0% を超え	5% 未満の場合	1 個																																																											
経費負担の割合が 5% 以上で	10% 未満の場合	2 個																																																											
経費負担の割合が 10% 以上で	15% 未満の場合	3 個																																																											
経費負担の割合が 15% 以上で	20% 未満の場合	4 個																																																											
経費負担の割合が 20% 以上で	25% 未満の場合	5 個																																																											
経費負担の割合が 25% 以上で	30% 未満の場合	6 個																																																											
経費負担の割合が 30% 以上で	35% 未満の場合	7 個																																																											
経費負担の割合が 35% 以上で	40% 未満の場合	8 個																																																											
経費負担の割合が 40% 以上で	45% 未満の場合	9 個																																																											
経費負担の割合が 45% 以上で	50% 未満の場合	10 個																																																											
経費負担の割合が 50% 以上で	55% 未満の場合	11 個																																																											
経費負担の割合が 55% 以上で	60% 未満の場合	12 個																																																											
経費負担の割合が 60% 以上で	65% 未満の場合	13 個																																																											
経費負担の割合が 65% 以上で	70% 未満の場合	14 個																																																											
経費負担の割合が 70% 以上で	75% 未満の場合	15 個																																																											
経費負担の割合が 75% 以上で	80% 未満の場合	16 個																																																											
経費負担の割合が 80% 以上で	85% 未満の場合	17 個																																																											
経費負担の割合が 85% 以上で	90% 未満の場合	18 個																																																											
経費負担の割合が 90% 以上で	95% 未満の場合	19 個																																																											
経費負担の割合が 95% 以上で	100% 未満の場合	20 個																																																											

第14条 (役員)	第4章 役員 機構に次の各号に掲げる役員を置く。 ①代表理事1名 ②副代表理事2名 ③専務理事1名 ④理事3名以上25名以内（代表理事、副代表理事及び専務理事である理事を含む。） ⑤監事1名以上3名以内
第15条 (選任)	(1) 理事及び監事は、社員総会において選任する。 (2) 代表理事、副代表理事及び専務理事は、理事の中から理事会において選定する。
第16条 (職務)	(1) 代表理事は、機構を代表し、機構の業務を執行するものとし、当該自己の職務の執行状況を毎事業年度に4か月を超える間隔で2回以上の頻度で理事会に報告しなければならない。 (2) 副代表理事は、代表理事を補佐し、代表理事に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を代行する。 (3) 専務理事は、代表理事を補佐して機構の業務を執行する。
第17条 (任期)	(1) 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。 (2) 補欠又は増員による理事の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。 (3) 補欠による監事の任期は、前任者の残任期間とする。 (4) 理事及び監事は、再任することができる。 (5) 理事及び監事は、辞任し、又はその任期が満了した場合においても、後任者が就任するまでの間は、従前の職務を行わなければならない。
第18条 (報酬)	理事及び監事の報酬は、社員総会の決議により定める。
第19条 (理事会の設置、構成及び開催)	第5章 理事会 (1) 機構に理事会を置く。 (2) 理事会は、すべての理事をもって構成する。 (3) 理事会は、毎事業年度に4か月を超える間隔で2回以上の頻度で開催しなければならない。
第20条 (招集)	(1) 理事会は、代表理事が招集する。 (2) 理事会を招集するときは、開催日の7日前までに、各理事及び監事に対し、開催日時、場所及び議題を記載した書面又は電磁的方法によって通知を発しなければならない。
第21条 (議長)	(1) 理事会の議長は、代表理事がこれを行う。 (2) 代表理事に事故があるときは、あらかじめ理事会の定める順序により、他の理事がこれを行う。
第22条 (決議の方法)	(1) 理事会の議事は、議決に加わることができる理事の過半数が出席し、出席した理事の過半数をもって決する。 (2) 理事が理事会の議決の目的である事項について提案をした場合において、当該提案につき理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的方法によって同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。
第23条 (議事録)	理事会の議事については、書面をもって議事録を作成し、代表理事及び監事は、これに署名し、又は記名押印しなければならない。
第24条 (事業年度)	第6章 計算等 機構の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。
第25条 (計算書類等)	代表理事は、毎事業年度終了後3か月以内に、計算書類及び事業報告並びにこれらの附属明細書を作成し、監事の監査を受け、理事会の承認後、定時社員総会の承認を受けなければならない。
第26条 (剰余金の分配)	機構は、剰余金の分配を行わない。
第27条 (残余財産の帰属)	機構が解散した場合における残余財産は、国若しくは地方公共団体又は公益社団法人、公益財団法人若しくは公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号イからトまでに掲げる法人に帰属させる。
第28条 (細則)	第7章 その他 この定款に定めるもののほか、機構の業務を執行するために必要となる事項は、理事会の議決を経て、代表理事が定める。
第1条 (最初の事業年度)	付 則 機構の最初の事業年度は、機構成立の日から2020年3月31日までとする。
第2条 (設立時の役員)	(1) 機構の設立時の理事は、次に掲げるとおりとする。 赤松広隆 阿部恭久 上野公成 大野春光 小野良樹 末松信介 杉浦正健 田中哲二 永井多恵子 野口 昇 廣田卓也 松尾道彦 松尾守人 吉田雅巳 脇田直枝 (2) 機構の設立時の監事は、次に掲げるとおりとする。 霜島 敦 高橋孝一郎 原 一夫 (3) 機構の設立時の代表理事は、次に掲げるとおりとする。 杉浦正健 (4) 機構の設立時の副代表理事は、次に掲げるとおりとする。 阿部恭久 野口 昇 (5) 機構の設立時の専務理事は、次に掲げるとおりとする。 廣田卓也
第3条 (設立時の社員)	機構の設立時の社員は、次に掲げるとおりとする。 (1) 東京都新宿区市ヶ谷左内町8番地 全日本遊技事業協同組合連合会 (2) 東京都新宿区市ヶ谷左内町8番地 全日本遊技事業防犯協力会連合会

## 編集後記

### 「POSC's 2020 社会貢献活動年間報告書」の発行にあたって

2019年11月組織改組により、一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構として初めての発刊となる「POSC's 2020社会貢献活動年間報告書」をお届けします。この報告書は、2020年1月から12月までの一年間に当機構と遊技業界の皆さんが実施した社会貢献活動をとりとめたものです。

2020年は、東京オリンピック・パラリンピック開催という歴史的な年になる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により2021年へ延期となりました。オリンピック直前となる2021年6月時点でも3度目の「緊急事態宣言」が発出されており、無事に開催されるか予想できません。ワクチン接種も始まっていますが、まだまだ収束するには時間が必要です。

「POSC's 2020社会貢献活動年間報告書」は、『「継続そして前進」～依存問題への正しい理解と適切な支援～』をテーマに編集しました。POSCは、助成事業の重要な位置付けとして依存問題の予防と解決に取り組む事業・研究への支援を行っております。今後も継続して

支援を行っていくことが、遊技業界にとって社会的責務のひとつでもあります。

2020年は新型コロナウイルスの影響で遊技業界にも、様々な影響が発生し経営的に厳しい状況にありました。そのような状況下でも医療機関などへの防護服・マスク支援を始め、子ども食堂など地域への社会貢献活動やボランティア活動に精力的に取り組み、地域に根ざした企業として社会にその存在感を高めています。

今年もフルページ版はHPに掲載いたしますが、より簡便なダイジェスト版は、全国の図書館、自治体、警察、経済界など各方面にお送りします。当機構や遊技業界の社会貢献活動への理解を深めていただく一助になればと願っています。

2021年7月吉日  
一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構  
事務局長 毛利秀美

POSC (Pachinko-Pachislot Organization of Social Contribution の略称です)

社会貢献活動年間報告書2020

■発行日:2021年7月30日

■編集・発行:一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構

〒162-0844 東京都新宿区市谷八幡町16市ヶ谷見附ハイム103

<http://www.posc.or.jp>

■編集協力:株式会社 計画制作社